

國 際 月 報

十二月號

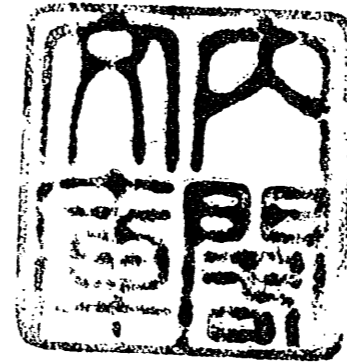
昭和十七年十二月二十日發行

319
323

24 情 報 局 編 輯



内閣文庫
八九五〇四号
和書
冊



319
323

國際月報 第二十四號 昭和十七年十二月 目次

〔卷頭言〕 大東亞戰爭一周年を迎へて

日華基本條約締結及日滿華共同宣言成立二周年記念日に於ける東條内閣總理大臣放送……………二四

日華基本條約締結及日滿華共同宣言成立二周年に關する國民政府蔣外交部長宛谷外務大臣祝電……………三

日華基本條約日滿華共同宣言二周年記念日に於ける谷外務大臣祝詞……………四

最近の國際情勢(所謂米英の反攻作戰)——堀情報局第三部長放送講演——……………五

智利國最近の動向に關する堀情報局第三部長談……………一四

タイ國水害に對する帝國政府救恤に關する情報局發表……………一六

英國俘虜取扱に關する外務當局談……………一六

米加兩國政府の在留邦人取扱振に對する抗議に關する外務當局談……………一七

日米交渉の経緯——來栖大使講演——……………一八

防共協定締結六周年記念日に於ける堀情報局第三部長談……………三二

—(1)—

- 大東亞戦争陸軍關係総合戦況に関する大本營陸軍報道部長談……………三三
- 帝國海軍部隊の七月以降敵潜水艦、船舶撃沈數に関する大本營發表……………三七
- アリユーシヤシ方面陸海軍戦果に関する大本營發表……………三七
- ガダルカナル島戦果に関する大本營發表……………三八
- 南太平洋海戦戦果に関する大本營發表(詳報)……………三九
- 第三次ソロモン海戦戦果に関する大本營發表……………四〇
- 第三次ソロモン海戦戦果に関する大本營發表(詳報)……………四二

國際時報

- 米英軍佛領北阿進駐の概況……………四三
- 北阿戦線に活躍する列國將星の風貌……………四八
- ダルラン、ド・ゴール兩佛僑僱政權の對立……………五三
- 英内閣の改造とクリツプスの左遷……………五六
- 世界各國物價騰貴率……………六〇
- 米英艦力に関する兩國輿論の傾向調査表……………六〇

- 米國財政經濟狀況一覽表……………六一
- 米國中間選舉とその政治的意義……………六六
- アルゼンチン及びチリーの中立維持と米國の策動……………七〇

各國動向

- 【米國】
- 軍事——
- 第三次ソロモン海戦米海軍省發表……………七六
- 日本海軍ハワイ強襲を軍事當局危惧……………七六
- 米軍フィジー群島防衛擔當……………七六
- アラスカ軍事公路開通式舉行……………七七
- 米軍佛領北阿進駐陸軍省發表……………七七
- 北阿佛軍將士に對する米軍總司令官布告……………七七
- 佛領北阿進駐に関する
 - ルーズヴェルト大統領聲明……………七八
 - 米佛休戰と北阿新政權樹立……………七九
 - 佛領北阿新政權樹立に関する
 - ルーズヴェルト大統領談……………七九
 - 大統領北阿に物資送附を命令……………七九
 - 佛領北阿進駐初期の米軍損害……………八〇
 - 開戦以來の陸海軍兵力損失……………八〇
 - 陸海兩省同一廳舎内で執務……………八〇

陸軍人事異動	八〇	外 交	
海軍人事異動	八一	西葡兩國の領土權益保障	八六
在華府聯合國戰爭機構の構成及權限	八一	米佛國交斷絶に關する	八六
南米諸國を軍事基地に利用	八二	ルーズヴェルト大統領談	八六
滑空機隊員大量養成	八二	駐米佛國大使以下抑留	八六
本年中新設師團數	八二	佛本土に戰時敵國取締令適用	八七
明後年初頭米軍兵力九百七十萬	八三	佛領西印度諸島と新協定締結	八七
ルーズヴェルト大統領演明	八三	チリ大統領の訪米を再勸説	八七
徵兵年齢低下法案成立	八三	中南米諸國との親善強化に努力	八七
徵兵年齢低下適齡者登録布告	八三	米墨幹線鐵道を修理	八八
沿岸警備隊に女子徵用	八四	ハレーイ特使モスコに着	八八
重爆撃機米印間を六十七時間で空輸	八四	米蘇親善大會	八八
空母増強の爲建艦計畫變更	八四	石油精製所を蘇聯へ輸出	八八
艦艇建造日數短縮	八四	ルーズヴェルト夫人歸國	八八
建造中の艦船一萬四千九百九十二隻	八五	一般	八八
大統領武器貸與狀況發表	八五	中間選舉開票成績	八九

全面的戰時生産の障害を除去	八九	飛行機生産を一年以内に倍加	九五
大統領議會に要請	八九	政府戰爭遂行方針絶對支持	九五
休戰記念日大統領宣言	九〇	CIO年次大會決議	九六
休戰記念日大統領演説	九〇	食糧問題深刻	九六
大統領國民の樂觀行過ぎを戒む	九〇	九月中の農産物對聯合國貨與額	九七
大統領開戰當日を沈黙日に指定	九一	西北部乾燥食糧生産	九七
佛領北阿進駐に輿論熱狂	九一	玉蜀黍收穫豫想	九八
タイムス紙大統領を賞讃	九二	第三回米棉收穫公報	九八
株式市場戰局樂觀	九二	コーヒー割當制	九九
戰費二百億弗を突破	九二	民需肉類割當を更に削減	九九
軍費膨脹で非軍事費支出に大削減	九三	剃刀の刃も統制	一〇〇
九十億弗新起債開始	九三	送油管を大西洋岸に延長	一〇〇
戰爭の諸工業に及した影響	九四	ガソリン割當制を全國に擴大	一〇〇
十月中の米國破産件數	九四	九月中の對外貿易	一〇〇
上半期米國軍需生産實績	九五	船舶狀況好轉	一〇一
ネルソン戰時生産局長官發表	九五	擊沈船舶五百七十二隻	一〇一

商船乗組員の損失	一〇一
米海運能率上らず	一〇二
中央政府官吏總數四百萬	一〇二
放送局接收	一〇二
布哇在留邦人を米本土へ移送	一〇三
有力誌編輯者發表の對日嫌和條件	一〇三
西地中海に機雷敷設	一〇五
英空軍の首腦部更迭	一〇六
チャーチル首相戦局好轉を揚言	一〇六
西葡兩國の領土權益保障	一〇六
リットルトン、米大統領と會談	一〇七
重慶駐在軍事代表團長赴任	一〇七
英議會派遣使節團重慶着	一〇七
對蘇援助内容發表	一〇八

— 外 交 —

【英國】

— 軍 事 —

英帝、中東軍司令官に戰勝祝電	一〇四
チャーチル首相戰況報告演說	一〇四
北阿護送艦隊司令長官はカニンガム	一〇五
北阿上陸英國第一軍司令官任命	一〇五
主目標はビゼルト軍港	一〇五
下院議員大規模對伊空襲を要請	一〇五
内閣改造發表	一〇八
英國戰時經濟政策	一〇八
英國戰時財政の弱點	一〇九
食糧難深刻化を豫想	一一一
野菜配給統制擴大	一一一
物價管理強化	一一二

— 一 般 —

内相戰時生産狀況を誇示	一一二
炭坑夫の怠業増加	一一三
昨年中の英國工場事故	一一三
英本土爆撃狀況	一一四
空襲による家屋被害狀況	一一四
海保料率引上	一一四
戰爭中止を英國國民に勸告	一一五
— 印度事務相子息放送 —	一一五
イーデン外相の日本撃滅論	一一五
ゲツベルス宣傳相演說	一二三
リビア方面戰線整理	一二四
ツーロン進駐に關するベタン元帥宛總統書翰	一二四
ツーロン進駐に關する獨軍司令官公報	一二九
ツーロン進駐に關する獨軍當局見解	一三〇
獨逸特殊商業學校開校	一三一
生活費指數	一三一
國民にクリスマスの贈物	一三一
蘇聯勞働者を導入	一三一
防共協定締結記念日獨紙論調	一三二

【伊太利】

佛非占領地域進駐政府發表	一三三
十月中の伊軍損害	一三四
聯合國輸送船八十九隻を撃沈破	一三四
宣傳相對米決戰言明	一三四

【獨逸】	
ミュンヘン殉難記念日に於ける	
ヒットラー總統演說要旨	一一六
ベタン元帥宛ヒットラー總統書翰全文	一一九
佛國軍民に對するヒ總統聲明書全文	一二一
獨軍司令官佛非占領地帶進駐公表	一二三

樞軸三國協同して米英を打破せん

——ガイダ主筆論説——……………一三五
生糸統制令公布……………一三六

【蘇聯邦】

國家非常委員會設置……………一三七
スターリン議長革命記念日演説……………一三七
米英佛領北阿上陸に對する
 ——スタールン議長見解……………一三八
北阿戦局蘇紙論調……………一三八

赤軍反攻開始……………一三九
蘇墨外交關係回復……………一三九
宗教政策の轉向……………一三九

【佛蘭西】

マダガスカル島降伏……………一四〇
米英軍佛領北阿上陸政府發表……………一四〇

ベタン元帥對米通牒……………一四〇

對米國交斷絶……………一四一

ベタン元帥三軍を統帥……………一四一

ベタン元帥國民を激勵……………一四二

ラヴァル政府主席獨總統訪問……………一四二

ツローン軍港を「特別區域」に指定……………一四二

ダルラン提督は叛逆者と決定……………一四二

ジロー將軍の賣國的行為に加擔するな
 ——ベタン元帥全軍布告——……………一四三

在郷軍人會長忠誠を誓ふ……………一四三

ラヴァル政府主席に國政の全權を委任
 内閣改造……………一四三

對樞軸提携を強調
 ——ラヴァル政府主席演説——……………一四四

宣傳機構改組……………一四六

海相佛國艦隊司令長官を兼任……………一四六

「中國救済の日近し」

——汪主席武漢放送——……………一五一

「日華基本關係條約と大東亞戰爭」
 ——汪主席全國民に對し聲明——……………一五三

「世界戰爭と東亞軸心」
 ——諸外交部長放送——……………一五七

防共協定一周年に際する諸外交部長談……………一五八

中央物價對策委員會……………一五九

【重慶政權】

十中全會概況……………一五九

邵力子駐蘇大使歸着……………一六〇

宋子文訪米英の意圖言明……………一六〇

宋美齡渡米入院……………一六一

董宣傳副部長渡米……………一六一

外人の行動取締強化……………一六一

在ツローン佛國艦隊自沈……………一四六
武裝解除願調に進む……………一四七
亞港佛艦隊對英協力を拒否……………一四七
佛領西印度諸島靜穩……………一四七
西印度諸島佛當局發表……………一四七
英軍レユニオン島に不法上陸……………一四八
レユニオン島總督降伏勸告拒否……………一四八

【滿洲國】

國民勤勞奉公法公布……………一四九
食糧基地たる眞面目を發揮
 ——張國務總理談——……………一四九

事業統制組合法公布……………一五〇

邢治安部大臣華北へ答禮……………一五〇

初代駐泰公使バンコック着……………一五〇

【中華民國】

【佛印】

ドクレー總督メツセーヂ……………一六二
 ドクレー總督報告……………一六二
 佛印の方針不動……………一六四
 —ドクレー總督再聲明—……………一六四
 ド・ゴール派並にダラン派を檢舉……………一六四
 總督、佛印艦隊の信頼を深謝……………一六四

【泰國】

水害救恤に泰國朝野感謝……………一六五
 明年度豫算提出……………一六六

【ビルマ】

ドバマ・シンエサ聯盟結成……………一六七
 復興事業計畫發表……………一六八
 バ・モ長官候補生を激勵……………一七〇

鐵道六支線復活……………一七〇

【印度】

印度人側唯一の政局打開工作頓挫
 —英國側對印妥協に冷淡—……………一七一
 ジンナー、對回提携を英國に示唆……………一七二
 騷擾彈壓峻烈……………一七二
 騷擾件數五千二百五十三件……………一七二
 食糧不足深刻……………一七二

【濠洲】

十月分戰費激増……………一七三
 マックアーサー前線に到着……………一七三
 生活簡素化公債完全消化運動……………一七四
 フォード陸相婦人訓練を激勵……………一七四
 カーチン首相海運難を警告……………一七五

【ニュージーランド】

國內情勢概観……………一七七
 憲法修正會議開催……………一七五
 小麦收穫豫想……………一七五
 戦時下濠洲近狀概観……………一七六

【南阿】

スマッツ首相歸國……………一七八
 物資難深刻……………一七八

【カナダ】

在外使臣任命……………一七九
 聯合國生産資源委員會に加入……………一七九
 軍用機年産能力五千臺……………一七九
 民間航空會社を接收……………一七九
 造船能力は年四十五萬噸程度……………一八〇

鋼鐵不足……………一八〇

【アルゼンチン】

フスト元大統領次期立候補聲明……………一八三
 陸相更迭……………一八三
 對米回答……………一八四
 交通通信取締強化……………一八四
 米紙輸入を禁止……………一八四
 本年一月以降一般貿易狀況……………一八五
 米亞船舶協定……………一八五

公定價格制度實施……………一九九 新稅查定の爲め全國金庫封印……………二〇三

【フィンランド】

【アフガニスタン】

藏相財政演說要旨……………一九九 皇太子殿下薨去……………二〇三

食糧問題好轉……………一九九

【デンマーク】

日本研究熱益々旺盛……………二〇〇

【スイス】

佛經由郵便物を停止……………二〇一

【トルコ】

關稅收入減少……………二〇一
大統領中立危機を警告……………二〇二
首相經濟對策を提示……………二〇二

【卷頭言】

大東亞戰爭一周年を迎へて

大東亞戰爭は早くも一周年を迎へることとなつた。昨年四月以來約八ヶ月に亘り、平和のために最後の瞬間まで續けられた外交上の努力、米英多年の壓制と敵意にも拘らず隱忍自重難きを忍んで東亞の安定を祈念した日本國民の大國的襟度を回顧する時、今次戰爭の眞意義を自覺し、米英を打倒する日まで世界に平和なきことを確信し、戰爭完遂の決意を益々固くする次第である。廣大無邊な 御稜威の下、忠誠無比の皇軍の善謀勇戰の結果、開戰一年にして、日本は、歴史上未曾有の大戰果を收めた。

われわれは、行住座臥、皇軍將士の勞苦を感激を以て偲ぶと共に、各人がそれぞれ擔當する職場に於て渾身の努力を傾倒して國家總力戰の遂行に邁進しなければならぬ。敵米英は人も知る如く過去數世紀に亘り世界を自己の專有物の如く心得て横暴を極めた「したたか者」であり、自己の實力に對しては大きな自負心を持つてゐるのである。従つて戰敗度重なるも彼等は容易に屈服するものとは豫想出來ない。然し乍らわれらの脈管には、肇國以來醇乎として醇なる愛國的熱血が流れて居り、在天の英靈はわが國土を加護してゐる。加ふるに、今や、老大なる南方資源の開発、日滿支經濟の一體化と共に、わが國は物質的にも洋々たる將來が約束せられてゐる。われわれは敵を侮ることなく、また敵の「デマ」宣傳に惑はされず、一路最後の勝利を目指して邁進するのみである。



日華基本條約締結及日滿華共同宣言成立二周年 記念日に於ける東條内閣總理大臣放送

昭和十七年十一月三十日放送

日華基本條約締結及日滿華共同宣言成立により、三國共同の理想中外に闡明せられましてから茲に早くも二周年を迎ふるに至つたのであります。爾來三國は善隣として愈々緊密に相提携し殊に大東亞戦争の勃發を見るに至りましてより更に一段と協力の實を示しつつありますことは、洵に、御同慶に堪えない所であります。

抑々大東亞を本然の姿に復し、以て共榮の樂しみを偕にすべきは、獨り帝國のみならず、大東亞の各國家各住民の齊しく念願する所であります。然るに由來米英は其の利己的利益の擁護にのみ急でありまして、人類の共榮に對する誠意の認むべきもの無く、近年其の求むる所は遂に、帝國の存立を危殆ならしめ、惹いては大東亞共榮圏の建設を不可能ならしめんとするに至つたのであります。斯くして帝國は自存自衛と大東亞積年の禍根を一掃する爲、驟然起つたの已むなきに至り、畏くも昨年十二月八日米英に對する宣戰の大詔を渙發せられたのであります。而して茲に正に其の一周年を迎へんとして居るのであります。此の間帝國は、御稜威の下、御承知の通りの大戰果を收め、必勝の基礎を確立するに至つたのであります。而して、今や帝國は、有利なる態勢の下に、決戰に次ぐ決戰を以てし、執拗に反攻せんとする米英を飽く迄も撃滅せんとして居るのであります。

帝國が一度起つて破邪顯正の聖戰に従ひますや、滿洲國 皇帝陛下に於かせられましたは、即日、時局に關する

詔書を渙發あらせられまして、一徳一心の大義に則り、官民一心、萬邦一志、國民を擧げて奉公の誠を盡し、國力を擧げて盟邦の戦を援くべきことを國民に照示し給ふたのであります。又中華民國國民政府に於きましては帝國と同甘共苦、確固不拔の精神を以て難局に處せんとするの決意を表明せられたのであります。爾來滿洲國及中華民國國民政府に於きましては、物心兩面に互り、益々協力の實と誠とを示されつつありますことは、帝國朝野の深く感激し、衷心より感謝致して居る所であります。

素より大東亞戦争は曠古の大戦争であります。吾々の前途には未だ幾多の難關が存して居るのであります。日滿華三國の提携協力の要愈々切なるものがあるのであります。茲に私は日滿華の人々と共に常に思を遠く、東亞興隆の輝かしき前途に致し、共同宣言に依り明示せられたる不動の原則の下に、愈々其の結束を固め相携へ相協力して、究極の使命達成に邁進せんことを期するものであります。

本日、日華基本條約締結及日滿華共同宣言成立二周年の記念日を迎ふるに當りまして、茲に三國相共に決意を新たにして、此の大戦争を勝ち抜かんことを誓つて、私の挨拶を終ります。

日華基本條約締結及日滿華共同宣言成立二周年 に關する國民政府褚外交部長宛谷外務大臣祝電

昭和十七年十一月二十九日

日華基本條約並に日滿華共同宣言調印二周年に當り、本大臣は閣下に對し衷心より祝意を表すると共に、大東亞戦

下の今日、日華滿三國の結盟いよいよ鞏固にして、大東亞建設また堂々の歩式を示し、もつて世界新秩序の基調磐石ならんことを期す。

日華基本條約日滿華共同宣言二周年記念日に於ける 谷外務大臣祝詞

昭和十七年十一月三十日

閣下並に各位

茲に、大東亞戰爭下、最初の日華基本條約締結及び日滿華共同宣言發出の記念日を迎ふるに當りまして、一言、御挨拶を申述ぶる機を得ましたことは、本大臣の誠に光榮とする處であります。

曩に東亞の天地に、遠く肇國の精神に則りたる新秩序建設の巨歩を踏出しまして以來、關係國官民の絶大なる努力に依り、幾多の困難を克服して、日華滿三國の軍事情治經濟文化等各方面に互る建設は着實なる發達の過程を採りつつありました處、遂に昭和十五年十一月三十日に至り、日華基本條約及日滿華共同宣言の調印を見、仍て道義に基く東亞の新秩序を建設すべき盟約が締結せらるるに至つたのであります。此の盟約が、東亞に於ける恒久的平和の樞軸を形成し、之を核心として、全世界の平和に貢獻せんとするものなることは、之等、基本條約及共同宣言の昭に示す所であります。

幸にして日滿兩國官民一億一心の努力、日華兩國に於ける同愛具眼の士の挺身的協力に依りまして此の新秩序建設

の礎石が、今や全く成れるの觀ありますことは、心強き限りであります。惟ふに、東亞に於ける新秩序建設が、實に並々ならぬ大事業でありますことは、此の建設が史上未曾有の道義的試みであり、又此の建設が大戰爭の真中に於て進められねばならぬ事に想到致しますれば、極めて明瞭であります。即ち此の建設は、聖戰の目的であり、聖戰が進み行くに連れ残し行く麗しき姿であると同時に、聖戰の完遂を可能ならしむる前提たるべきものであります。今や御稜威の下、皇軍の赫々たる戦果は、陸に海に空に燦然として輝き、大東亞地域に於ける敵陣は脊として跡なき状況であります。此の大戦果を速に裏付け、之を基調として、新秩序の建設を完成することこそ、日華滿三國官民に課せられたる絶大の責務であります。即ち此の際、日華滿三國官民は、愈々三國の盟約の精神を新にし、同甘共苦、協心戮力して、世界に冠たるの新秩序を東亞の天地に築き上げ、以て此の世界的變革期に當りまして、世界將來の運命に大なる貢獻を爲す事の肝要なるを痛感する次第であります。

今日此の記念すべき日を迎ふるに當り、杯を舉げまして、閣下並に各位と共に、日華滿三國國運の伸展と光輝ある大東亞の前途を祝ひたいと存じます。

最近の國際情勢(所謂米英の反攻作戰)

情報局第三部長 堀 公 一

昭和十七年十一月十三日放送

獨英戰端を開いて既に三年餘、大東亞戰爭勃發以來滿一年に垂んとする今日迄日獨伊三國を始めとする樞軸國側の



偉大なる武力と緊密なる協同作戦の結果米英側は戦へば敗れ攻むれば退けられ唯々敗戦の一路を辿つて来たのであります。

元來米英側の態度は興隆する日獨伊等諸國民に對しヴェルサイユ條約以來持續して来た米英世界制覇を基調とする所謂現状維持を唯一の目標としたものであつて、其極めて不合理なる米英式平和機構の桎梏の下に、民族の發展は言ふに及ばず勃然たる生存竝に發展の要望を拒まれた樞軸側の實情に一顧の考慮をも加へず、只管壓迫と恫喝とを是事とし唯々己が立場と利益の保持存続に腐心して来たのであります。今次大戦の開始を見るに至つたのは一に斯る米英の理不盡なる利己的獨善的政策がその原因であつたのであります。

戦争開始前、米英の肚は、日獨伊等國際的新興國に對しては先づ外交上の壓迫政策を以て之に臨む、已むを得ざるに於ては多少の宥和政策を以て此等新興國の出鼻をくじかう、萬が一之等の外交政策が效を奏しない場合には戦争に訴へることも敢て辭する所ではない。戦争となる場合世界に誇る軍備を以て一氣呵成に壓倒し得るだらう。が若し軍事的勝利が豫期通りに短時日に得られないにしても、最後の手としては、之亦世界に誇る物質の力に物を言はせて日獨伊を總力戰的長期戦に追ひ込み、己が得意とする粘りに依り、日獨伊を終局に於て屈服せしめよう、と、かう云ふ仕組であつたのであります。

此の米英の肚に鼻まれたる意圖は、

第一外交上の壓迫政策に於て其破綻を見たのであります。獨逸を外交上壓迫せんとした英の奸策は遂に第二次歐洲戦争を惹起せしむるの結果となり、日本を外交上壓迫せんとした米英の策謀は、日米交渉の決裂をもたらし、遂に大

東亞戦争を誘起するの結果となつたのであります。米英の政策は此所に第一の誤算を暴露したのであります。米英の第二の手たる軍事上の勝利に至つては全く畫餅に歸し、戦ふ所必ず敗れ、此處に第二の誤算を繰り返へした事實に付いては、今更詳しく申上げる要の無い程、皆さんに於て熟知せられて居る所であります。そこで彼等に殘されたるは最後の手段たる長期戦であつて、現在敵國は之を唯一の宣傳目標として志氣の鼓舞に努めて居るのであります。とは言へ、米英が豊富を誇る資源も海外に之を仰ぐもの多く、從て之を運搬して工場又は戰場に持ち込む迄が大變であり、又戦争勃發以來此等重要資源の原生産地中日獨伊の手に歸するもの續出するに及んで、今更乍ら最後の綱と頼む長期戦も聊かの外れの状態となり、長期戦となればなる程樞軸側に有利になると本當のことを叫び出す米英人さへも出て来る様な實情となり、再び第二の政策たる軍事上の工作を至急試みざるを得なくなつたのであります。而も日獨伊に正面から反撃を企てることの不可能なるを知つて居る彼等は、世界の何れかの處で日獨伊の兵力の最も手薄な所を探して彼等の所謂反攻を企て、以て現在の趨勢を挽回せんと苦心するに至つたのであります。此が所謂米英側の第二戦線問題の生れる所以で、かの失敗に終つた佛蘭西海岸ディエップ上陸作戦の如きは其最も典型的な現れであつたのであります。

最近におきましても、米英側の此の種空襲親ひ的な反攻作戦は、ソロモン群島を中心とする米側蠢動、北アフリカに於ける英側反撃、又最近に於ける佛領アフリカに對する米軍の上陸作戦等に現はれて居るのであります。

第一にソロモン方面に於ける戦闘は、皆さん御承知の通り本年八月七日に開始せられたのであります。米國は第一次ソロモン海戦の敗戦にも懲りず續いて第二次ソロモン海戦敗戦となり、其後去る十月二十五日南太平洋海戦に於

ての大本營發表に見るが如く米國海軍は大損害を喫するに至つたのでありますが、ソロモンの數島に上陸した米國兵は今猶抵抗を續けて居るのであります。

このやうに根強い米國側の反撃企圖は、軍略上の理由に基くこと勿論でありませうが、同時に他面本月初に行はれました米國の選挙を念頭に置いたことも事實であります。即ちルーズヴェルト政權が米國民に對しひた隠しに隠して來た打續く敗戦の事實は漸く國民に周知せらるるに至り、政府當局の戦争遂行方法に對する國民の非難日に日に熾烈化せんとするに對する政略上の意圖が多分に加味せられてゐたと思はれるのであります。

従つて十月二十七日我が大本營より南太平洋及ソロモン方面の海戦に關する戦果が發表せられますと、最も周章狼狽したのはルーズヴェルトを中心とする米國政府要路者であります。

昨年十二月八日日米開戦以來、米國政府は世界に對し又自國民に對し常に自國の損失を極めて過少に發表してひたすら敗戦の事實を陰蔽すると共に我方の損害に關しては荒唐無稽なる誇大宣傳を續けて來たのであります。しかし乍らかかる欺瞞宣傳は間もなく中立國は勿論、米國人自身によつても看破せられ、ルーズヴェルトが國民に事實を秘匿してゐることに對する米國民の不滿は日増しにつるに至つたのであります。外電の報ずる所に依りますと今回の我方の戦果發表に依り米國民一般の不安、悲痛の空氣覆ふべくもなく十月二十七日ルーズヴェルト大統領は新聞記者會見に於て「目下激戦中であるから結果は豫測出来ない」と苦し氣に戦況に關する言明を避け、また、二十八日ノックス海軍長官は記者より「最も憂鬱な海軍記念日になるやうです」と言はれてもかへす言葉を知らなかつた相であります。同日米國海軍のエドワードは「英國海軍が大損害を受けてしまつた今日、日本海軍は太平洋に於て米國海軍を凌駕し

てゐるからソロモン海戦の結果は豫斷することが出来ない」と極めて悲觀的な演説を行つてゐます。

中立國筋の日本の大勝利に對する驚嘆は申す迄もありません。例へば、スペイン紙はその論評に於て

「日本の大勝利の報につき華府が沈黙を守つてゐるのは、眞珠灣奇襲に比すべき重大結果を來すべく勇敢なる日本飛行士の活躍の結果米國の海軍主力は甚大なる打撃を受け、ソロモン奪回企圖は勿論マツクアーサーの聲明せる濠洲を根據地とする日本襲撃作戦もここに挫折せしめられた證據である」と喝破してゐるのであります。

斯様にルーズヴェルト大統領の國民を欺瞞する政策竝に米當局の戦争遂行の方法に對する米國民の不滿は相當高まつて來てゐる模様でありまして、果せる哉、本月初行はれました中間選挙に於て、政府反對黨たる共和黨が上下兩院に於て又州知事の選挙に於て著しい進出を見せたのであります。

斯様に今回の選挙に於てルーズヴェルトの所屬する民主黨に對する反對黨たる共和黨が著しく進出しましたことは、申す迄もなく、米國民のルーズヴェルト政權に對する不滿の念を表明するものに他ならないのであります。而し乍らそれだからと言つて直ちに米國の戦争遂行意思に動搖ありと期待する譯には行かないのであります。共和黨進出の結果、ルーズヴェルトは今後政治の運用上特に國內問題に關して共和黨より制肘を受ける點が多くなる可能性はありますが、現在米國の執りつつある戦争努力は、假令共和黨が壓倒的多數を占むる様な事があつても直に弛緩するやうな事態を豫想することは到底許されないのであります。と申しますのは、戦争遂行の目的に付ては民主黨も共和黨も其間差したる差異がないからであります。

思ふに米國は最初自國の老なる資源と生産力とを恃みとし日本の國力を過少に評價して漫然戦争に入つたのであります。爾來打續く敗戦のため漸く事態の重大性を認識すると共に、米政府當局が躍起となつて國民の戦意昂揚に努めた結果、今日、米國民は國家の總力を擧げて軍需生産の増大に努力するの必要を感じ始めて來たのであります。蓋し彼等はその特有の戦争觀念に基き莫大なる數に達する空軍、航空母艦、戦艦等を生産し、軍備を完成したる曉、一齊に我に逆襲して今日迄の頽勢を挽回しやうと思ひ込んでゐるもの如くであります。従つてソロモン方面に於ける敵の反攻は將來行はんとする米側の日本に對する反撃の一つの先驅をなすものであり、之に敗けたからと言つてそれで反攻を全部中止して了ふとは思はれないのであります。

英國は獨蘇戦争の隙隙に乗じて、北部アフリカに主力を注ぎ、十月下旬より必死になつて樞軸軍に反撃を開始しました。思ふに英國は北阿に於て戰略的地點を奪回して地中海の覇權を再び掌握することを夢見てゐるのであります。樞軸軍が稍後退したことは事實であります。樞軸軍には機動作戦を得意とするロンメル將軍あり、伊軍との緊密なる協同の下に目下善戦中であります。

第三の戦線は最近起つた佛蘭西領アフリカへの米國軍の上陸であります。之が爲めには先づ獨蘇戦に一言言及する要があります。

今年六月開始せられた獨逸軍の東部戦線に於ける積極攻勢は、蘇聯軍の頑強なる抵抗に拘らず、逐次獨逸軍に有利に展開し、蘇軍はヴォルガ線に於ては殆んど廢墟と化したスターリングラードを僅に維持し、コーカサスに於ては北コーカサスの南境に追ひつめられると云ふ現状に立到つて居るものであります。其間米英は掛聲だけの支援を送つて豫ね

て約束の歐洲大陸の第二戦線の如きはなるべく口にするを避けて今日に至つて來たのであります。

元々米英は、蘇聯邦が一日でも長く獨逸と抗戦を續けることによつて獨逸の國力を少しでも損耗せしめることさへ出来れば、自分等は其間丈けでも旨い汁が吸へると考へて居るのであります。米英が自己の犠牲を少くし、自己の利益を増進するためには同盟國の窮境を顧みないが如きは何等敢て異とするに足らないのであります。

然し乍ら獨逸の壓倒的な武力を獨力で引き受けて居る蘇聯邦に於ては、本年初夏以來歐洲に於ける第二戦線要望の聲が益々昂まり、去る十一月六日スターリン氏が行つた革命演説中にも、同氏は第二戦線結成の要求を新にし、第二戦線は寧ろ英米の爲に必要なりと米英に對し警告的な言葉をすら交へて居るのであります。一方蘇聯國民中にも何時もの事ながら米英の食言に對する不満がつゆる状況となり、又米英の國內に於ても第二戦線速設の要が叫ばれるに至つたものです。流石厚顏無恥の米英政府も何んとかしなればならなくなり、茲に最も犠牲が少くして而も宣傳的效果のある攻撃地點として豫ねて目を付けて居た佛領アフリカの侵入となつたのであります。

米國大統領は去る十日新聞記者會見に於て第二戦線問題は實は昨年暮チャーチルが訪米した時考案されたが、人力、飛行機、船舶等の事情を考慮に入れて研究すると一九四二年つまり本年中に英國海峡を渡つて歐洲大陸に上陸することは實行不能と云ふ結論に達した。従つて問題は今年中に小規模の攻勢を他の地點で實現するかそれとも全然來年迄之を延期するかと云ふことになつたのであるが、其後檢討の結果、今年中にアフリカ作戦を決行することになつたのであると説明して居ります。

此ルーズヴェルトの説明に依ると、アフリカ進攻は歐洲大陸上陸作戦が出来ない爲めの代案であること並米國側が

聲明した佛領アフリカは樞軸軍の據點となる虞があるから先じて之を占據するのであるとの理由は全然根據なきこと
で、斯様な懸念の有る無しに拘はらず、佛領アフリカは早晩米英の侵略の犠牲となることに決つて居たことが解るの
であります。

現にヴィシー政府は本國に於ても其領土に於ても嚴重に中立態度を維持、一方樞軸諸國も其の中立を尊重して今日
に至つたのであつて、米國の言ひ掛りが根も葉も無い虚構のものであることは全世界周知のことでありますが、自己
の都合のためには、國際法の神聖も中立尊重の義務も捨てて顧みない米英のことでもありますから、此意味に於て今回
の侵略は別段意外とするには當らないのであります。マルチニツク島、ニューカレドニアを奪はれ、マダガスカル島
に不法の侵入を受けつとも、隱忍に隱忍を重ねて來た佛國のベタン元帥も茲に於て遂に勘忍袋の緒を切らし、決然米
國と國交を斷絶し獨伊と全面的なる協力を行ふこととなつたのであります。

十一月八日未明、米國軍は、大西洋岸に於てはカサブランカを中心に、地中海沿岸に於てはアルジェ及オランを中
心に、數ヶ所の地點に上陸を開始し、同海岸一帯に駐屯せる佛蘭西軍は、ベタン元帥の命を受け善戦之努めたるも衆寡
敵せず、十一日頃には海岸一帯の重要地點の中一應米軍の手に歸する所も出來た模様であります。獨伊の疾風迅雷
的對策の實行に依つて佛蘭西地中海沿岸一帯の要地は獨伊軍の警備完了せるのみならず、樞軸空軍並空輸に依る軍隊
のチユニス派遣も活潑に行はれ、既に樞軸空軍潜水艦等も活躍を開始し、著々戰果を擧げて居ることのであります
から、米英今回の夜盜的な侵入が最初は一應功を奏するとも、後方の極めて遠距離の補給路の確保を必要とする事情

等に鑑み、占領地の保持が困難となることは必定でありまして、我々は禍を轉じて福となすが如き樞軸軍戰勝の快報
の到るを待つて居る次第であります。

斯く觀じて参りますと、歐洲の戰局は全般的に見て獨伊並樞軸諸國にとつて有利に展開して居ると共に、獨逸及伊
太利國民等の戰爭完遂の意思は益々牢固たるものがあります。

東亞の天地に於ても亦米英の反撃は次々と破碎せられて大東亞の天地新秩序建設の基礎は力強く打建てられて居る
のであります。一方米英は其生産力を總動員し軍備擴充に努め長期戰體勢を堅むると共に、他方、不斷に樞軸陣營に
對する奇襲の機を覗つてゐるやうであります。彼に長期戰の意圖あれば我に長期戰の覺悟あり、米英側の足掻きに
依る戰局の部分的動きに一喜一憂する事無く、しつかりと大地に足を踏占めて必勝の信念と必勝の備へを完備しつ
最後の榮冠を獲得する迄戦ひ續けなければならぬのであります。

夫に付ても我々銃後のものが全然戰禍を受けることなく殆んど平和の時と寸分の變りも無く斯様に靜かな秋の夜を
送り得るのも、全く北に南に西に東に日と無く夜と無く戦ひつつある皇軍將士の勞苦の御蔭であつて、只今かうやつ
てお話しをして居る瞬間にも、我々の兄弟が異境に在つて護國の華と散つて居るかも知れないと言ふことは、我々と
して寸時も忘れてはならないのであります。

智利國最近の動向に關する堀情報局第三部長談

—於内外人記者國會見—

昭和十七年十一月十八日

最近益々激甚化する樞軸側の攻撃の爲、米國は重大なる船腹不足に悩まされて、折角味方陣營に引摺り込んだ南中米諸國に對して約束の物資援助も殆ど不可能となり、其の結果米國依存に依つて何等かの利得を目論んだ南中米の對樞軸斷交國や交戰國は全く期待外れの逆境に陥り、其の經濟生活は由々敷い脅威を受けてゐる許りでなく、利己以外には何物もなき「北方の狼」の爲其肝腎な主權すら侵害され、今更の如く各自國の輕舉盲動を悔んでゐる現狀である。墨國然り、伯國然り、其他ヴェネズエラ、ホンジュラス、グアテマラ、玖瑪等々比々皆然りである。是等諸國は米國との通商も杜絶して自國重要産業の衰運を招き國民生活は急速に窮迫を告げ、又伯國、祕露、エクアドルの如きは米國軍進駐の爲軍事的支配權すら奪はれて事實上米國の屬國化してゐる有様である。換言すれば、是等南中米諸國は、米國の吹く笛に踊つて其の報ゐられたところは、過去長期に互り銳意擁護して來た自國の獨立主權の喪失と國民經濟生活の不安のみである。

斯かる情勢に鑑み、智利及アルゼンチン兩國は是迄米國の凡ゆる壓迫及懷柔策に對して毅然として中立政策を堅持し來つたのであつて、兩國の政治家としては爾餘の羅典系諸國の輕舉盲動の齎らす結果の如何に自殺的なものであるかを充分認識し、北方の狼類りに虚を咆ゆるも其の驥尾に附するの愚を敢てしなかつたのである。

智利國は元來有力なる海運國であつて、傳統的に南太平洋沿岸の海面に於て支配的地位を維持し來つたのであるが、此の智利の支配的地位は、帝國が今次大戰勃發以來智利船舶の同方面に於ける航行に付好意的態度を取つて居る爲今日迄持續されて來たことは智利國識者の熟知するところであらう。然るに最近智利の從來堅持し來つた中立的態度に動搖の兆あるやの米國方面からの情報頻りに傳へられるが、我々としては智利の賢明なる政治家が現に維持してゐる中立政策を放棄するが如き舉に出づれば、其の結果同國は重大なる政治、經濟及軍事上の危険に見舞はれることを承知してゐるものと信ずる。中立放棄は嘗だに智利が其の從來占め來つた海運上優越的地位を喪失するに止まらず、延ては其の國民經濟生活を混亂と窮迫に導き、一般國民をして悲惨なる状態に陥らしめる結果を齎らすであらう。

米英側が頻りに全世界に戰勝の虚報を廣播してゐる間に、帝國は陸海空に連戰連勝し、其の海上勢力は急速に且つ確實に全太平洋制壓に向つて邁進しつゝある今日、敗戦米國如何に南中米に對して虚報を撒くも、増大する帝國の海上權の前には其の對南中米安全保障の如きは全く空證文に過ぎない。智利の賢明なる政治家は、如上帝國の旺盛なる海上支配の現實を把握し、帝國が開戦後一年ならずして早くも絶對不敗の堅固なる態勢を布き、獨伊兩國と相携へて清明なる世界新秩序の建設に巨歩を進めつつある事實を明確に認識して居るものと思ふ。南米の雄邦智利としては此の際從來の如く慎重なる態度を持續して、米國の惡辣なる壓迫に屈せず、懐柔に迷はず、只管自國將來の安康と進運とを考慮して戰爭の危険に近づかないことが最も賢明且つ最善の方途であること茲に喋々する迄もない。戰爭の圈外に毅然たる中立を持續することこそ實に智利將來の幸福を保障し、戦後の世界通商上に於ける同國の役割を増大し、其の國運隆昌を招來する所以であると確信する。

タイ國水害に對する帝國政府救恤に關する 情報局發表

昭和十七年十一月六日

タイ國の今次洪水はタイ民衆の生活に相當の被害を與へたる趣なるを以て帝國政府は帝國と共同戰爭遂行の同盟國民に對する友誼の象徴としてタイ國に對し邦貨金五百萬圓の見舞をなすこととせり右に對しタイ國政府より帝國政府に對し深甚なる謝意を表明する所ありたり

英國俘虜取扱に關する外務當局談

昭和十七年十一月六日

今般帝國政府は獨逸政府より英國の獨逸俘虜に對する人道上許すべからざる取扱竝に右取扱を伊太利俘虜に迄擴張せんとする意圖に付報告に接し多大の關心を以て事態の推移を注視して居る。帝國が今日迄皇軍の手に歸したる多數の英國俘虜に付て人道上の見地より戰時國際法規を尊重し其の待遇に關し凡有ゆる苦心を拂ひつつあることは申す迄も無い所であるが、英國にして本件に關し此の上其の態度を改めざるに於ては獨の對英報復措置に伴ひ帝國としても共同戰爭の遂行に邁進し居る同盟國の好誼と人道上の見地より英の反省を求むる爲帝國の支配下に在る英國俘虜の取扱に關し再考せざるを得ざるに至るべきことに付て茲に英國當局者の深甚なる注意を喚起し其の猛省を促すものである。

米加兩國政府の在留邦人取扱振に對する抗議に 關する外務當局談

昭和十七年十一月六日

帝國政府が大東亞戰爭勃發以來敵國俘虜、抑留者及一般敵國人に對し極めて公正且人道的なる取扱をなし來れる次第は萬國赤十字者代表の累次の報告及敵國人自身の放送、書信等に徴するも明瞭にて且又右事實は敵國政府も之を認め居る所なり

然るに敵國及敵性國官憲の在留邦人に對する取扱に關しては往々不當不法を極むるものありたるを以て帝國政府は從來之が是正の爲に屢次必要な措置を講し來り特に米國が太平洋沿岸に於て行ひたる邦人の奧地強制移住は帝國政府の最も重大視し居る所にして右に關しては七月下旬同國政府に對し最も峻厳なる抗議を提出引續き嚴重成行を注視申なるが尙今般日米交換船に依り歸國せる者に付調査せる所に依れば米國及加奈陀兩國官憲は在留邦人に對し苛酷なる非人道的措置を執りたること又現に執りつつある事例判明せるを以て十月下旬帝國政府は利益代表團を通し右兩國に對し更に抗議を發出し嚴重に兩國政府の反省を促し速に之が是正の措置を採るべきことを要求する所ありたり
尙又印度に於ける在留邦人の取扱は極めて非人道的なるものあり一日と雖も之を放置し得ざる情勢にありたるを以て之に對しても亦九月中旬嚴重に抗議せり

日米交渉の経緯

特命全權大使 來 栖 三 郎

昭和十七年十一月二十六日

昭和十六年十二月八日、畏くも宣戦の詔勅を奉戴いたしましたから我々は今や將に二周年を迎へんとするにいたり
ました。顧みますれば昨春以來十ヶ月の久しきに亘り、謙抑隱忍、ひたすら日米關係の平和的打開に努めて來りまし
た帝國が遂に敢然驟起して米英と寡端を開くの已むなきにいたつた経緯は、當時既に帝國政府の聲明公表等によりま
して中外に明かにせられたところでありますが、殊に昨年の今月今日は野村大使と私とがヘル國務長官の手から日米
交渉の最後の段階における重大轉捩點となり、且つ殆んど和戦の歸結を決したと申しても差支へない重要なノートを受
取つた當日なのであります、従つて本日は私としては誠に忘れ難い日でありますとともに、我が國民に於ても特に
銘記して置くべき日であると考へるのであります。

日米兩國はその後約十日にして砲火の間に見ゆるにいたつたのであります、皇軍の向ふ所敵なく開戦後僅か半歳
にして南方全地域に於ける米英の勢力を剷滅し世界戦史に比類なき大戦果を擧げたのであります。當時遠く敵國に
幽閉の身となつてをりました我々は相次いで接到的この捷報を耳にし轉た 御稜威の宏大なるを思ひまするとも
に、日本人と生れました矜持と感激とを彌が上にも深くしたのであります。更にその後我々は無限の聖恩に浴しまし
て、所謂交換船により萬里の航程を終へて歸國いたしましたのであります、その途上アリニューシヤンの攻略や、遠くアフ

リカ沿岸から太平洋印度洋の兩洋に亘る廣大なる戦線の展開及南太平洋方面等に於て執拗に反覆して参ります米英聯
合軍の反撃撃碎等を耳にし、更に又途中昭南港に立寄ることを得まして、皇軍の占領に歸した南方各地域に於て早く
も大東亞共榮圈の確立を目標とする政治、經濟、文化各般の施設が、原住民との協力の下に着々と進められてゐる實狀
の一端を見ることが出來たのであります。この間にうけました我々の感激は、或は引續き故國にお出の方々の御想像
に餘るものがあつたと考へるのであります、歸國後に於きましても、我々は常に當時の感激を胸にし一億國民の一
人として御奉公の微力を盡さんとして居るのであります。抑々今東の大東亞戦争のよつて來るところは甚だ遠いもの
があると考へられますが、今之を世界の歴史について見ますに、十九世紀以來の世界の動向は大體において西力
東漸の記録でありまして、十九世紀以來東亞の諸民族は西歐列國の強い兵力と進んだ經濟力の進撃の前に潜伏を餘儀
なくせられ、幾多の亞細亞諸國はこれがために或は領土を失ひ、或はその獨立をすら失つたのであつて、我國にすら
も極めて最近迄不平等條約の束縛の下に完全な關稅自主權や裁判權を持ち得なかつたやうな有様なのであります。

大東亞戦争の世界史的必然性は實に此西歐勢力の不當なる侵犯に對する東亞諸民族の反撥と云ふ事に存するのであ
りまして、獨伊その他の樞軸諸國の如きは夙に此大勢を洞察し一面彼等自身歐洲新秩序の確立を主張すると同時に
我々東亞の新秩序設立を當然の事理なりと肯定して居るのであります。我國が此等諸國と相結び、英米の如く此大勢
を否定しこれを阻止せんとする諸國と戦ひつつある所以も全く此處に其の根源があるのであります。

次にこれを日米兩國の關係について見ますに、米國は十九世紀の半ばから、まづ支那との通商貿易を開始し、一
八五三年には所謂黒船をもつて日本の開國を促すに至つたのであります、この米國の極東政策もその初期におきま



しては、主として通商貿易の發展やキリスト教宣布の促進を目標としたものであり、且つその間米國建國當時の清教徒の良心が動いてをつたやうな關係もありまして、日米兩國の關係も亦頗る友好的であつたのでありますが、一八九八年米西戦争の結果米國人中の少數乍らよく組織せられたる帝國主義者、大海軍主義者の一群が、組織せられざる大衆を引摺り、遂に米國多年の傳統を、一擲せしめ、フイリツピンの併合を敢てし、米國も亦歐洲各國とともに東亞經略の仲間入りをする事になりまして以來、米國從來の對東亞政策は俄然その性格を一變し、其の表面に掲げる清教徒的理想主義的看板と、その肚裏に包蔵する帝國主義的謀略との間に調和すべからざる矛盾を生ずるに至つたのであります。否寧ろ理想主義的美名をもつて帝國主義的權略を偽裝し、又は迷彩するに至つたといふ方が當つてゐるやうな事態になつたのであります。

殊に此の傾向が著しくなつて参りましたのは日露戦争以後でありまして、即ち最初同戦役が起りますや、米國は先づ當時太平洋の彼岸における強敵と認めてをつたロシアを抑へるために、頻りに我國に同情と支援とを送つたのであります。我が國が同戦役後における赫々たる戦勝の當然の結果として、東亞における指導的地位を占むるにいたりますや、米國はその政策を一轉して只管日本抑壓に努めまするのみならず、更に一步を進めて、滿鐵中立提議、滿鐵並行線計畫等によつて、我國の手から我國當然の戦果を奪ひ、我國に代つて滿洲における優越的地位を占めんとす企つるにいたつたのであります。此の日本抑壓政策は更に一面廿世紀初頭から桑港學童問題に先づ其端を顯はし、其の後加洲其他の土地法問題となり、遂に後年全米排日移民法制定とまで發展して参りました所の米國々内に於る排日運動の瀾漫強化と並行し、且つ我國の國力及國際的地位の向上に伴ひまして、愈々強きを加へ來つたのであります。

す。即ち第一次世界大戦を経て帝國の國威愈々揚り五大強國の一に列して愈々東亞の安定勢力たる地位を占めんとするに至りますや、まづ巴里講和會議に於いて、山東問題を掲げて、昨日までの與國たる日本を論難抑制するに努め、更に一九二二年には華府會議を召集せしめまして、それ迄兎に角東亞安定の柱石をなしてをりました日英同盟を解消せしめまするとともに、海軍々縮條約によつて我海軍力の發展を抑へ更に九ヶ國條約によつて我國の政治的勢力を抑制せんと試みるに至つたのであります。

勿論華府會議の表面の目的は、所謂協調政策によつて日支は申す迄もなく、東亞を中心とする列國關係の調整を圖り、依つて以て東亞の安定を招來せんとするに存したのであります。如何せん米英の華府條約に對する態度は、之によつて日本を抑壓する事を主眼と致しました結果、一九二七年頃英米自身が支那の排外運動の目標となつた當時におきましては、何の遠慮も會釋もなく上海に大兵を派遣し、遂には英米兩國の軍艦が砲門を揃へて南京を砲撃するが如きことすら敢てしたのであります。他方我國に對しましては、常に華府諸條約の嚴格なる遵守を強要するの政策に終始いたしましたので、遂に當時の支那をして、九ヶ國條約を始め華府會議關係の諸條約は要するに英米が日本を制壓せんとする意圖を以て作つたものであり、會議以來約十年の久しきに互る我國の忠實なる華府會議精神遵奉は畢竟日本の英米に對する弱勢の證左なりと妄斷せしむるにいたつたのでありまして、爾來支那は常に米英の支援を期待しつつ抗日排日の政策を擴大強化し、その勢は遂に日露戦争以來わが國が特別の地位を占め來りました滿洲にまで波及せんとするにいたつたので、我國は遂に決然十年の對支協調政策を清算するの已むを得ざるにいたり、ここに先づ滿洲事變の勃發を見るにいたつたのであります。此機會に、特に云つて置きたいと思ひますことは、米英は常に支那



の良友を以つて自ら任じてをりますが、彼らの好むところは支那即ち支那の領土、資源であつて、支那人ではないと云ふ事でありまして、之は英米の法典が移民其他の問題について現に幾多の支那人排斥法を包含してゐるといふ明かな事實に依つて頗る雄辯に之を物語られてゐるのであります。

かくして滿洲事變の發生いたしまするや米國は排日支那を支援して帝國に壓迫を加へんとする政策を一層露骨に實行することになり、次で支那事變の勃發に及んでは支那援助は遂に排日合作となり、對日壓迫は對日挑戰と發展して參つたのであります。

更に一方米國は歐洲におけるナチ・ドイツの勃興に對し頻りに獨裁主義の脅威を強調して軍備の擴張を圖り、或は全米共同防衛を主張して全米洲の制壓及反樞軸プロック結成の策謀を逞うしたのであります。歐洲の風雲愈々急を告げ、遂に第二次歐洲大戰の勃發を見まするや、米國の國防線は歐洲に移轉したりと稱して樞軸諸國を目標とする大々的の軍備擴張を斷行し世界を驚かしめたのであります。

然るに歐洲大戰において英佛聯合軍はいたるところにおいて大敗を蒙り、遂にフランスの降伏となり、英本國もまた外敵侵入の脅威に直面するにいたりますや、米國政府は頻りに英國援助に狂奔するとともに東亞に於ては英國に代つて蔣介石政權援助の第一線に立ち、日本の消耗を企圖し、凡ゆる策謀を以て、正當なる南方進出を阻止せんと試みたのであります。

かくの如くにして米國は歐洲に於ては頻りにドイツに對し壓迫を加へますると同時に東亞に於きましては我國に對し凡る妨害と牽制を加へるに至つたのであります。日本に對しましてはわが國が當時迄約四年に亘る支那事變によ

り既に國力の大部分を消耗せりとの誤算から出發いたしました。經濟壓迫を以て我國を屈服せしめ得べしと即斷し、先づ輸出禁止政策を以てわが國を威嚇し、ついで更に全面的經濟壓迫の前提として日米通商條約を廢棄するにいたつたのであります。當時わが國は東亞にも迫りつつある容易ならざる國際政局の推移に鑑み重大なる國策決定の岐路に立つて熟慮に熟慮を重ねてをつたのであります。此打續く米國の壓迫政策にも鑑みまして、遂に意を決して日獨伊三國條約を成立せしむるにいたつたのであります。米國は直ちに之に對して屑鐵の輸出を禁止し、更に昨年七月帝國が佛印に對して共同防衛を協定いたしましたるや直ちに資産凍結令を斷行し、石油の輸出を禁止するにいたつたのであります。此等は單なる經濟壓迫といはんより正しく戰爭の開始に比すべき重大なる措置であつたのであります。

現にルーズヴェルト大統領自身も資産凍結斷行の數日前に行ひました演説におきまして此の種經濟壓迫は當然對日戰爭を誘發すべかりしを以てこれを敢てせざりしなり云々と態々過去を表はす言葉を使用し豫め言外に重大なる含蓄をもたせ、將來來るべき經濟壓迫が戰爭を覺悟せるものなることを豫告したのであります。開戦後即ち本年二月二十日パール國務次官補がデモインに於て行ひました演説によりましても當時米國が對日開戦を覺悟してをつたことが明らかであるのであります。而も米國の對日策謀は之に止らず、經濟戰爭に加へてもし日本屈服せざれば愈々武力を以て之を抑へんとするの決意をも示し、所謂 A. B. C. D. 對日包圍線なるものを結成し、アリュージアンより重慶に至る蹄型形に連絡せる軍事基地へ兵力を増強して、我國を威嚇したのであります。

是より先太平洋の平和保持に眞剣なる考慮を拂ひつつあつた帝國政府は、昨年春以來引續き華府におきまして極力日米妥結の達成に努力を盡し來りつつあつたのであります。米國側が交渉半ばにして前述の如き資産凍結令、石

油禁輸等の如き挑戰的壓迫を加へて参りましたのみならず、前後十ヶ月を通じて何等五讓の精神を示さず、終始一貫全然東亞の現實を無視した獨善的抽象論を繰返すに過ぎないに拘らず、猶ほ飽危戰禍の太平洋地域波及を防止するために最後の瞬間迄局面打開を試みんとしたのであります、不肖私が命を奉じて太平洋を飛行横斷いたしましたのも全く此の趣旨に出でたのであります。

然るに米國側に於きましては我等の妥結達成の熱意に對して遺憾ながら初から共鳴應酬の態度を示さず交渉は常に同一の概念論、原則論を中心として無限に廻轉するのみでありましたので、我々は當時殆んど刻々に緊迫しつつありました危局を轉換し息詰る如き緊閉氣を出來得る限り緩和せんとする極めて實際的考慮から昨年十一月二十日附を以て一種の暫定案を提出いたしました。その内容は既に公表せられました通りであります、要するに資産凍結令その他により著しく事態が悪化した以前の狀態に一應引戻さうといふ趣旨であります、米國側はこれに對し十一月二十日附を以て三國條約よりの實質上の離脱、支那並に佛印よりの全面的撤兵、南京政府の否認、多邊的不可侵條約による華府會議體制の再建等我國の受諾到底不可能なる事最初より明瞭なる諸點を含みましたノートを突きつけて参りましたので、交渉はここに最後の重大なる難關に逢着するにいたつたのであります。

其後、則ち開戦後にいたりました此十一月二十六日附の米國のノートが他の文書とともに公表せらるるを見ました米國の一評論家は、かくの如きノートを受取つた日本が開戦を決意したのは了解に難からざるところであり、當然戦争を誘致すべき此種公文書を何等豫め國民に諮ることなくして日本に突きつけた米國政府の措置は實に不都合千萬であると慨嘆してゐる程であります、更に又當時米國が如何なる氣持をもつて此文書を我々に手交したかといふこと

は、開戦後に發表せられたる米國の一公文書によつて頗るはつきりと示されてゐるのであります。

即ちかの眞珠灣大敗戦の眞相を調査すべく、十二月十八日に任命されたるロバーツ委員会が、現地において調査せる結果に基いて作成した一月二十四日附の報告書によりますと、十一月二十六日ハル長官はこのノートを我々に手交致しました當時、かねて閣議その他において密接な連絡を保ちつた米國陸海軍の首脳部に對し、日米交渉は再び開かれざるべき状態において終結したと報告し、陸軍參謀長及び海軍作戰部長はこれに基いてそれぞれハワイにおける海陸司令官に對し、戰闘開始の必要なる措置を講ずべしとの秘密命令を發したといふことを明記して居るのであります。従つて米國政府は昨年十一月二十六日を以て對日開戦の決意を確定したと斷定して過ないのであります、今次の戦争を挑んで來たものは、實に米國であつて斷じて我國ではないと云ふことは米國自身の公文書によつて公式に明瞭にされて居る譯なのであります。更にこのロバーツ委員会の報告書中には十一月二十七日以前においても、日米交渉の情勢と關聯して、着々對日開戦の準備をなしつつあつたといふことを立證し得る幾多の事實が記されて居るのであります、殊に注意すべきは同報告の冒頭の部分において、米國の太平洋政策は他國政府の政策と衝突し居るを以て、米國陸海軍は右衝突せる諸政策が調和せられざる限り、太平洋戦争は不可避免なることを自覺し居りたり云々と申してをり、更に又報告の他の部分に於て一九四一年一月二十四日、海軍長官は陸軍長官宛書翰を以て日米國交の危機は増大し、眞珠灣における太平洋艦隊の安全問題につき再検討の必要を促すに至れりと通告したと書いてありますのみならず、其當時の觀測として日米開戦の場合、日本はまづ眞珠灣の艦隊を奇襲し來るべきこと、右奇襲は空襲たるべきこと、及襲撃時期は未明たるべきことを豫想し居りたりと發表して居るのであります。即ち約一年も前から米

國側が斯程迄に豫想して居つた奇襲が其後其通り實現したのに對して「レツチャラス・アタック即ち」だまし打しである
と非難を放つて居りますのは誠に不可思議でありまして、要するに自らの油断を押隠さんとする詭辯と見る外はあり
ません。

兎に角米國側がかくの如く夙に日米戦争の必至を考へながら、日米交渉には何等の熱意を示さず、剩へ前述の通
り、戦争を覚悟で資産凍結令、石油輸出禁止等を斷行し、更に最後通牒の心算で十一月二十六日附のノートを送り
たといふことは、支那事變に疲弊せる日本は結局經濟的壓迫に屈服し全面的に米國の要望を容認すると高をくつた
か或は又たとへ日本が戦争を敢てしても到底米英聯合軍を敵として戦ふに足るだけの實力がないと妄斷したと見るほ
かないのでありまして、當時私の耳に入りました情報によりますと、米國の一部においては日本を窮地に追ひ込み太
平洋開戦を餘儀なくせしめることが、参戦問題について分裂しつつあつた米國の國內を嫌應なしに結束せしむる最良
の方法なりと信ずるものも少くなかつたといふことでもあります。蓋しこの觀點から致しますと、前述の在ハワイ海陸
司令官に宛てた十一月二十七日附の海軍作戦部長及陸軍参謀總長の命令中に戦争が避け難い場合に於ても米國側より
先づ戦争行爲を執ることを欲せずと訓令し、換言すれば先づ日本をして手出しをさせろといつて居りますのは意味甚
だ深長なりと見る事が出来るのであります。

米國はかくの如くにして我國を戦争に迫込んだのであります。其目標とするところは、前に述べましたフィリッ
ピンの領有以來急角度に展開した大東亞政策の眼目たる日本制壓に存することは申すまでもないのであります。然し
流石にこれを露骨に國民に表示する譯にも参らぬと見えまして、まづ眞珠灣の進撃を以て日本の「レツチャリ」即ち

詐謀なりと高唱し、日本をして再びかくの如き詐謀を不可能ならしむるため、これを撃破すべしと唱へ、更に樞軸諸
國を打倒して、自由主義、民主主義を擁護し、且つルーズヴェルトとチャーチルとが大西洋上の會談において協定しま
した所謂大西洋章程「アトランチックチャーター」を完遂すべしといふやうな甚だ漢とした戦争目的を掲げて居るの
であります。然し本年春頃ルーズヴェルト自らこの戦争をウォー・オブ・サーバイバル即ち生き残るための戦争と名付
けながら自ら之を餘り氣に入らぬと申して居つたのは所謂語るに落ちるとも申すべきで、其の肚の中には單に日本の
制壓に止まらず世界を擧げて米國の制御の下に置かんとするが如き甚だ容易ならざる企圖を包蔵してゐると見るほ
かないのであります。これを最もよく現したものは本年五月三十日即先づ我招魂祭に當るメモリアルデーに際して國
務次官サムナー・ウエルズの行つた演説であります。今試みに當時の「ニューヨーク・タイムス」の記事に基いて、その要
點をあげて見ますと、同次官は先づ前大戦における米國の國際聯盟參加拒否を以て今次の大戦の一大原因なりと唱
へ、ついで今次の大戦後における諸民族の解放、人種平等の確立等を高唱しました上、次のやうな諸點を戦争目的と
して列べて居るのであります。即ち

- (一) 戦争責任者たる個人、集團及び國民の處罰
- (二) 戦後相當長期に互り休戦期間を設け、その間に侵略國の軍備撤廢を行ふこと
- (三) 平和保持の永久的機構確立に至るまで米國及其の與國において國際警察力を維持行使すること
- (四) 戦後、經濟問題、社會問題の整理を了したる上、米國と其與國を基礎とする國際組織を設け、徐ろに平和の
最終條件を決定すること

(五) 戦後の世界秩序建設に於ては米國は其指導者たるべきこと

(六) 汎米機構は之を繼續すること

等であります。

右の中(一)の戦争責任者云々は本年三月初英國のイーデン外相が彼と重慶政權との創作にかかるところの、香港捕虜虐待問題を盛に宣傳致しました際、言明した所を合せ考へて見ますと、實に容易ならざることを意味するのであつて我國民全體の處罰を目標としてゐると見るのほかないのであります。

次に(二)の侵略國の軍備撤廢。(三)の國際警察云々は我國を丸裸にしてこれを米英重慶等の武力的壓制の下に置くといふこと(四)(五)は要するに戦後の世界を米國及びアングロサクソンの願使の下に置かんとすること。(六)は西半球は引續き米國の勢力圏たらしめんといふことなのであります。

更に又大西洋章程の中にある、經濟上の自由平等を基礎とした世界平和確立云々の趣旨も前記の(四)(五)と合せて考へて見ますと、要するに各國家が米國に依存せねばならぬやうな經濟體制を確立し、米國は何時でも其欲するとき經濟壓迫若くは之を仄めかすことによつて各國を制御せんとするにほかならぬのであります。之によつて米英が其戦争目的として烏滸がましくも我國に課せんと企てつつある條件は大體豫想に難くないのであります。即ち彼等は我國をして獨立國として再び立つ能はざるが如き境地に轉落せしめんとするのであります。我國が所謂石にかちりついても此戦争に勝ち抜かねばならぬ理由の一つは實にここに存するのであります。

かくの如く我國と米英との争ひは全く喰ふか喰はれるかの死闘でありまして、而も我々が美事に之に勝ち抜きま

た曉においてのみ、東亞の諸民族は、初めて數世紀に互る政治上經濟上の桎梏から解放せられ、我輩國の精神たる八紘爲宇の大理想に基きまして、東亞の各國家、各民族は各々その所を得るに至り、盟邦獨伊が歐洲において企圖しつつある新秩序の建設と相俟つて、ここに初めて動きなき世界平和が確立し得るのでありますから、我々は今後如何なる困難をも、又如何なる試煉をも突破致しまして、一路光輝ある勝利に向つて邁進せねばならぬのであります。

我々の敵國たる米英が甚だ強大なる經濟力を有し、この點から見て實に悔るべからざるものであることは、殊に最近各方面において唱道せられつつありますから、私は敢てこれを繰返しません。唯私は彼等が單に物質の方面においてのみならず、戦争遂行の意力においても決して蔑視すべからざるものを持つてゐるといふことを強調致したいと存じます。

世上往々英米は實利主義の國であり、殊に米國は諸民族の寄合世帯であるから、その國內結束は頗る容易に崩壊するであらうといふやうな考を持つて居らるる方もあるやうに見えますが、かくの如きは實に大なる錯覺であるといはねばなりません。成程開戦の初期におきましては、劈頭眞珠灣及びマレー沖等の敗戦から受けた衝動と相俟つて、人心の動搖混亂もあつたのであります。又今日と雖も米國人の一部には米國政府が事態を遂に開戦の破局にまで追ひ込んだことについて公正な批判を持つてゐる者もありません。然し米國人は本土の東西に太平洋の兩洋を控えて如何なる國に對しても不敗の地位にありと信じてをり、又巨大なる物的及び人的資源を頼みとし、終局においては如何なる國に對しても必勝の地位にあると信じて居るのであります。更に又これを指導致します政府は、過去九ヶ年に互り政權を握つて居りました關係上、國內各方面に根強い勢力を扶植してをり、且つ種々の戦時特別立法による獨裁的

権限を有して居るのであります。彼とこれと相俟つて米國民を思ふままに引摺り得る地位にあるのであります。而も眞珠灣に於ける我國の攻撃に依て戦争を餘儀なくせられたといふ立場を強調宣傳して居ります結果、反對黨たる共和黨、特別の地位を持つてゐる労働團體に至る迄、何れも戦争遂行、政府鞭撻を旗印として居るのでありますから、國內の政黨政派の關係が如何に動きませうとも、只今のところ戦争遂行に何等動搖を來すが如きことはあり得ないと考へられます。従つて今後更に相當程度の敗戦を重ねますこととなりましても、米國人の抗戰意力は俄かに弱まるやうなことは殆ど想像し得ないのであります。

然し我々は素りに敵を恐れてはなりません。我々は既にアジア大陸及び南北太平洋の廣汎なる地域水域に互つて敵を撃破し、敵を制壓して居るのであります。我々は此地域の資源を開發動員することによつて、物質的にも益々不敗の體制を固めますと同時に、之等の地域に於ける東亞民族を解放し指導し、且つこれと協力することによりまして、精神的にも愈々必勝の體制を整へ得るのであります。況や我々には二千六百餘年の傳統によつて養はれ來つた烈々たる滅私奉公の精神があり、世界の如何なる國の追隨をも許さない愛國の精神があるのみならず、有史以來常に我國の上に輝き來つた宏大無邊の御稜威を戴いて居るのであります。ここに我々の必勝の信念の確乎たる基礎を持つて居るのであります。故に今後我々が軍事に、外交に、政治に、經濟に、益々その全力を傾倒して、聖戰目的の完遂を圖り、外獨伊其他の盟邦との提携結束を固め、内大東亞共榮の精神に徹し、斷じて之を口頭禪に終らしむるが如きことなく、躬行實踐益々これを現實の上に擴大して參りましたならば、我々が最後の勝利を勝ち得ることは全く疑ひないのであります。否寧ろ勝利の鍵は既に我々の手中にあるといつても過言でないと思ふのであります。

事新しく申すまでもなく、大東亞戦争の目的として我々の主張する所は、多年英米蘭等の帝國主義諸國に虐げられ、擄取され來つた東亞の諸民族を解放して、各國をして各々其の所得せしめますと同時にヨーロッパ、アメリカ其他における同様の地域的共榮集團と經濟的に有無相通じ、精神的文化的に長短相補ひ、ここに世界平和、人類共榮の搖ぎなき基礎を置かんとするのであります。我等の此戰爭目的に對しまして、これを妨げんとする英國の意圖は、要するに十九世紀以來の植民帝國組織や所謂オックスワ・ブロックと稱する排他的經濟體制を新たなる名目の下に擁護することによつて、自國ひとり繁榮せんとするものであり、又米國の企圖するところは一面汎米協力、善隣政策等の美名の下に西半球を米國の獨占的勢力圏とし、他面前述のウェルズ平和原則中の米國の世界指導權、國際警察、經濟制裁の理念によりまして、アジア及びヨーロッパ、アフリカ等所到の所に問題に不斷の干渉を敢てし、以て自國の世界制覇を達成せんとするのであります。既に中南米の多數の國々の如きは本來西半球の防衛と協力とを目的とした汎米主義を何時の間にか擴張され、米國を扶けて我國に對して宣戰し又國交を斷絶し、彼等とは無關係なる東亞の問題にまで干渉することになつて來たのであります。要するに我々の主張は、我等のものは我等に返せといふのであります。米英の欲するところは彼等のものは彼等に、我等のものは我等に寄越せといふのであります。何人が見ますか、その間の正邪は明かであるのであります。蓋し邪の正に勝たざるは千古の鐵則でありまして、我國の正しい主張が終局に於て邪なる英米の主張に打勝つべしといふことは動かすべからざる天理であると確信するのであります。

私はこの十一月二十六日といふ日米國交史上記念すべき日に當つて我一億の同胞が更にその信念と決意とを新し

物心兩方面に互つて益々戦時體制を強化し、來らんとする大東亞戦争の第二年に突進せんことを熱望しつつ此講演を終らんと欲するものであります。

防共協定締結六周年記念日に於ける 堀情報局第三部長談

昭和十七年十一月二十五日

本十一月二十五日は防共協定(共產インターナショナルに關する協定)の締結記念日に當り、日獨伊三國初め之に加盟せる十三箇國にとり重大なる意義を有する記念すべき日である。

回顧すれば、今を去る六年前即ち昭和十一年十一月二十五日、日獨兩國間に始めて防共協定が締結せられ、翌昭和十二年十一月六日伊太利國が署名國として加入し、防共協定は茲に日獨伊三國防共協定となり、續いて滿洲國、洪牙利、スペインの三國之に加入し締約國は六箇國となつたのであるが、客年十一月二十五日協定滿期と共に防共協定の效力は更に五箇年延長せらるると共に、中華民國、ルーマニア、ブルガリア、フィンランド、スロバキヤ、クロアチア及丁抹の七箇國が之に加入し、茲に防共協定は十三箇國間の嚴然たる協定となつたのである。

防共協定の意義に付ては、條文に明な通り、共產インターナショナルの目的が世界的破壊工作にあり、之を防遏する爲締約國が緊密なる協力をなす點に存するのであつて、刻下の世界情勢に鑑み益々その意義を痛感する次第である。即ち帝國としては、重慶に残存する蔣政權が共產軍と協同し抗日戦線を張ると共に支那の赤化を激化するを傍觀しつ

つある狀況に於て如何に東亞の建設の爲に防共の意義が重大であるかは自ら明白である。
今日有史以來の聖戰に邁進し居る帝國としては、コミンテルン赤化の魔手が帝國を脅威するが如き事は斷じて容認し得ざる處であり、國民は共產主義の害惡を認識し、益々盟邦との提携を強化し、我國體と絶対相容れざる共產主義の排撃に力を效し、聖戰完遂に遺憾なきを期すべきである。

大東亞戦争陸軍關係綜合戰況に關する 大本營陸軍報道部長談

昭和十七年十一月十四日

緬甸の裁定と比島の攻略成つて早や六ヶ月、甚大なる損害を受けて大東亞の地域より撃攘せられたる米英は「これまでの敗北は日本の奇襲作戰によるものであつて、いはゞ緒戦の短期間に生じた局部的現象に過ぎぬ」と唱へて國民の士氣昂揚と團結強化をはかり、局面の打開に苦心しつゝあるが、就中米國は軍備の大擴張を行ひつゝあるばかりでなく、支那、印度、アリューシャン等に對し空軍を増派し、本土空襲を企圖し、または我が南方占領地に一部兵力を上陸せしむるなど既に反擊作戰に着手し、その政府および國民の戦争に對する態度が逐次眞剣になりつゝあることは注目に値する。わが陸海軍は緊密なる協同の下、隨時隨處に敵を撃破し赫々たる戦果を挙げつゝあるが、大陸、太平洋兩方面における陸軍部隊關係最近の狀況は左の通りである。

一、支那方面

支那派遣軍は全支に互る廣大なる地域において三百萬の重慶軍に對し毎月平均大小二千餘回の戦闘を繼續して敵戦力破摧と占據地治安の確保とに邁進してゐる。

北支方面では八月下旬より各兵團緊密なる連繫の下に殘存共產黨軍の討伐、肅清作戦を展開した。中支方面では五月以降四ヶ月に互り浙贛作戦を實施した。すなはち我が軍は困難なる地形と惡天候とを冒し浙江、江西、福建方面において對日空襲を企圖する敵航空基地を覆滅すると共に、第三戦區に對し大打撃を與へてその反抗を完封し、更に重要な資源地域を管制下に收むる等の大戦果を擧げたが、この作戦間兵團長酒井中將の壯烈なる戦死は國民の記憶に新たなるところであらう。

本作戦の結果、敵空軍は奥地に退避し、湖南、廣西等を基地とし、米機の増援を得て我が間隙よりゲリラ的空襲に出で、六月下旬以降今日までに二十五回の來襲を見たが、これに對し我が在支陸軍航空部隊は絶えず果敢に邀撃し將た進撃してその五十數機を撃墜破した。この間我が方の損害は自爆四機、未歸還六機である。

なほアフリカ、西亞、印度を經由して重慶側に輸送せらるゝ米國機は毎月相當數に上りあるも、我が不斷の攻撃により現在活動中のもの百數十機であり、これに重慶在來の空軍とを合せて目下大陸における敵勢力は約二百五十機内外と推定せられる。右機數は今後も引續き増加するものと豫想せらるゝにより、わが占據地の要點、さらに進んでわが本土にまでも空襲を企圖すること萬なしとは申されぬ次第である。

二、南方方面

占領地の治安は概ね回復し適切なる軍政と相俟つて建設事業は着々進展しわが戦争遂行に原動力を提供しつゝあるが局部においてはなほ作戦續行中である。

(イ) ビルマ方面

目下印度における米英軍は印度軍と合し地上兵力約五十萬、飛行機約五百と判斷されるがなほ逐次増強されつゝある模様である。ビルマ方面陸軍部隊は西部國境方面でこれと接觸し、東部は概ね怒江の線で十數個師の重慶軍と相對峙してゐる。

ビルマ内の治安は我軍政下における新行政府の施設に伴ひますます良好となりつゝあるが、東部印度、雲南方面を基地とする敵空軍はゲリラ戦による内部擾亂を企圖し、殆ど連日十機内外を以て來襲し、我軍は常にこれを撃攘してゐる。特に先般のチンスカヤ、チツタゴン飛行場攻撃における戦果を初めとし、十月末以降今日までに撃墜破約七十機の損害を敵に與へた。その他雲南方面における重慶軍の撃滅等終始戦闘を繰り返してゐるのである。

將來米英空軍等の増強により此方面の航空戦闘は更に激化すべく、また敵軍は情勢の推移を窺ひ、印度および雲南方面より相呼應してビルマ奪回を策することもあるべく、我方は如何なる情勢にも對處し得る磐石の備へを固めてゐる次第である。

(ロ) ソロモン方面

次にソロモン群島方面の陸戦についてであるが、我が海軍部隊が僅少な兵力をもつて占據しあつたガダルカナル島およびその附近に本年八月米軍部隊が大舉上陸した。こゝにおいて我が陸軍部隊は海軍と緊密なる協同の下に數次に互り極めて困難なる上陸を敢行した。すでに數次に互り發表せられたソロモン方面の諸海戦も實はこの陸戦と相關聯して惹起せられたものである。

蓋しソロモン群島方面は彼にしてこれを失へば米濠の連絡線を分斷せらるゝのみならず、直接濠洲を脅威せらるゝが如き戦略上の要域である故に、敵軍は必死の努力を以て凡ゆる手段を盡し陸海空の戦力を増派してこれが保持を期してゐる模様である。

此方面は南太平洋におけるわが作戦根據地より甚だしく遠隔し、かつ絶海の孤島とも稱すべき不毛瘠蕪、未開の地であり、此方面に既に根據を占めある敵軍の航空勢力の活動を制して上陸特に補給を行ふことは洵に容易の業ではなく、随つて目下この方面の作戦に任じてゐる將兵の艱苦も想像に餘りあるものがある。しかしながら我が陸軍部隊はこれら極めて不利なる諸條件を克服し逐次敵軍に壓迫を加へつゝある現況である。

三、北方方面

アリニューシヤン群島方面は、六月八日陸海軍部隊相協同してその西部數島に上陸、これを占領以來、陸軍部隊は殆ど連日にわたる敵空襲下に之を確保して米軍の進攻を遮斷してゐる。また滿洲においては關東軍は日夜防衛に従事し、或は訓練に努め、もつて變轉常なき世界情勢の下、嚴として北邊の鎮護に任じつゝある。

以上最近における陸軍部隊關係の概況を述べたが、御稜威の下、我が陸軍部隊はアリニューシヤン、滿洲、支那、南方諸地域等寒帯より熱帯に到る廣大なる地域に、或は作戦に、警備に、または訓練に邁進してゐる次第である。

帝國海軍部隊の七月以降敵潜水艦、船舶撃沈數に 關する大本營發表

昭和十七年十一月七日

一、帝國海軍部隊は七月下旬以降十月下旬迄に敵潜水艦二十一隻を撃沈せり、この間我方船舶一十九隻、十二萬二千五百噸を失へり

二、帝國海軍部隊は右期間に於て敵船舶三十四隻、二十五萬二千四百噸を撃沈せり、この間我方潜水艦二隻を失へり

アリニューシヤン方面陸海軍戦果に關する大本營發表

昭和十七年十一月十一日

「アリニューシヤン」方面帝國陸海軍部隊は、六月上旬諸要地占領以來緊密なる協同の下にこれを確保し、六月十二日以降十月三十一日迄に敵機と八十一回に互り交戦其の三十二機を撃墜せり

我方の損害左の如し

驅逐艦一隻沈没、輸送船二隻大破、水上機十五機自爆及未歸還、其の他軍事施設に若干の損害あり

ガダルカナル島戦果に関する大本營發表

昭和十七年十一月十四日

帝國海軍航空部隊は十一月十二日晝間ソロモン群島ガダルカナル島所在敵艦艇、輸送船に對し攻撃を敢行、次いで同日夜半我有力なる攻撃部隊は之に肉薄突入し所在敵艦艇船舶の大半を撃破、尙熾烈なる戦闘續行中なり、現在までに判明せる戦果左の如し

一、晝間航空部隊の戦果

撃 沈 新型巡洋艦一隻(轟沈)

乙級巡洋艦一隻

大破炎上 輸送船三隻

撃 墜 飛行機十九機

二、夜間攻撃部隊の戦果

撃 沈 新型巡洋艦二隻(轟沈)

大型巡洋艦二隻

驅逐艦一隻

巡洋艦二隻

三、我方の損害

驅逐艦三隻

戦艦一隻 大破

驅逐艦二隻 沈没

飛行機十數機 未歸還

南太平洋海戦戦果に関する大本營發表(詳報)

昭和十七年十一月十六日

曩に發表せる南太平洋海戦戦果に關し其の後到達せる詳報に依り調査の結果左の如く判明せり

一、敵艦船

撃 沈

戦 艦 一隻

航空母艦 エンタープライズ

同 ホーネット

大型航空母艦 一隻

巡洋艦 三隻

驅逐艦 一隻
 大破又は中破
 艦型未詳 三隻
 驅逐艦 三隻

二、敵飛行機
 敵上空空戦に依り撃墜せるもの五十五機以上、味方上空空戦並に艦隊砲撃に依り撃墜せるもの二十五機その他敵航空母艦沈没に伴ふ喪失機数を合し總計二百機以上
 (註) ミッドウェー強襲に於て撃沈と發表せる「ホーネット型」は「ヨークタウン」なりしこと、又「エンタープライズ型」は損傷を受けたること、ならびに珊瑚海海戦に於て撃沈と發表せる「ヨークタウン」型は特設航空母艦なりしこと判明せり

第三次ソロモン海戦戦果に関する大本營發表

昭和十七年十一月十八日

十二日以来戦鬪續行中の帝國海軍部隊は十三日夜間ガダルカナル島敵航空基地を猛撃、飛行場及其の施設に大損害を與へ、更に翌十四日敵機の猛烈なる反撃を排除しつゝ味方輸送船團を護送中同日夜間同島の西北方に於て戦艦二隻、大型巡洋艦四隻以上を基幹とする敵増援艦隊に遭遇、之と激戦の結果、其の補助部隊の大部を潰滅し、戦艦二隻に

重大なる損傷を與へ之を南方に敗走せしめたり
 現在迄に判明せる十二日以来十四日迄の綜合戦果並に我方の損害左の如し

一、艦 船
 擊 沈 巡洋艦八隻(内新型三隻、内五隻轟沈)
 驅逐艦四隻乃至五隻
 輸送船一隻
 大 破 巡洋艦三隻
 驅逐艦三隻乃至四隻
 輸送船三隻
 中 破 戦艦二隻
 二、飛行機
 擊 墜 六十三機
 擊 破 十數機、
 三、我方の損害
 戰 艦 一隻沈没
 同 一隻大破

巡洋艦 一隻沈没
 驅逐艦 三隻沈没
 輸送船 七隻大破
 飛行機 三十二機自爆、九機未歸還

〔註〕 十二日以來十四日迄の海戦を第三次ソロモン海戦と呼稱す

第三次ソロモン海戦戦果に關する大本營發表(詳報)

昭和十七年十一月二十八日

その後の詳報によれば第三次ソロモン海戦に於いて更に左の戦果を収めありしこと判明せり

一、十二日夜戦に於いて我艦隊は敵巡洋艦三隻を撃沈し、驅逐艦三隻を中破せしめたり

尙曩に撃沈と發表せる驅逐艦一隻はこれを削除す

二、十四日夜戦に於いて我艦隊は敵戦艦一隻を撃沈し、戦艦一隻を大破(沈没略々確實)せしめたり

尙曩に發表せし敵戦艦中破二隻を一隻に改む

〔註〕 第三次ソロモン海戦の綜合戦果中艦船の部を左の通り改む

撃沈 戦艦二隻、巡洋艦十一隻、驅逐艦三隻乃至四隻、輸送船一隻
 大破 巡洋艦三隻、驅逐艦三隻乃至四隻、輸送船三隻
 中破 戦艦一隻、驅逐艦三隻

國 際 時 報

米英軍佛領北阿進駐の概況

十一月八日の朝まだき、突如海岸方面に砲聲が殷々と響き渡ると共に、低空を掠め去る數多の米軍飛行機がルーズヴェルト米大統領寫眞入りのピラを撒布して行つた時の佛領フリカ住民こそ、正に寝耳に水の驚愕に襲はれたものといへよう。

このとき機上から撒布されたピラには、アイゼンハワー米軍總司令官の名でもつて

「米軍は佛領フリカ在住のフランス人並にアラビア人を獨伊の羈絆から解放するために各要地に上陸する。住民は宜しくこれに協力すべし。」

との趣旨の布告が印刷してあつた。

そして、あわててラヂオのスイッチをひねつた住民達の耳に聞えたものは、ルーズヴェルト大統領自身作戦開始數週間前に白晝館で吹込んだと傳へられる佛語演説レコードの放送であつたし、更にまた、佛國陸軍隨一の猛將として部内の信望絶大なジロー將軍が所在不明の放送局から佛軍將士に對して米軍との協力を勸告してゐる聲であつた。しかも、その日の夕方になると、丁度佛領北阿のアルジェー港に滞在中であつた佛國家副主席兼陸海空軍總司令官ジャン・ダルラン提督が米軍副司令官クラーク

陸軍少將と休戦交渉を開始したと傳へられ、そして十一日には、グルラン提督から北阿佛軍司令官全部に停戦命令が發せられ、更に十五日には、佛領北阿新政権が樹立されて、グルラン提督が新政権主席に、ジロー將軍が北阿佛軍總司令官に夫々就任したとの發表が行はれたのである。

かくして、僅か一週間の間に、佛領モロッコ及びアルジェリア(以下簡單に佛領北阿とよぶ)は、十四萬程度と推定される米國遠征軍の前に易々と屈從してしまつたのである。

しかも、米國陸軍省十一月二十三日附發表によれば、佛領北阿上陸作戦初期に於ける米軍損害は、戦死傷、行方不明を合して一千九百十名に過ぎず、戦死者に至つては、陸軍三五〇名海軍一〇名に過ぎない有様であつた。

他方、米本土に於ては、ルーズヴェルト大統領が、十

一月七日夜(華府時間)に聲明を行ひ、右作戦は獨伊の佛領アフリカ侵入に對し機先を制したもので、領土的野心なしと發表し、更に十日の記者團會見に於て

「今次作戦は、日本軍の眞珠灣攻撃後二週間に余がチャーチル首相の米國訪問を要請した時に端を發した。當時米英兩國に於ては英佛海峡を横切る大規模攻勢の

望ましいことが考慮され軍首脳部は實現可能と判斷したが、兵員、飛行機、船舶並に補給問題の關係上一九四二年内にこの作戦を遂行することは不可能であるとの結論に到達した。そこで一九四三年に大攻勢を開始するか一九四二年に小規模な攻勢に出るかといふことが問題となつたが、遂に今回の作戦に落ち着いたものである。」

と述べ、そして、アフリカを作戦の舞臺とすることは六月末に決定され、決行時期も八月のデイエツプ奇襲上陸前にはきまつてゐたと説明したのである。

事實、米英側の計畫は、相當以前から着々と進められてゐたものの如く、米國陸軍省も、十一月八日、今次作戦についで、要旨左の如く發表してゐる。

(イ) 數ヶ月前、聯合軍總司令部がロンドンに創設され、歐洲駐屯米軍總司令官アイゼンハワー陸軍中將が右聯合軍總司令官に任命された。

(ロ) アイゼンハワー麾下の米軍部隊は、北阿を樞軸侵略の脅威より解放すべく戦闘を開始した。

(ハ) 作戦参加の米英陸海空軍は總てアイゼンハワーの單一指揮下にある。

そして、米國側がいかに手ぬかりなく準備を整へたかについては、遠征軍兵士一般に回教徒殊にアラビア婦人に對する作法上の注意書まで携行させてゐる一事からも充分察し得るが、更にアイゼンハワー總司令官が十一月十二日に發表したところによれば、作戦實施の數ヶ月前、クラーク米軍副司令官を首班とする米英軍事密使團は佛

領北阿某地點で佛國側反樞軸首脳部と密議を凝したが、その結果、北阿佛軍は餘り激しく抵抗せず、米軍は豫定通り上陸に成功したものの如くであり、米國側としては、參戰以來最初の一大冒險であつただけに、戦々兢兢として、考へられる限りの手を豫め打つたことがわかる。

さて、今次米英側作戦については、さまざまの情報も雑然と傳へられてゐるのでその全貌を捕捉するのに苦しむが、取り敢えず入手し得た情報を綜合すると、大體左の如くであつたやうに推斷される。

米國遠征軍作戦部隊は、五百隻以上の船舶に分乘、三百五十隻以上の艦艇に護送されて、十一月八日早朝を期し、三方面より佛領北阿に上陸したが、サー・アンドリュー・ブラウン・カニンガム英海軍大將が右護送作戦の總指揮をとり、ビエリ米海軍少將、ライト米海軍大佐等がこれを輔佐した模様で、三方面に分れた各護送船團の目的

地、陸軍部隊指揮官並に護送指揮官は左の通りである。

第一船團 佛領モロッコ(主としてカサブランカ)、エ

スパドン米陸軍少將、ヘウイット米海軍少將

第二船團 佛領アルジェリア(主としてアルジェ)、

フレデナル米陸軍少將、パロー英海軍少將

第三船團 佛領アルジェリア(主としてオラン)、ライ

ダー米陸軍少將、ブローブリッチ英海軍中佐

又、右上陸作戦を掩護した米英艦隊司令官は次の通りである。

(イ) 大西洋方面護衛戦團艦隊司令官、ギツフェン米

海軍少將

同海軍航空部隊司令官、マックホーアター米海

軍少將

(ロ) 地中海方面護衛戦團艦隊司令官、シフレット英

海軍中將

同海軍航空部隊司令官、リスター英海軍少將

そして、前述のやうな豫備的祕密交渉のお陰で各地の

佛軍の抵抗は微弱であつたばかりでなく、十一月十一日

には、ダルラン提督の停戦命令が發せられた結果、佛領

北阿の戡定はとん／＼拍子で終つてしまつたので、米

軍は早くも佛領チュニジア進攻に着手したが、これに對

しては、十一月十三日以来東部アルジェリアに上陸した

アレキサンダー麾下の英國第一軍(約十五萬と推定され

る)及びジロー將軍麾下の北阿佛軍(極く少數と推定され

れる)も合流し、ここに米英佛の聯合軍は左の三方面よ

り東方進撃を開始した。

(イ) ボーヌより海岸沿ひにビゼルトに向ふ

(ロ) メジエルダ河南方を鐵道沿ひにチュニスに向ふ

(ハ) デベツサよりガベスに向ふ

◇

獨伊側としても、當然、これを黙視してゐる筈はな

く、十一月十一日の佛非占領地域及びコルシカ島進駐と

相前後して、佛領チュニジアに兵力、武器(十二噸戰車を
含む)等を大量に空輸し、殊に米英側がチュニジア攻
撃の主目的とまで公言してゐるビゼルト港附近には、早
くも不敗の堅陣をつくり上げたのであつた。

元來、このビゼルト港は、佛國海軍軍事基地の置かれ

てゐたアフリカ地中海岸隨一の良港で、完全な要塞を有

し、又一大艦隊を收容し得る湖水と運河により連絡して

ゐるのみでなく、伊領シシリ島との海上距離は僅に七

十五哩にすぎず、歐洲大陸と北阿地中海岸とはここで最

も接近し合つてゐる。従つて、今回この良港を占據した

獨伊がそのまま地歩を固めてしまへば、その對阿軍事輸

送は從來よりも圓滑となるのみならず、地中海をこの狭

隘な部分で縦斷する形勢となり、米英側護送船團に對す

る空軍及び潜水艦の攻撃を効果的ならしめることもでき

るし、又、ロメル將軍がリビア戦線を急速に整理して、

トリポリクニア方面にまで引さがつた現在では、獨伊側
としては、北阿中央部にその戦力を集約した結果となつ
たので、考へ様によつては、米英軍を手許に引つけて置
いて一大痛棒を加へる好機に恵まれてゐるともみられる
のである。

そして、すでに獨伊軍と米英軍とは十一月末現在、チュ

ニジア北部沿岸タバルカその他で接觸し、激闘を交へて

ゐるやうであるが、米英軍にしても、今後歐洲大陸、就

中、(その宣傳してゐるやうに)伊太利を北阿方面から

脅威しようとするならば、チュニジア殊にビゼルト軍港

はどうしても力取しなければならぬのであるから、こ

の方面の攻防戦は日を逐つて熾烈を極めて行くものと豫

想される。

北阿戦線に活躍する列國將星の風貌

獨逸戦線が逐次冬眠状態に入るにつれて、歐洲戦局の槍舞臺は北阿戦線へと移行した。殊に米軍の佛領北阿上陸以來は、同方面に獨伊米英佛五ヶ國の軍隊が入り亂れて激戦を交へることとなり、今冬から來春にかけての北阿戦局は、地中海制覇の歸趨を定め、ひいては今次大戦の成行に至大の影響を及ぼすものと見られるに至つた。従つて、この方面に龍驤虎搏する列國將星こそ、今後暫くは歐洲戦局の花形といふべく、ここにその風貌を一瞥するのもあながち徒爾の業ではないであらう。

獨軍戦車戦術の權威と稱せられ、去る六月のリビア戦における赫々たる偉勳により元帥に任ぜられた北阿獨軍司令官ロメル將軍は、當年未だ五十一歳、しかもその人

格の圓熟してゐることは、去る九月末ベルリンに一時歸還し十月二日新聞記者團會見を行つた際、未だ面識のないまゝに何時も最先頭の戦車に坐乗して敵陣を突破するといふ沙漠の鬼將軍はどんなに慥慥な面魂だらうと想像を逞しくしてゐた一部の記者が、驕らず誇らざる其の君子的な風貌や温厚な言動に一驚を喫したと傳へられてゐるのでも察するに難くない。

そもく、ロメルの名が獨逸全國に鳴りひびいたのは、去る第一次世界大戦に際し、一九一七年、ヴェルテンベルヒ山嶽部隊を率いてインソン山嶽戦線の強行突破に成功、某高地を占領した殊功によりプロシヤ軍最高勳章を授與されたのに始まり、當事彼の用ひた「強行突破」といふ標語は其後全獨逸陸軍の標語ともなつたといふ。大戦

後は士官養成の任に當り國民各層に國防政策を鼓吹し、ヒットラー、ユーゲントとも深い關係を保つてゐた。

そして第二次世界大戦が開始されるや、獨逸軍のオーブリー進駐、ズデーデン地方、チエコ進駐、對ポーランド作戦に總統大本營附司令官としてヒットラーの幕下に參畫し、更に西部戦線攻撃の火蓋が切られるに及んで機甲部隊の指揮官となつたが、戦車に幽霊の繪を畫いた其の麾下の所謂「幽霊師團」は佛蘭西のマチノ延長線突破に成功、英佛戦車隊を徹底的に撃破し、あの大勝利に多大の貢獻をなしたのであつた。

そして多士濟々な獨逸軍部内でも、ロメル將軍の作戦の大膽不敵さ、見透しの正確さ、機動の俊敏さ等の一際目立つてゐる事は萬人の認める所であるが、更に面白い事は、樞軸側の將軍中彼が最もアメリカでもてはやされてゐる點であらう。例へば十一月五日夜のニューヨーク各紙の如きは、何れも彼に關する論評を掲げてゐるが、其

の戦術の巧妙さよりも、貴族出身の多い獨逸將星中で、何の門閥もなく實力だけで元帥の稱號を獲得した立志傳中の人である事が、一般米人中に彼の人氣の特に高い主な理由と見られてゐる。

然し、其の用兵の妙は、もとより米國人も充分に認めてゐるのであつて、彼がリビア戦線を急速に整理した後でも、米國軍事専門家は此の「沙漠の古狐」は容易に打倒し得まいと述べてゐるし、一般人の間には南北戦争時代の南軍總司令官ロバート・リーの彼を比較するものさへあり、又、ロメルが一九三八年匿名で訪米し、數週間ヴァージニア州に滞在してリー將軍の戦術を研究したとの風説さへ飛んでゐる有様である。

ロメル將軍麾下の獨逸軍と協同して北阿東部戦線に活躍する伊太利軍の總司令官バステイコ將軍は、一九四一年六月ガリボルジ將軍の後を受けてリビア總督兼リビア

派遣軍總司令官に任ぜられたもので、當年六十六歳、一九一二年の伊土戦争参加を始め第一次世界大戦やエチオピア戦争参加の武勳に輝く歴戦の名將である。即ち第一次世界大戦に於ては狙撃兵九聯隊長、ゴリツイヤ十四旅團長等に歴任、一九三二年五月には師團長に昇進して、

ローニヤの師團長に就任、一九三五年五月には東部フリカの「三月二十三日」師團長に任命された。この間、銀章並に銅章を授與され、更にスペイン内亂に際してはスペイン派遣義勇軍團長として偉功を立てた。かくして一九四〇年には大將に昇進、ドデカネーゼ諸島駐屯軍司令官兼總督を経て昨年六月北阿戦線伊太利軍の總帥に轉じ、本年八月十一日には元帥に昇進したのであつた。

北阿東部戦線でロメル、バステイコ兩將軍麾下の獨伊軍と相對峙する英國中東軍の總司令官は、今春疾風迅雷の如き皇軍の急追の前には命からがら印度に逃げ込んだ

前ビルマ英軍司令官として世人の記憶に未だ新たなアレキサンダー中將其の人である。しかも、チャーチル英首相は彼の何處を見込んだのか、去る八月十八日、英國中東軍の改編増強に際してオーヒンレックの後任として彼を英國中東軍司令官に拔擢したのであつた。

元來此のアレキサンダーは一昨年ロメル元帥の爲め佛國海岸アブヰイルに迄追ひ詰められ、ダンケルクの撤退の慘禍を招來した張本人であるが、ビルマでも重慶軍を置き去りにしてさつさと印度に逃げ込んだあたり、敗走にかけては一種の名人と云ひ得るであらう。第一次世界大戦では歐洲西部及び東部戦線に出征し、革命後ポーランドで赤軍と戦つた事もあり、七年程前に印度國境地方で討伐戦に従事した後一九三六年から英帝の侍從武官を勤めた経歴を有し、當年五十二歳、カレドン伯爵の三男、ノーバリー伯爵の外孫として、又青年時代には一哩競争に四分二十秒の記録を作つたスポーツマンとして、

英國上流社會の氣受は頗るいい模様である。

去る十一月八日、佛領北阿上陸作戦に成功して、米英兩國民を狂喜させたアイゼンハワー中將は、當年五十一歳、去る六月二十五日、歐洲派遣米軍總司令官に任命される迄は、參謀本部作戦部長の地位に在つた新進の少壯將軍であるが、十一月八日附米國陸軍省の發表によれば、數ヶ月前、在華府聯合軍共同作戦本部の指令によりロンドンに聯合軍總司令部が創設された際その總司令官に任命され、且、歐洲派遣米軍總司令官も引續き彼が兼任することとなつたのであつた。従つて、現在北阿方面に作戦中の米英軍は陸海空三軍共にアイゼンハワーの單一指揮下にあり、彼は今や歐洲、北阿に於ける米英側の總大將として、自分より遙に古參で戦功戦歴でも自分に立優つてゐる陸海諸將軍を思ふが儘に指揮し得る立場を與へられてゐる。

アイゼンハワーはカンサス州のクエーカー教徒の家庭に生れ、父は農業兼製氷業者で、六人兄弟中長男アーサーは銀行家、次男エドワードは辯護士、三男は彼、四男は最近死んだが藥劑師、五男は技師、末弟ミルトンは戦時情報局長官エルマー・デヴィスの輔佐官をつとめてゐる。

士官學校時代のアイゼンハワーは、蹴球、野球、拳闘何でもござれの運動家として聞えた外はむしろ平凡な學生であつたが、卒業後軍事科學に關する書を讀破し華府の陸軍大學及びフォートリーウンウオースのコマンド・アンド・チエネラル・スタッフ・スクールをともに優秀な成績で卒業、今では作戦殊に機械化戦術の權威として米國陸軍部内に著聞するに至つた。第一次世界大戦では、十一月十二日出征渡佛することになつてゐたが、その前日である十一月一日に休戦協定が成立してしまつたので、参戦の機會を失ひ、今回が彼にとつては最初の實戦であると傳へられる。その性格は粘り強く、しかも議論をさせ

ると剃刃の如き辛辣さを示すが、平常は、坐談のうまい交際家で殊にブリッヂは名人だと云はれてゐる。更に變つてゐるのは少年の頃から料理に巧みであつたことで、今日でも手料理をつくつて人に食はせたがる奇妙な道樂をもつてゐる。

◇

最後に、米軍の佛領北阿進駐に伴ひ、北阿佛軍總司令官を自ら買つて出たジロー將軍の存在も見逃し得ないであらう。

同將軍は、本年六十三歳、曾て佛領モロッコの叛徒討伐に従事した際には、神出鬼没の巧妙な作戦で人目を眩惑したばかりでなくその塔乗する飛行機が断崖に墜落しても命拾ひをするといふ不死身振りを發揮して、魔法を知つてゐるのではないかとまで大真面目で噂され、流石勇敢なアフリカ回教徒達を畏怖させたといはれる佛國陸軍屈指の猛將であるが、第一次世界大戦でも、今次大

戦でも、獨軍の捕虜となりながら、毎回巧に脱出して、「魔術師」の綽名に背かず、敵味方を驚倒させたのであつた。

殊に、今次大戦に際しては、一昨年五月、獨逸軍のフランス進撃の際、ムーズ河附近の守備を擔當する佛國第九軍總司令官として激戦後、同月二十一日、獨逸軍に捕へられ、ケーニツヒシュタイン要塞に收容されてゐたが、本年四月、突如其處から脱出し、スイスに潜入し、四月二十五日にはスイスを立去つたと傳へられた。

其後は消息判然としなかつたが、十一月八日、米軍の佛領北阿上陸に際し、所在不明の放送局から北阿佛軍全將兵に對して米軍への協力を要請する放送を行ひ、「我々自身を救ふこの機會を失つてはならない、余は諸君を信じて再び戦闘部署に就いた。」と呼びかけたのであつて、彼の一貫した反獨的態度はここに愈々その本領を露出した感があり、且、その後北阿

佛軍總司令官を僭稱するや、麾下の佛軍に米英軍のチュニジア進撃に對する協力を命令し、十一月末日、北阿佛軍の一部は、遂にチュニジア方面に於てネーリング將軍麾下の獨逸軍と戦闘状態に入つたと傳へられてゐる。しかもダルランとの折合は必ずしも圓滑でない模様で

あり、又、ド・ゴールとの關係が全く氷炭相容れない状態にあることはいふまでもないのであるから、このジロー將軍の今後の運命こそは、ダルラン、ド・ゴール兩傀儡政權の將來と共に、數奇波瀾を極めるものと豫想される。

ダルラン、ド・ゴール兩佛傀儡政權の對立

老軀八十六歳、一身を國家に捧げて、しかも國運の日に日に傾くのを眼前に見なければならぬフランス國家主席フィリップ・ペタン元帥昨今の心境を推察するとき、何人も無限の感慨を禁じ得ないであらう。

しかも、彼が息子の如く愛し、國家主席の後繼者に定めてゐた國家副主席兼陸海空軍總司令官ダルラン提督は、十一月八日、米軍が佛領北阿に進駐を行ふや、恰も滞在中であつたアルジェーで即日米軍と休戦交渉を開始し、

十一日には北阿佛軍全部に停戦命令を下し、十五日には佛領北阿に新政權を樹立して、その主席に就任した。そして又、佛國陸軍の人氣男ジロー將軍は、米軍侵入當初から北阿佛軍を米英側に協力させるべく全力をつくしてゐたが、同じ十五日、遂に北阿佛軍總司令官を僭稱して、その指揮權を恣に掌握するに至つたのである。これに對し、ペタン國家主席は、即日、ダルラン提督を叛逆者として取扱ふに決定し、一切の軍職公務を剝奪

すると共に、佛國陸海空軍總司令官の資格を以て、「ジョー」將軍は戰禍を佛國領土に齎した外國軍から軍司令官の稱號を勝手に受領したものであるから、佛軍全將兵は同將軍の賣國的行為に加擔し、その命令に従つてはならない。」との峻嚴な布告を全軍に發した。そして、十七日には、從來ダルラン提督が保持してゐた佛國國家主席の後繼者たる資格をラヴァル政府主席に賦與し、併せて同政府主席に國政處理の全權を委任した。そこで、ラヴァル政府主席は、翌十八日、海相その他を更迭して内閣改組を斷行、ここにヴィシー政府の陣容は早くも力強く再建されやうとする觀を示した。しかるに、不幸はそれのみには止まらず、十一月二十七日、ツーロン在港佛國艦隊の自沈事件が勃發し、佛國軍隊は事實上の解體に等しい状態に立ち至つたのである。

他方、ダルランの北阿新政權樹立は佛國政府及軍部内

を具へてゐないことも明かなので、結局北阿新政權は、未だ反ラヴァル派の寄合世帯にすぎない有様である。のみならず、全世界に散在するド・ゴール派が一齊にダルラン攻撃を開始した結果、事態は益々複雑化せざるを得なくなつた。

即ち「戦ふフランス」首領ド・ゴール將軍は、ダルラン北阿新政權が十一月十五日樹立されるや、翌十六日、チャーチル英首相を訪問、同政權否認の態度を闡明したものの如く、在英ド・ゴール政權は、同日、左の如き聲明を發表したと傳へられる。

「佛蘭西國民委員會は、北阿新政權樹立交渉に何等参畫してゐないが故に、右交渉に對し責任を負はず、又、その決定事項を承認しない。」

そして、赤道アフリカに於けるド・ゴール派の中心地であるブラザヴィルのラチオ放送は連日の如く猛烈にダルランを攻撃し、又、在伯ド・ゴール委員會も、同日、

に深刻な影響を及ぼし、軍人、官吏中には辭表を提出するものも現はれ、ベタン元帥に對する尊敬は今尚廣く國民中に存在してはゐるものの、今や對獨協力を續けても佛國の政治的生命は事實上救ひ難く、むしろ米英今回の舉こそ佛國復興の基となるのではないかと感奮向も少なく、殊に在ツーロン佛國艦隊の自沈事件に關しては、同艦隊司令官ラ・ポルト提督に對するダルラン提督のツーロン退去並にオラン退避指令も與つて力があつたとの觀測が廣く流布された結果、ダルランの權威を從來より高く評價する傾向も現はれ、更に、フランダン元首相がダルラン政權に合流したと報道されるに至つて、前途の見透しに迷つてゐた佛國財界は、急に北阿新政權を見直すやうな氣配を示したと報せられてゐる。

しかし、ダルランの威望は、未だ到底ベタン元帥には及びもつかないばかりでなく、北阿佛軍總司令官の稱號を受諾したジョー將軍の奔放不羈を抑へられるだけの實力ルーズヴェルト米大統領及びチャーチル英首相に對し「北阿新政權とは斷じて協力せず」との通電を發した模様で、ルーズヴェルトが、十一月十七日の記者團會見席上、ダルランとの協定は戦争遂行上の一時的便宜手段に過ぎないと言明したのは、意外に猛烈なド・ゴール派の反對を考慮したものとも推察される。

そして、米國朝野としては、ダルランの停戰命令が米國遠征軍の犠牲を少くしたことは否み難い事實なので、ダルラン政權への同情に傾いてゐるが、他方、英國朝野では、ド・ゴールを支持してきた從來の経緯もあり、且オラン海戦以來ダルランを反英の急先鋒と睨んできた關係上、決してダルランに好意を寄せてはゐず、殊に十七日の英下院では、反チャーチル派のグランヴィル、シンウエル等の諸議員が右問題に關し政府の措置を論難し、グランヴィルの如きは、「英國國民の信ずるところによればダルランは引込むべきだ」とまで極言したと傳へられる。

しかも、英國政府當局としては、ダルラン、ジローの佛國陸海軍に對する信望がド・ゴールに優り、従つて北阿新政權の實力は認めざるを得ないため、兩政權取扱上の處置には少からず苦慮してゐる模様で、チャーチルが十一月二十三日夜のド・ゴールの演説放送を最後の瞬間に差止めた如きは、その間の事情を明かに示唆してゐるものといへよう。

◇

このやうに、ダルラン、ド・ゴール兩傀儡政權の噛み合ひは相當以上に深刻であつて、ダルランやジローが甘んじて後輩ド・ゴールの下風に立つとは考へられないし、ド・ゴールとしても二年有餘の辛酸を棒にふつて釋然と

北阿新政權の傘下に馳せ參じる程の雅量を持ち合はせてゐるとはおもはれない。のみならず、ジロー將軍麾下の北阿佛軍が米英聯合軍のチュニシアに對する東方進撃に協力してゐるとき、チャド湖方面ド・ゴール派軍隊一萬乃至四萬はリビアに向け北上進撃を行つてゐる模様で、すでに佛領アフリカの南北に盤踞する佛國兩傀儡政權は槍先の功名争ひまで始めた觀がある。

しかし上記のやうなルーズヴェルト米大統領やチャーチル英首相の言動からみても、米英首脳部がこの兩政權の對立に何等かの解決を見出さうと考慮してゐることは明であり、従つて、兩政權の對立暗闘がいつまでもつゞくものと觀することは、一種の過大評價に陥る危険性があらう

英内閣の改造とクリップスの左遷

チャーチル英首相は、十一月二十二日、突如内閣改造

を断行し、閣内の重鎮と見なされてゐたサー・スタッフ

オード・クリップスを國爾尙書から航空機製作相に左遷すると共に、戦時内閣員及び下院院內總務の地位から去らせてクリップスの所謂「光榮ある三職」を一舉に剝奪した。しかも、クリップスの名聲は、入閣當時に比し昨今著しく凋落してはゐたものの、未だその第一線退陣が一般輿論から要求されてゐたわけではなかつたので、英國朝野は各方面とも多大の衝撃を受けたのであつた。従つてチャーチル首相は、例によつて鄭重な書簡をクリップスに送り

「現下國家の緊急事である空軍増強並に無電技術發展の爲に航空機製作相に就任されたい」

と要請し、クリップスも之を諒承する旨回答してゐるが、一般市井の風評はチャーチルが北阿戦局の好轉によつて輿論の不満攻撃の一應鎮靜した機會を利用して、豫て眼の上の瘤としてゐたクリップスを戦時内閣から追ひ出し、自己の獨裁専制を強化したものと見るに一致してゐる。

◇

クリップスが英國戦時内閣に入閣したのは、去る二月十九日のことであつたが、當時クリップスは、大使として駐節してゐた蘇聯から歸國したばかりで、チャーチル内閣倒壊の場合には最も有力な首相候補者であるとして萬人から認められてゐた。

他方、その頃チャーチル内閣は、シンガポール陥落其他によつて國民の熾烈な非難攻撃の的となり、總辭職か改造か、その何れかに出でない限り政局の不安を解消し得ない立場に置かれてゐた。そこで、チャーチルは、内閣改造を行つて輿論を慰撫すると共に、人氣の絶頂にあるクリップスを入閣させて内閣の強化を計つたのであつて、當時の情勢上、已むを得ずクリップスを入閣させたものの、内心決してそれを喜んでゐたものではなかつたと觀察される。

このことは、入閣後のクリップスに對するチャーチル

の取扱振りからも窺ひ得るのである。殊に入閣後間もなく、失敗必至と見越された対印交渉にクリップスを派遣したこと、又、チャーチル自身のモスコウ訪問に際しクリップスを同伴せず、親蘇派随一の巨頭たる彼をのけものにして對蘇交渉を行ったこと等は世界の注目を集めたものであつた。そこで政界の一部では、チャーチルはクリップスを閣内に引込んだ後、計畫的にその政治的生命を削りとり、最近の好機を利用してこの最も恐るべき政敵を失脚させたのだといふ下馬評さへ行はれてゐるのである。

この風説は余り穿ちすぎてゐるにしても、事實、クリップスの政治的聲望は、對印交渉の失敗後急激に下り坂になり、チャーチルの訪蘇以後は、英蘇提携上不可欠な存在としての政治的立場もすっかり影が薄くなつてしまつたのであつて、クリップスの左遷に對し、國內の要人中決然立つてチャーチルに食つてかかる者なく、蘇聯も

亦何等反對の意を示してゐないことは、そのいい證據であらう。

榮枯盛衰は世の習ひとは云ひながら、クリップスとしては、蘇聯から歸國した當時の云はば朝日の昇るやうな人氣を顧るとき、今更乍ら感慨無量なものであることと思はれる。



元來、クリップスは、英國政界に於て共產黨を除く極左派中の第一人者であり、曾て労働黨と共產黨とを協力合體せしめようとする人民戦線運動を支持して、労働黨を除名された程で、それ以來労働黨幹部派殊にベヴィン労働相等とは全く相容れない間柄となつてゐた。それだけに英國労働界の反幹部派中には、今尙侮り難い勢力を有してゐるが、他面、その極端な對蘇提携論は、下院に四百近くの議席を有する今を盛りの保守黨、しかも本質的に蘇聯嫌ひな保守黨の白眼視するところとならざるを

得なかつた。

その上、クリップスの戦争遂行に關する見解も亦同様、就中チャーチル以下保守黨出身閣僚の不滿を買つてゐた。

即ち英國の戦争運営に關し、チャーチル其の他はひたすら戦勝獲得のみに邁進し、社會問題を重大視しないのに對して、クリップスは、從來の持論上、絶えず社會問題に多大の關心を示した。このことが左翼及び群衆に迎合するものとしてチャーチル等の警戒心を招いたのである。

その結果、クリップスの閣内に於ける位置は、水の中に混つた一滴の油の如く、文字通り四面楚歌に近い状態となつてゐた。従つて、チャーチルとしては、閣内の意見の統一をはかる上からも、クリップスを追出す必要があつたとみられる。

現に、クリップスに代つて戦時内閣員となつたモリソン内相は、嘗つて肉屋で働いた事のある純労働者出身の

労働黨員ではあるが、内務次官時代に共產黨機關紙デイリー・ワーカーの發刊を停止したため、労働黨極左派及び共產黨から極端に毛嫌ひされ、労働黨中隨一の保守帝國主義者と目されてゐる人物であるし、チャーチル首相やイーデン外相はもとより、英國戦時内閣閣僚は、七名全部が何れもチャーチルの帝國主義政策遂行に協調し、或は追従する連中のみであるから、チャーチル内閣は或意味で強化されたものといふことができる。

尙、今次内閣改造で注目されることは、イーデン外相が下院總務として下院に於ける政府代表となり、チャーチルの後繼者となるかの觀を示し始めたことと、植民大臣クランボンが國璽尙書に轉じた後任として、オリヴァー・スタンレー大佐が植民大臣に任命されたことであらう。

スタンレー大佐はその名の示す如く、十九世紀以來、セシル家と相並んで幾多の大政治家を出したスタンレド

家の出身で、當年四十六歳、精悍聰明を以て聞え、最近にも印度問題に關し、「英帝國の問題解決に議論感情は無用である」と述べて、英國帝國主義傳統精神の権化の様

にもはやされた目下賣出しの少壯政治家であり、その今後の施策は内外關心の的となつてゐる。

世界各國物價騰貴率

今秋芬蘭經濟誌が發表したところによれば今次歐洲大戰勃發以後今日迄の世界各國物價騰貴率（一九三九年半を標準とす）は左の如くである。

獨逸	三三及三七	五及五	六五及六二
洪牙利	二七及一五	六二及三九	八六及四七
ブルガリア	三三及五〇	六九及六〇	七九及八〇
佛蘭西	六二及三二	九六及五〇	一〇〇及五四
瑞典	四四及一九	五四及三四	七〇及三九
瑞西	四五及二一	五九及三三	六九及四二
瑞蘭	五三及二七	八八及三四	九八及四三
芬蘭	五四及二四	八二及五一	九五及六四

米英協力に關する兩國輿論の傾向調査表

米誌フオーチユンが本年七月行つた輿論投票調査によれば、米英協力その他戰後問題に關する兩國輿論の傾向は左の如くである。

英國名の保存 英國名の解消
英 國人 二四% 何國でも最優秀者
米 國人 〇・六% 二% 五八・五%

質問 英米が合併したと假定すれば、貨幣として弗と磅の内どちらがよいか。
答 英國人 二六% 弗 どちらでもよい者 四九%
米 國人 六% 六七% 二四―二五%

質問 平和問題に關し何國が最大の發言權を持つべきか。
答 英國 英國米國ソ聯支那不明
英國人 四三% 六% 二八% 一% 二二%
米 國人 三〇% 二八% 二五% 一 一七%

質問 米英聯合海軍の司令長官には米英人何れが良いか。
答 英國人 五三% 五% 五% 五%
米 國人 〇・八% 六六% 八% 二五%

質問 戰後に於ける銀行、炭礦、鐵道、電話、會社、自動車會社、食料品店等六大重要産業の官有官營化はどうか。
答 英國 英國米國ソ聯支那不明
英國人 四三% 六% 二八% 一% 二二%
米 國人 三〇% 二八% 二五% 一 一七%

質問 合併後の首府を何處に置くか。
答 英國人 二六% 弗 どちらでもよい者 四九%
米 國人 六% 六七% 二四―二五%

質問 戰後に於ける銀行、炭礦、鐵道、電話、會社、自動車會社、食料品店等六大重要産業の官有官營化はどうか。
答 英國 英國米國ソ聯支那不明
英國人 四三% 六% 二八% 一% 二二%
米 國人 三〇% 二八% 二五% 一 一七%

答 政府の統制 政府の統制 政府の産業
賛成 反対 干渉
英 國人 三三% 三三% 四〇%賛成
米 國人 一〇% 二四・五六% 二四・六二%
反対

質問 戦後の國家間の聯合はどうすればいいか。

答 世界の全
米英兩國
の緊密
世界全
國の聯盟
聯合

英 國人 一三% 二二% 一八% 二七%
米 國人 二六% 八% 三・五% 三四%

質問 自由通商と無制限移民についてはどう思ふか。

答 自由通商 自由通商 無制限移民 無制限移民
賛成 反対 賛成 反対
英 國人 六九% 一三% 六〇% 一
米 國人 四二% 三五% 二三% 六三%

質問 英米兩國の紐帶強化及び一方が脅威を受けた場合
他方が一方の爲に戦ふことについてはどう思ふか。

答 英米軍の合併
英 國人 一九% 一方が脅威を受け
米 國人 六・五% 時接げに来る
三六・五%

質問 英米兩國は相互に自餘の諸國と同様に扱ふべきで
あるか、又兩國協同の下に世界警察を樹立すべきであ
るか。

答 自餘の諸國同様
の扱ひに賛成 二七% 英米協同の世界
警察樹立に賛成 六四%
米 國人 三五・五% 四四%

米國財政經濟狀況一覽表

(一) 豫算

歳	出	歳入
一九四二年度	三三,一八八,五五七,六五五	三三,一八八,五五七,六五五
一九四三年度	三三,〇九七,七五七,七三三	三三,〇九七,七五七,七三三
一九四四年度	三三,〇九七,七五七,七三三	三三,〇九七,七五七,七三三
備考	外に一九四一年度契約支拂殘七 三〇,三三五,六九五弗あり 新計畫豫算一〇,三三四,三九〇、 四六八弗を含む	豫算局八月七日發表 一九四三年度には、新增稅案六、 二七、〇〇〇,〇〇〇弗を含む

(二) 稅收入(新增稅法案による大藏省見積)

歳	陸軍	海軍	其他(レンドリー スを含む)	合計	實際
一九四二年度	一八,九五〇,五二一	一〇,三九六,八六二	八,四四〇,三二六	三七八七,七〇九	三七八七,七〇九
一九四三年度	二四,七五五,八三三	一〇,三九六,八六二	二,四六三,三三九	三六八四,七〇七	三六八四,七〇七
一九四四年度	二四,七五五,八三三	一〇,三九六,八六二	二,四六三,三三九	三六八四,七〇七	三六八四,七〇七

(三) 公債

月	國防公債	公債	天引貯金
五月	五三,一〇〇	一	一
四月	六三,〇〇〇	一	一

(四) 預金(中央準備都市銀行の加盟銀行狀態)

月	預金	定期	貸付	農工省	政府債	所有高
六月	六,四四〇,〇〇〇	七,二四二,二〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
七月	九,〇一〇,〇〇〇	八,一七二,八〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
八月	七,〇七〇,〇〇〇	八,一六八,五〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
九月	八,三〇〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
十月	八,一四〇,〇〇〇	八,一四〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

(單位一萬弗)

八 月 月 二七六〇〇 三三六〇〇 三三三〇〇 三三六〇〇 三三六〇〇

(五) 通貨流通高

六月二十七日 一、二二三、五〇〇
七月二十五日 一、二五四、六〇〇
八月二十八日 一、三〇五、七〇〇

尙、金保有高は二百二十七億弗で不動である。又、八月末日に於けるコイン、アンド、カレンシーの流通高の合計は百三十二億五百萬弗であつて國民の頭割にすると九十八弗三十六仙見當になる由。

(六) 國民所得

政府發表 (單位一萬弗)
國民所得高 一九四〇年 一九四一年 一九四二年
七、七〇〇、〇〇〇 九、〇〇〇、〇〇〇 一、一五〇、〇〇〇
國民所得に對する賃銀及給料の割合
一九三六年 一九四〇年 一九四一年
五九% 六五% 六七・五%

週 收

一〇〇弗以上 七%
六〇弗以上 一三%
四〇弗以上 二二%
三〇弗以上 一七%
二〇弗以上 一九%
一五弗以上 八%
一〇弗以上 七%
一〇弗以下 七%
尙右は非農業家族二八、〇〇〇、〇〇〇人に付き調査したものである。

政府八月二十二日發表 (單位萬弗)

一九三九年 一九四〇年 一九四一年 一九四二年
國民消費 六、〇〇〇、〇〇〇 六、六〇〇、〇〇〇 七、五〇〇、〇〇〇 前半年
國民支出 一、〇〇〇、〇〇〇 一、二〇〇、〇〇〇 一、四〇〇、〇〇〇
個人企業投資 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、二〇〇、〇〇〇
卸賣物價指數 一九三九年 一九四〇年 一九四一年
米國勞働統計局發表 九八・八
生活費指數 全國產業會議局發表 九六・九

(七) 物 價

卸賣物價指數 一九三九年 一九四〇年 一九四一年
米國勞働統計局發表 九八・八
生活費指數 全國產業會議局發表 九六・九

(八) 資 源

七 月 月 九八・四
九 月 月 九八・五

九八・四
九七・五

八 月 月 九八・八

九八・八

其 の 一

生 産 高 油
米 國 産 石 油
協 會 發 表 (單位一ガロン)
一、〇七八、一五〇 (末日現在)
三、七四〇、〇〇〇
三、四八四、六一〇
三、六二二、〇〇〇
三、六八〇、四〇〇
三、五四八、三三〇
三、九四九、九九〇
ス ト ヲ ッ ク
鐵 道 局 發 表 (單位一ガロン)
三、〇七四、〇〇〇 (末日現在)
二、四九〇、〇〇〇 (末日現在)

生 産 高 ソ リ ン
米 國 産 石 油
協 會 發 表 (單位一ガロン)
一、八〇六、五二〇
一、六三二、〇〇〇
一、五三七、八〇〇
一、五〇〇、〇〇〇
一、四七三、八〇〇
一、五六〇、〇〇〇
一、六〇一、二五〇
ス ト ヲ ッ ク
鐵 道 局 發 表 (單位一ガロン)
九、七八三、〇〇〇 (末日現在)
八、七八三、〇〇〇 (末日現在)

發 電 量
電 氣 協 會 (單位百萬K.H.)
三、四三二
三、三六九
三、四二二
三、四三三
三、五三九
三、六五一

八 七 六 五 四 三 二 一
月 月 月 月 月 月 月 月

銅		亜鉛		鉛	
米國同協會		米國同協會		米國同協會	
生	高	生	高	生	高
産	産	産	産	産	産
高	高	高	高	高	高
ストツク	ストツク	ストツク	ストツク	ストツク	ストツク
九〇、〇七	八二、三七	七九、三七	二二、九二	一七、四七	二九、〇七
八九、五五	七九、五七	七三、四七	二二、六二	一七、四七	二七、六〇
九〇、六七	八三、七九	七九、一三	二二、七〇	一七、四七	二七、六〇
九八、六三	七三、八三	七七、〇三	二二、五九	一七、四七	二七、六〇
		七九、四九	二二、五九	一七、四七	二七、六〇
		七九、四九	二二、五九	一七、四七	二七、六〇

尙一九四一年度の全米に於けるガソリンの消費量は米國公路管理局推算によれば二六、六一三、〇〇萬ガロンである。又、八月の發電量は一九三五年乃至一九三九年平均の一三二・八%に相當する趣である。

米國中間選挙とその政治的意義

米國参戦以來最初の中間選挙は十一月三日舉行されたが、その結果民主黨と共和黨との新分野は左の如き數字を示すこととなつた。(括弧内は舊分野)

院	州知事
民主黨 五七(六五)	三三(三五)
共和黨 三九(二九)	三三(二六)

この様に數字の上でこそ民主黨は依然過半数を制し

てゐるが、下院で三十五の議席を、そして上院でも八の議席を野黨に奪はれたことを考へると、ルーズヴェルト政權の強固な地盤にも多少の戦がはいつたことは何人も認めざるを得ないであらう。しかも民主黨の反ルーズヴェルト分子が勢力を増大して共和黨に協力する場合の有り得ることを考慮に入れば、ルーズヴェルトたるも

の今後はずしも憂如たり得ないわけである。しかし、それによつて米國の戦争遂行方針が弱くなるかといふと、事實は正反對であつて、ルーズヴェルト大統領は、戦争指導の強化に對して益々馬力をかけるであらうし、共和黨もこの點に關する限りそれを煽り立てこそすれ決して抑へようとはしないものとみられる。

先づルーズヴェルトについていへば、戦勝後の恩澤に對するあらゆる言質を與へ、戦敗の惨害に對するあらゆる恐怖を吹きこむことによつて、國民を現在の段階まで引ずつてきた以上、今更それと反對の妥協的方針に出ることは、自己の政治的生命を自ら斷つに等しく、彼としては、もはや馬車馬の如く戦争の徹底的遂行に邁進する外はないのであるが、他方、野黨側にして見ても、戦争遂行に關する限り、あく迄政府を支持する形をとつて置けば、戦勝の場合は、その光榮をルーズヴェルトに獨占

される惧れはないし、若し敗戦したら、そのときはルーズヴェルトに全責任を負はせればよいといふ目算なのである。従つて、野黨が政府の戦争遂行を阻害したために負けたといつて、政府から敗戦の責任を負はされることだけは眞平御免蒙りたいに違ひない。

事實、今度の中間選挙に關しては與黨たる民主黨も、野黨である共和黨も、共に徹底的戦争努力を主要政綱として掲げたのであつて、現に共和黨領袖フーヴァー前大統領は、投票直前の十一月二日、左の如く言明した。

「樞軸諸國は今大選挙により何等の慰安も見出し得ないであらう。蓋し兩黨候補者の主張するところは何れも強力且有效な戦争遂行に外ならないからである。」

そしてまた、共和黨領袖デューイ新ニューヨーク州知事は、當選直後左の如く言明した。

「我々の爲すべき仕事は唯戦勝への努力を倍加するにあるのみ。」

尙、ニューヨーク州は民主黨にとつて二十年間不敗の地盤であつたがデューイは民主黨のベネットを二二二萬對一四九萬票で堂々と破り、しかもその得票は、ベネットの得票と労働黨候補者の得票とを合せたよりも多かつた。

かくしてデューイは次期大統領選挙に於ける最有力候補の一人と目されるに至つたのである。



他方、参戦以來米國に於ける政治的實力は、議會の手を離れて、漸次行政府に移つて行く傾向があり、議會は單なる形式的な存在に轉落しさうな氣配すら生じてきたので、この點を繞つて政府と議會との間に内輪もめが表面化し、すでに政府と議會就中野黨との間には、どちらが戦争遂行の邪魔してゐるかといふことについて、責任のなすり合ひまで行はれてゐる。

即ち、十月上旬、コロンビア輿論研究所の調査として

報せられたところに依れば、米國行政當局の三割九分は議會は戦争目的に障礙を與へてゐるといふ非難に賛同したが、これについて議員側の言分を調査したところ、議員中の九割六分までが右非難に反對し、その理由として、戦争遂行を妨害してゐるのは、むしろ行政當局であつて、議員は選挙民と共に國家に忠實であると斷言したのであつた。

しかも「議會が何故にかうした非難を受けると思ふか」との質問に對して、議員達は露骨に内心の憤懣を示した回答を行ひ世人の注目をひいた。回答中の主要なものは次の通り。

- (イ) 民主主義的政治形態破壊の意圖による 二割六分
- (ロ) 官僚が自己の権力と權威とを議會の犠牲に於てより高めようとするによる 一割三分
- (ハ) 政治的動機による 一割一分

(ニ) 行政當局が無爲無能の罪を議會に轉嫁しようとするによる 一割一分

のみならず、「どうしてさうだと察知したか」との間に對して、議員の割五分が行政當局の宣傳に鑑みた結果だと回答してゐるのである。

行政當局と議會との唾み合ひが、いかに深刻なものであるかはこれだけでも想像に難くないであらう。



かうした議會側の憤懣は、當然どこかに排け口を見出さざるを得ないわけであるが、前述のやうに戦争問題に關する限り、議會側も政府同様、或は政府以上に、強いことをいはずを得ない立場にあるので、自然八つ當りの差し向けられるところは内政問題とならざるを得ない。

例へばナイ上院議員は、十一月初旬、「大統領は共和黨陣營に於ても民主黨におけると同様

に戦勝を獲得せんとする完全なる決意が固められてゐることを知るべきだ。然し今回上下兩院を通じて共和黨が多数の議席を獲得した結果、今日迄戦争目的のためには計上された豫算で、政府がいかなることを行つてゐるかと言ふことの發表を一層強制されることとなる」と余は確信する。」

と述べてゐるが、今後、共和黨は内政問題に關する限り、機會ある毎にルーズヴェルト政權に對し意地の悪い小姑のやうな態度に出るであらうし、これに民主黨内反ルーズヴェルト分子が調子を合せるやうな場合には、議會内で、一應ルーズヴェルトの面子を傷けるやうな議決の行はれる可能性もないではない。その意味で内政問題に關する議會の動靜は、反ルーズヴェルト感情の高低を卜する上での一つのバロメーターとなし得るであらう。

更にまた、今やルーズヴェルトに思ふさま引ずり廻されてゐる觀のある米國一般大衆にしても、内心決して不

平不滿を包蔵してゐないわけではない。殊にルーズヴェルト及びその側近者の一團は、眼中議會あつて議會なきが如く、與黨の民主黨中でも一種の特權貴族階級を形造つて、壓倒的な權勢を振り廻してゐる。これを獨裁嫌ひの米國民衆が何時までも黙つてみてゐる筈はなく、今次中間選挙に於ける與黨の後退は、多少なりともルーズヴェルト一派の專横を抑止する力を議會に回復させようとする民意の一端が現はれたものと見ることが出来る。

このことは、十一月五日附紐育タイムスが

「上下兩院を通ずる共和黨の異常なる躍進は華府政府當局をして通常の状態に立直らせることに役立つた。」と論じ、又、同日附ニューヨーク・ヘラルド・トリビュ

ン紙が、

「共和黨躍進の原因は、國民がルーズヴェルト政府の戦争遂行振に不滿を有すること並に共和黨か有能な人材を選んだことに起因する。」

と述べ、又デイリー・ミラー紙も

「増大する危機に直面して困惑した國民は、選挙投票を通じて、抗議的意思を表示した。國民が不滿を有するのは、戦争夫れ自體に對してではなくて、政府の戦争遂行振りに對してである。」

國民はニューデーリーの戦争遂行振りが極めて拙劣なこと看取してゐる。」と論じてゐることからも、察知し得るやうに思はれる。

アルゼンチン及びチリーの中立維持と米國の策動

中南米諸國中、アルゼンチン及びチリー兩大國は、米

國參戰以來の一年間、米國の執拗な策動にもかかはらず

毅然たる中立的態度を維持してきたが、米國側は、最近兩國に於ける所謂「樞軸機關の政治的暗躍」に關する調査報告書なるものを夫々兩國政府につきつけ、その取締方を嚴重要求して、樞軸諸國との交友を傷めるべく圖ると共に、陰に陽にありとあらゆる反樞軸宣傳を行ひ、殊に米英の佛領アフリカ進駐が成功して以來は、兩國に對する抱込工作は目に餘るほど激化した。

そこで、アルゼンチン及びチリーの中立は、現在世界外交界の注目の的となつたといつても過言ではないのである。



先づチリーでは、去る十月中旬の内閣更迭以來、米國側の外交的謀略或は宣傳工作が益々積極化し、その結果、同國內親米派の蠢動も著しく、我が方としてもこれを放置することは當を得たものでないと思へられたので、十一月十八日、堀情報局第三部長談を以てこれに一

矢を報いたところ、チリー有識者階級に多大の共鳴を與へ、我が方の見解をチリー朝野に徹底せしめるのに效果極めて顯著なものがあつたと認められた。

蓋し、右堀部長談は

(イ) 對樞軸斷交乃至參戰の舉に出でた南中米諸國は、その豫期に反して經濟的逆境に陥つたのみならず、米國軍進駐の爲米國の屬國化したこと

(ロ) 米英側の虚報にも拘らず帝國は急速且確實に全太平洋制壓に邁進して居り、もしチリーが中立を放棄すれば南米太平洋岸に於ける海運上の優越的地位を喪失するに止まらず、國民生活を混亂と窮迫とに導くであらうこと

等を指摘し、右事實を明確に認識してゐるチリーの賢明な政治家が從來維持してきた中立政策は同國の國家的利益を擁護する上に極めて有益である所以を友好的に表明したものであつたが、米英側が其内容を若干歪曲して傳

へた関係もあり、一時はチリー朝野の一大問題となつた。しかし、それだけに、チリー國內、反樞軸分子の反省を促し、併せて米英北阿進駐の外交的宣傳効果を減殺しようとする所期の効果は、充分果されたものと認められた。

然も、チリー政府は、十九日、在京チリー公使に對し、堀部長談原文電報方を訓令すると共に、二十日、フェルナンデス外相は山形公使と會見後

「右談話に於て何等チリーを攻撃するが如き表現のないことを確信するとの日本公使の言明を外相は好感を以て諒承した。」

との聲明を公表し、越えて二十一日、山形公使より英文テキストを手交するや、二十二日の新聞は一齊に、

「堀部長談は、チリー政府の立場に對し、懇篤且理解的な見解を述べたものであつて、米英通信社の報道は不正確であるのみならず理由のない國際的紛争を惹起

せしめる惧がある。」

と、報じ、且右聲明内容はリオス大統領も閱讀したと報じ、我方に好感を表示したのであつた。そしてリオス大統領は、二十三日、對外政策に關する長文の聲明を發表したが、そのうち最も興味ある點は樞軸國との斷交が参戦に至る可能性の極めて大であるのに鑑み斷交を決意する爲には沿岸防備其の他幾多の國內的準備措置を豫め執る必要があり、しかも参戦は國庫に大きな負擔を負はしめるのみならず一切の經濟活動を戰時體制下に置くこととなり、チリーの標榜する「デモクラシー」體制の自由なる發達を阻害することとなると述べた點、及びチリーは自國領土の防衛は自分の手で行ふものであつて相手がいかなる友好國であつてもチリー防衛に藉口してチリー領土に軍隊を進駐させることを許さないとした點である。即ちリオス大統領は、チリーの對外政策は米洲連帯主義に立脚するものであり、現に米洲諸國に對し「非交戰國」

の待遇を與へ、又チリー産重要礦物の對米供給に努力すると共に、國內に於ける米洲諸國に有害なる活動の取締を強化する等により、充分米洲諸國に對し協調的態度に出てゐるのであるが、對樞軸國交斷絶の如く、直接チリーに對し重大なる影響を齎す問題については、チリーは其の國益及米洲諸國の利益を必要とする場合にこれを考慮するとしても、現狀に於てはその實行は不可能であることを表明したもので、又、チリー防衛の爲他國の軍隊の進駐を許さずとしたのは、米國の意を迎へて既に樞軸國に對し斷交もしくは参戦をした中南米諸國が、現在米兵の進駐により、殆んど米國の屬國と化してゐる状態に鑑み、國民に對し、斷交の場合かかる危険のあることを暗示すると共に、米國に對し斷乎たるチリーの決意を披瀝したものとみられてゐる。

尚、右第二の點に關聯し、十一月二十七日、ハル米國務長官は、突如、米チ兩國間にチリーが他國から攻撃さ

れた場合、米國は陸海空軍を以てチリーを援助する趣旨の軍事秘密協定がある旨を發表し、チリー朝野に大きな衝撃を與へたが、右秘密協定は、今年一月リオ・デ・ジャネイロで開催された第三回米洲外相會議の際、米智兩國代表者間に談合の上成立したものと傳へられ、ハルは本件秘密協定の存在暴露により、米國政府が前記リオス大統領の聲明に懐かないことを表明し、チリーの斷交促進に資さうとしたものとみられてゐるが、これは米國がチリーの全海岸をマゼラン海峡に至る迄、米國軍の制壓下に置かうとする野望を端なくも白日の下に曝け出したものとして注目されてゐる。

次に、アルゼンチン最近の動靜を觀察すると、カステイリョ大統領の中立堅持方針には今尙何の動搖も見られないが、これに對して、親米派のフスト將軍が、十一月三日、來年の大統領選舉には出馬すると宣言し、反カス

テイリヨの旗幟を鮮明にした。

しかも、このフスト將軍は、一九二二年から二八年まで陸相を勤め、三三年から三八年にかけては大統領の職に在つたアルゼンチン政界切つての大立物であるばかりでなく、その背後には、現カステイリヨ政權顛覆を計らうとする米國の魔手が動いてゐることは疑ひの餘地がないのであるから、事態は決してカステイリヨ政權にとつて樂觀すべきものとはかりはいはれないのである。

かくして、カステイリヨ大統領の勇斷が期待されてゐたとき、同大統領は、十一月十七日、フストの股肱として自他ともに許すトナシー陸相を辭職させ、十八日、騎兵司令官ベドロ・ラミレスを陸相に任命した。右更迭は、トナシーが、年末發表されるべき師團長の異動に關し、フスト系の軍人を起用しようとする案を提示した處、大統領は之を承諾せず却つて豫め準備して置いた案に對し、トナシーの同意を要求したためと傳へられてゐる。

る。

尙ラミレス新陸相は曾て獨逸に留學し、伊太利にも駐在した經歷があり、樞軸側に好意を有すると云はれ、今次の更迭により大統領は軍部内フスト系の暗躍を清算し、政府と軍部との聯絡を強化するものと觀測されるが、米國側も、經濟的政治的に、外部から壓迫を加へると共に、弗による買収その他あらゆる手段をつくして國內を攪亂し、カステイリヨ政權を顛覆し、親米政權を樹立し、そして對樞軸斷交にまで導くべく策動するものとみられる。

◇

かうした情勢の中にあつて、最近目立つことは、中南米に残存するこの兩中立國が最近双方から親善關係の強化に力を注ぎ出したことである。就中、アルゼンチンとチリーとの交通は昨今頓に頻繁となつたが、その結果、十數年來破壊された儘放置されてゐたアンデス山脈橫斷

鐵道の修理及び兩國間連絡道路の改良等が關係者間に議せられてゐる趣で、更にアルゼンチンは去る九月チリー獨立祭に際し海防艦一隻を派遣し、又、十月にはチリーの國民的英雄オヒギンス百年祭に際し巡洋艦二隻を派遣し、乗員をしてチリー官民と交歓させたのに對し、チリー側でも、ペルーよりの歸途チリーに立寄つた亞國軍事使節團を國賓として款待した外、十月末チリー大學生が亞國大使館前で親善示威を行ひ、十一月初旬にはチリー軍官民有力者が亞國大使を主賓とする一大午餐會を開催する等、兩國の親善關係は明に緊密の度を加へてゐることが觀取されるのである。このことは兩國間の經濟的接近と共に、相互援助によつて現下の非常時を突破しようとする兩國民熱望の現れとみる事ができよう。

各 國 動 向

米 國

【軍 事】

第三次ソロモン海戦米海軍省発表

海軍省は十一月十七日、カラガン、スコット兩少將並に甲巡サンフランシスコ號艦長ヤング大佐の戦死を發表したが、艦艇の被害は、乙巡二隻、驅逐艦六隻の損失を發表したに過ぎなかつた。但し十一月二十二日に至つて、更に驅逐艦一隻の喪失を追加した。

日本海軍ハワイ強襲を軍事當局危惧

ハワイ防衛陸軍司令官エモンズ中將は、十一月二十日の記者團會見で、左の如く述べた。

「余はニミッツ太平洋艦隊司令長官と會談の結果、日本海軍は未だハワイ強襲に充分なる兵力を持つてゐるとの點に就いて意見の一致を見た。」

米軍フィジー群島防衛擔當

豫て米英側で發表禁止中であつた英領フィジー群島の防衛状態に就ては、開戦以來ニュージーランド軍が擔當して來たが、約六ヶ月前、米國がその防衛權を接收して以來、多數の米國陸海空軍が同群島に到着した旨、十一月二十二日、當局より公式に發表された。

アラスカ軍事公路開通式舉行

全長一六三〇哩に亙るアラスカ軍事公路の開通式は、十一月二十日舉行されたが、西北建設司令官オコナー代將は右開通式に際して、右公路の軍事的價値を増大すべき支線建設が着々と進められて、殊にチルクート入江に延びて太平洋への出口を開く支線は既に測量を開始した旨を語つたと傳へられる。

軍の單一指揮下にある。

北阿佛軍將士に對する

米國遠征軍總司令官布告
北阿佛軍に對しラジオ放送並にビラ撒布を以て左の布告を發した。

「米國遠征軍はフランス軍隊の友情を期待し、今次の作戦に當り諸君の協力を要請する。次の諸命令を遵守するならば米國軍は決してフランス軍に對し攻撃を加へないであらう。

米軍佛領北阿進駐陸軍省公表

陸軍省は十一月八日、米軍の佛領北阿進駐に關し、要旨左の如く發表した。

(イ)數ヶ月前、聯合軍總司令部が倫敦に創設され、歐洲駐屯米軍總司令官アイゼンハワー陸軍中將は、同時に右聯合軍總司令官に任命された。

(ロ)アイゼンハワー麾下の米軍部隊は、北阿を樞軸侵略の脅威より解放すべく戦闘を開始した。

(ハ)作戦参加の米英陸海空軍は總てアイゼンハワー將

一、フランス海軍所屬艦船並にフランス商船は現在碇泊の位置に留まり、自沈を企圖せざること。

一、フランス陸軍は砲壘において戦闘準備をなさざること。

一、フランス空軍は常時の姿勢を維持し、飛翔せざること。

尙、余はフランス軍隊の全將兵が米國軍將校の與へる
いかなる命令にも従ふことを希望する。我々は諸君の
敵としてでなく味方として來たのであるから諸君は余
の命令を遵守し相共に自由の爲に戦ふべきである。」

佛領北阿進駐に關する

ルーズヴェルト大統領聲明

米軍の佛領アフリカ上陸作戦に關して、ルーズヴェル
ト大統領は、十一月七日夜（華府時間）、聲明を行つた
が、其の要旨は左の如くである。

「強力なる米軍は、本日佛領アフリカ地中海沿岸及大
西洋沿岸に上陸しつゝある。この作戦は北阿及び西阿
に對する樞軸軍の占領を阻止し、米大陸に對する樞軸
軍の攻撃據點の設定を妨ぐるべく計畫されたもので、
加ふるに蘇聯邦の英雄的友軍に對して、效果的な第二
戦線の援助を提供するものである。聯合國は領土を求
めず、友誼的なる在阿佛當局に干渉する意圖はない旨

を佛國官民に保證した。」

又、ルーズヴェルト大統領は、十日の記者團會見で、
今次作戦開始に至る経緯を左の如く説明した。

「今次作戦は、日本軍の真珠灣攻撃の二週間後に余が
チャーチル首相の訪米を要請した時に端を發してゐ
る。當時米英兩國間では攻勢、殊に英佛海峡を横切る
大規模な攻勢が望まれたのであつて、軍首脳部は實現
可能と判斷したが、後に、兵員、飛行機、艦船、並に補給
問題等の關係上、一九四二年中にかかる作戦を遂行す
ることは不可能であるとの結論に到達した。その結
果、聯合國は一九四三年に大攻勢を開始すべきか、一
九四二年中に小規模な攻勢を行ふべきかといふことが
問題となつて、種々可能な小規模攻勢が調査されたが、
六月末、アフリカを舞臺とする事に一般的合意が成立
し、七月末迄には凡ゆる問題が決定され、八月デイエ
ツプ攻撃以前にその時期も決定された。尙、聯合國の

全般的攻勢は、いかなる意味でも、今次北阿作戦で限
定されるものと考へるべきではない。」

米佛休戦と北阿新政權樹立

クラーク米國遠征軍副司令官は、米軍上陸の當日たる
十一月八日午後五時半、恰もアルジェー滞在中であつた
佛國家副主席兼陸海空軍總司令官ジャン・ダルラン提督
の申出に従ひ休戦交渉を開始したが、その結果、ダルラ
ン提督は、十一月十一日北阿佛軍司令官全部に對して、
停戦命令を發し、アイゼンハワー總司令官は、十五日、
佛領北阿に反樞軸新政權が樹立された旨發表、同日、ダ
ルラン提督は新政權主席に就任し、ジロー將軍は北阿佛
軍總司令官の稱號を受諾した。

佛領北阿新政權樹立に關する

ルーズヴェルト大統領談

ルーズヴェルト大統領は、右新政權の樹立に關して、
十一月十七日の記者團會見席上、左の如く言明した。

「アイゼンハワー將軍がダルラン提督と締結した暫定
的協定は、單に戦闘の觀點を強調した場合だけ正常化
される純然たる一時的手段である。右協定は、米英兩
軍並に佛人の生命を救ひ、時間の消費を防止した。ジ
ロー將軍麾下の佛軍は米英軍に協力し、ダルラン提督
の布告は掃蕩戦の期間を不必要のものとした。ダルラ
ン提督との假協定は例外なく、現在の地方的情勢にの
み適用されるものである。」

大統領北阿に物資送附を命令

ルーズヴェルト大統領は、十一月十三日、武器貸與局
に對して、北阿占領地に對する物資送附命令を發した。
その要旨は次の如くである。

「武器貸與局は、北阿占領地の軍隊並に住民に對し
て、食糧、衣類、武器等を送附する様に手配された
い。右地域では、一人と雖も餓死させ、或は食糧其の
他の生活手段なしに暮らせてはいけない。武器も共同

の敵を敗北させるものであるから、右地域住民に供給されなければならない。」

佛領北阿連駐初期の米軍損失

陸軍省は、十一月二十三日、佛領北阿連陸作戦初期の米軍損害は、戦死傷行方不明を合せて、一九一〇名であると発表した。

内譯は次の通りである。

陸軍 戦死三五〇、戦傷九〇〇、行方不明三五〇
海軍 戦死一〇、戦傷一五〇、行方不明一五〇

開戦以来の陸海軍兵力損失

戦時情報局は、開戦以来十一月十二日迄の陸軍兵力損失並に開戦以来十月三十日迄の海軍兵力損失を左の如く発表した。(但しアフリカ戦線を含まず)

陸軍	死者	負傷者	行方不明	捕虜	總計
海軍	一〇九	一五三	二九六	二六	三三三
	三六五	二九	七三三	四〇	一三〇六

マリーン	三三	二二	二六	一	三三
沿岸防備隊	二	二	二六	一	二六

陸海兩省同一廳舎内て執務

ノックス海軍長官は、十一月四日、海軍省は近く陸軍省廳舎内に移轉、陸海兩省は同一廳舎内にて執務する旨を発表した。

陸軍人事異動

フランク・ヘム・アンドリュース中將
任中東軍司令官
ジョージ・ブレット中將
任カリビヤ方面防衛司令官
以上十一月四日附

陸軍航空部隊司令官 ヘンリー・ミラー少將
任歐洲派遣米陸軍航空司令官
以上十一月十九日附

尚、北アフリカ派遣軍航空部隊司令官は、ドウリットル

少將である旨、十一月八日發表。

海軍人事異動

フランク・フレッチャー中將
任米國第十三海軍區司令官
以上十一月十九日附

(尚、フレッチャーは西北太平洋及びアリューシャン水域にある米國海軍を指揮するものと認められる。)

南太平洋艦隊司令長官 ウィリアム・ハルゼー中將
任海軍大將
ヘンリー・ヒュワイツ少將
任海軍中將

以上十一月二十日附

在華府聯合國戰爭機構の構成及權限

ルーズヴェルト大統領は、十一月二十五日、華府における聯合國戰爭機構の構成ならびに權限等につき次の通り發表した。

一、合同參謀本部 成員

米國側 リーイ總參謀長、マーシャル陸軍參謀總長、アーノルド陸軍航空部隊司令官、總務局長スミス代將、局長代理マクドウェル海軍中佐、總務局長ホルムス陸軍中佐、

英國側 デル陸軍大將、カニングム海軍大將、マクレディ陸軍中將、エヴィル空軍少將、總務局長ダイクス代將、總務局長コウルリツヂ海軍中佐

職能
軍需品の生産分配、其他英米兩國戰爭努力の完全な調整を確保し樞軸國に對する戰爭に参加してゐない聯合各國と英米兩國との充分な協同を企圖する。

二、大統領直屬米國協同參謀本部 成員



米國が専ら乃至主として責任を分擔する軍事行動に
ついて合同參謀本部に米國を代表する陸海軍間の將
星より成る。

職能

一般戰略を基礎とし軍事上の諸要求に關する大綱の
立案を行ひ、戰略上の必要、運輸機構の實情に照し
合せて軍需資源の配分に當ると共に、戰略に基く優
先の順序により國外に對する輸送の諸要求を調整す
る。

三、戰略事務局

米國協同參謀本部直屬
職能

協同參謀本部が必要とする作戰上の情報を蒐集、分
析し且協同參謀本部の指令に基き特殊任務を企畫遂
行する。

南米諸國を軍事基地に利用

スチムソン陸軍長官は、十一月二十八日、米軍は南米
諸國を前線基地として益々利用しつつあると聲明した。
但し右に關する詳細は敵側に情報を提供することになる
との理由で發表出来ないと言明した。

滑空機隊員大量養成

陸海軍及マリオン部隊は、兵員及武器輸送用として約
十五會社に滑空機を大量生産せしむる一方、既に數千名
に達する滑空士の養成に着手したと傳へられるが、陸軍
航空部隊司令官アノルド中將は、十一月一日、「米國
は將來世界最大の滑空機隊を有する事となる。」と豪語、
又スチムソン陸軍長官は、十一月五日、記者團に對して
空中輸送作業等に關する陸軍將校訓練學校を設置した旨
發表した。

本年中新設師團數

スチムソン長官の十一月五日の聲明によれば、本年中

一、十二月中に歩兵五個師團新設せられた結果、本年中
の新設師團數は歩兵三十一個師、落下傘部隊二個師、機
甲師團九個師に達したものと推算される。

明後年初頭米軍兵力九百七十萬

——ルーズヴェルト大統領演説——

ルーズヴェルト大統領は、十一月十日の記者團會見
で、一九四四年一月一日現在には、米軍兵力は、陸軍七五
〇萬、海軍一五〇萬、マリオン及沿岸防備隊七〇萬、合
計九七〇萬に達すると言明したが、他方パターソン陸軍
次官は、十一月二十日、一九四二年末の海外派遣兵力は
百萬を突破すると發表したといはれる。

徴兵年齢低下法案成立

上院が修正條件を附した徴兵年齢低下案(既報)につい
ては、十一月十日の兩院協議會で、右修正條項の削除を
決定、十二日、上下兩院共に右協議會案を承認可決した
結果、ルーズヴェルト大統領は、十四日、右法案の署名

を了した。

徴兵年齢低下適齡者登録布告

ルーズヴェルト大統領は徴兵年齢改正法の成立に伴
ひ、十一月十八日、十八歳から十九歳までの適齡者の登
録に關し左の布告を發した。

一、男子市民にして一九二四年七月一日より八月三十一
日まで出生した者は本年十二月十一日より同月十七
日まで登録すること。

二、一九二四年九月一日より十月三十一日までに出生し
た者は本年十二月十八日より同月二十四日までに登録
すること。

三、一九二四年十一月一日より十二月三十一日までに出生
した者は本年十二月二十六日より同月三十一日まで
に登録すること。

四、一九二五年一月二十五日生れ或はそれ以降に出生し
た者は戦時中滿十八歳となるとともにその出生日に登

録のこと。

沿岸警備隊に女子徴用

ルーズヴェルト大統領は、十一月二十三日、沿岸警備隊後方勤務に女子を徴用する法令に署名した。

海軍省は、右法令に基き直に女子四、〇〇〇名の徴用を決定したと傳へられる。

重爆撃機米印間を六十七時間て空輸

在印米國第十空軍司令官ピツセル代將は、十一月下旬、米本國より印度迄の重爆撃機空輸が六十七時間二十七分で行はれた旨を發表したが、他方、シカゴ・トリビューン紙の十一月二十一日重慶發特電によれば、米本國より重慶迄の運輸行程は約二萬五千哩に及び、大部分は船舶、殘餘の部分は飛行機で運輸され、途中約六ヶ所の中継點で積換られる由である。

空母増強の爲建艦計畫變更

スウェーデン誌「ナドスクリフト・スウェゼンドト」所

報によれば、米下院海軍委員會委員長カール・ヴィンソンは、去る十一月六日、建艦計畫變更につき次の通り述べたと傳へられる。

「米海軍は兩洋艦隊編成計畫に従つてモンタナ級戦艦(五八、〇〇〇噸)五隻とアイオワ級戦艦(四五、〇〇〇噸)イリノイス及びケンタッキーの二隻合計戦艦七隻の外アラスカ級甲巡六隻と軍艦四隻を建造してゐるが、空母建造に全力を集中するためモンタナ級戦艦五隻の建造を當分中止すると同時に、甲巡六隻及び軍艦四隻も進水後は空母に改装されることになつた。この外大型商船六隻乃至七隻が既に空母に改装されてゐる。」

艦艇建造日數短縮

リーイ總參謀長は、十一月十二日、海軍關係造船技師協會で、艦艇建造日數が著しく短縮されたと左の如く發表した。

現在 戦前

戦艦建造日數	三ヶ年	五ヶ年
航空母艦	十七ヶ月	二倍以上
駆逐艦	六ヶ月	十八ヶ月
潜水艦	十二ヶ月餘	二倍以上

建造中の艦船一萬四千九百九十二隻

ランド海軍委員會委員長が十一月十二日報告した所によれば、本年第三四半期現在建造中の艦船は一四、一九二隻に及び、内三、二七二隻は補助船舶であるが、この外軍艦改造中のものは、十月一日現在、二一六隻で、海軍工廠では、同日現在、二十三萬の労働者が週平均七日の労働に従事してゐる由である。

又、私營造船所の労働者數は、本年末迄に八十五萬に達すると觀測される。

大統領武器貸與狀況發表

ルーズヴェルト大統領は、十一月十五日、ステチニア

ス武器貸與官よりの報告に基くとして、聯合諸國に對する武器貸與狀況を、左の如く發表した。

「米國は、十月中に聯合國に對して、總額九億一千五百萬弗に相當する物資並に勞力を提供し、北阿作戰準備に忙殺された過去四ヶ月間を通じて總額二十七億一千三百萬弗の援助を行つた。これら物資の三分の二は軍需品であり、この數字を、開戰當時の一九四一年十一月並に一九四二年一月中に聯合諸國に供與した一億六千九百萬弗と比較する時、その驚異的躍進振りを知ることが出来る。米國は過去に於て、武器貸與の縮減を考慮したことなく、又、將來も考慮しない。過去四ヶ月の記録は、米國が米國軍の需要と聯合軍の援助との間に、如何に努力してゐるかを示すものである。この觀點より、武器貸與局は、聯合國明年需要に關して、既に各國代表と協議を完了した。」

尙、右に先立ち、ルーズヴェルト大統領は、九日、過去九ヶ月間のエチオピア戦線に對する米國武器貸與額は、六億三千六百九十五萬二千弗で、その中には、航空機一億六千四百萬弗、戰車八千八百萬弗、大砲一億三千萬弗、彈藥七千四百萬弗、自動車七千二百萬弗、食糧三千三百萬弗を含む旨發表した。

【外 交】

西葡兩國の領土權益保障

米軍佛領北阿進駐に際し、ルーズヴェルト大統領は、十一月八日、駐西米大使竝に駐葡米公使をして兩國元首宛親書を手交せしめ、右軍事行動は何等西葡兩國の領土竝に權益に脅威を加へるものでない旨を保障したが、白聖館當局は、十日、右に關し兩國代表より夫々口頭を以て満足すべき回答を受けし旨を發表、越えて十二日に、

は、右保障に對し諒承感謝の意を表した兩國元首親書内容公表した。

米佛國交斷絶に關する

ルーズヴェルト大統領談

ルーズヴェルト大統領は、十一月九日の記者團會見に於て、米佛國交斷絶に關し左の如く言明した。

「ラッアル佛國政府主席が米國との國交を斷絶したのは、遺憾の意を表するの外ないが、ヒットラー乃至ヒットラーに傾使される傀儡の如何なる言動も米佛兩國の關係を斷つ事は出來ない。我々は佛人との關係を斷絶せず、將來もさうしないであらう。米國政府は今後と雖も四千五百萬佛國民を奴隸状態より救出すべく、同情援助を與へようとしてゐる。」

駐米佛國大使以下抑留

ハル國務長官は、十一月九日の記者團會見に於て、佛國

政府より國交斷絶の公式通牒を受理した旨、竝に駐米佛國大使アンリー・エーに旅券を交付した旨言明したが、次いで十六日、國務省當局は、同大使以下佛國外交官をペンシルヴァニア州ハーシバードに抑留するに決した旨發表した。

佛本土に戰時敵國取締令適用

モーゲンソー財務長官は、十一月九日、爾後佛本國は、戰時敵國貿易通信取締令に基き敵國領土として取扱はれるべき旨發表した模様である。

佛領西印度諸島と新協定締結

ハル國務長官は、十一月二十二日、記者團會見に於て、佛領西印度諸島高等辨務官ロベール提督と米國代表との間に防衛竝に經濟問題に關する修正協定が締結された結果、カリブ海佛領の占領が不必要となつた旨言明した。

チリー大統領の訪米を再勸説

パワース駐智米大使がリオス智大統領に訪米方を再勸説したとの報道に關する質問に對しハル國務長官は十一月四日記者團會見に於て肯定的答辯をなした。

中南米諸國との親善強化に努力

國務省は、十一月十一日、チリー、ボリヴィア、エクアドル、パナマ、グアテマラ、キューバ等中南米諸國大統領より北阿作戦に關するルーズヴェルト大統領宛祝電を受けし旨發表したが、ルーズヴェルト大統領は、十四日、チリー大統領の北阿作戦祝電に對し謝電を發したのを始めとして、政府當局は、新聞ラヂオ等の言論機關を通じ米國は佛領北阿上陸に依り作戦上のイニシアテイヴを奪回し攻勢に轉換したと大々的に宣傳し、中立國殊に中南米方面に於て有利なる情勢を馴致すべく努めてゐる。

米墨幹線鐵道を修理

國務省は十一月十八日、メキシコ市に於て米墨兩國間の幹線鐵道修理に關する協定が成立、これがため既に多數の米國人技師がメキシコに派遣されてゐる旨發表した。

ハレーイ特使モスコに着

ルーズヴェルト大統領の命に依り北阿戰線を視察中であつたニュージブランド駐劄米國公使、パトリック・ハレーイ代將は、十一月三日、モスクワに到着したが、ハレーイ國務長官は十一月四日の記者團會見に於て、同公使の使命は外交問題以外にあると聲明した。

米蘇親善大會

十一月七、八兩日、デーヴィス前駐蘇大使司會の下に紐育に於て米蘇親善大會開催され、戰時及平時に於ける米蘇協力問題が検討されたが、ウォーレス副大統領、リトヴィノフ駐米蘇聯大使、ラモント紐育市長、各労働組

合代表等多數出席、ルーズヴェルト大統領も挨拶電を寄せ、盛會であつた。尙、同大會は米人數千の署名した「米蘇親善の書」をスターリンに贈呈、右大會に引續き民衆二萬の集會が行はれ、徹底的戦争遂行の決議を採擇したと傳へられる。

石油精製所を蘇聯へ輸出

政府は武器貸與案に基き對蘇輸出のためロスアンゼルス近郊にあるダグラス石油精製所を買収するに決定した旨、十一月二十三日、戰時情報局より發表した。右は獨逸に奪はれた蘇聯の石油精製油能力を補充せんとするもので、同精製所は八七オクタン價ガソリン生産の新式設備を有してゐる。尙、米國は千五百萬乃至二千萬弗に相當するガソリン、機械油精製施設を蘇聯に向け輸送すべく計畫中であるといはれる。

ルーズヴェルト夫人歸國

大統領夫人エリノア・ルーズヴェルトは約一ヶ月の英

國滞在を終へて、十一月十七日ワシントンに歸着した。

【一】 般

中間選舉開票成績

十一月三日に行はれた州知事三十二名、上院議員三十四名及び下院議員全部の改選は、開戦以來の國家的選舉であつたが、十一月六日迄に判明した開票結果による新分野は次の通りである。(括弧内は選舉前の舊分野)

州知事	民主黨	共和黨	進歩黨	未開票
上院	五五(五)	一七	一	一
下院	三三(三五)	三〇(二六)	四	一

尙、今次選舉の投票数は三千三百萬票で、一九四〇年十一月の前回選舉に比して、一千六百萬票減少し、内政への關心低下を如實に示した。

全面的戰時生産の障害を除去

——大統領議會に要請——

ルーズヴェルト大統領は十一月二日次の教書を議會に送つた。

「戰時生産の速度と量とが勝利の第一條件たること今日の如きは米國史上曾つて見ない所である。全面的戰時生産の努力を實現するためには、世界の資源を充分且つ迅速に使用することを阻害する平時の制限を除去すべき従來の措置を更に擴充せねばならない。既に政府各機關は戰爭物資、情報並びに人員の米國への出入に影響する各般の行政的要求乃至形式を除去し、且つ現に除去しつつあるが、依然として右出入を阻害する法律上の障害が少くない。余は第一次戰時權限法に基き行政命令によつて、外國に於て戰爭資材を買ひ入れ無税で輸入する海軍長官の權限を政府各機關に擴張した。その結果戰爭努力に資した處少くないが、未だ

法律に依つて規定された障害は、一部取り除かれたに過ぎない。ここに於て、議會に對し人員、資材並びに情報、米國への自由な出入を確保するが如き法律を速に制定するやう要求する。」

休戦記念日大統領宣言

ルーズヴェルト大統領は、十一月十一日の第一次世界大戦休戦記念日に關して、九日、要旨左の如き宣言をなした。

「今や米國は再び聯合國と相提携して世界の戦場で斷乎勝ち抜き、其の勝利を言論の自由、信仰の自由、缺乏よりの自由、恐怖よりの自由等基本的諸自由を守護伸張する平和で飾ることによつてのみ第一次大戦に於ける戦死者に信義を盡し得るのである。」

休戦記念日大統領演説

十一月十一日の休戦記念日當日、ルーズヴェルト大統領は、アーリントン國立墓地で一場の演説を行ひ、前大

戦死者の名譽を讃へた後

「日獨の實力は既に峠を越したのに對し米、英、蘇、重慶の戦力は急速に成長しつつある。然も今や佛國兵士が聯合軍と共に進軍するを知るは、我々の勇氣を鼓舞するに足りる。前線統後に於ける米國民の努力は必ずや文明の生存と發展とを確保するであらう。」

大統領國民の樂觀行過ぎを戒む

ルーズヴェルト大統領は、十一月十七日夜、ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン紙主催演説會最終日に、ラジオを通じ戦時下の言論の自由缺如は止むを得ないとし、併せて國民の樂觀主義行過ぎを戒めた。演説要旨は左の如くである。

「戦時に於て、政府は時々刻々のニュースを告知し得ないが、これは此種報告が公開の席上で討議し得ない事を意味し、若し夫を敢て犯せば、必ずや敵側諸國

を利する結果となる。他方凡ゆるニュースを知悉しない人々は、自然眞偽の疑はしい情報を基礎にした想像で語るが故に、戦時中に於ては、此等の人々の批判乃至政治的論争に耳を藉してはいけない。余は總司令官たる地位に鑑み戦争と政治とを絶えず分離して置くべく努力して來てゐるが、その事は諸君も認められたことと思ふ。只余は一度發表を要求する聲に屈し十月下旬一航空母艦の撃沈を發表したが、これに對して太平洋前線諸提督より右撃沈を知らなかつた日本側に軍事的利益を與へる結果となつたとの抗議を受理した。如何なる時でも公表し得る乃至は公表すべき事實と同時に其當座公表し得ざるニュースとがある。「僞舌は人命を失ふ」とのボスターの文句は決して誇張ではない。僞舌は勝利を遅延せしむるものである。我々の戦線は今やキスカよりムルマンスクへ、チュニジアよりガダルカナルへ伸びつつあり、米軍の進撃で更に擴大するで

あらう。戦争は今後共上り坂となつて、勝利の捷徑はない。過去二週間、我々は多くの快報を入手して、戦局は遂に轉換期に來た觀があるが、徒に有頂天になる時ではない。現在は勝利を得る爲に戦ひ且働く時である。

米軍北阿進撃中、地球の反對側で、米海軍は米國史上最大の海戦を行ひ、カラガン少將坐乗の旗艦サンフランシスコは日本艦隊に多大の打撃を與へたが、多数の敵艦を受け、余の親友カラガン少將以下多数の勇敢な將兵は戦死した。又ガダルカナル島地上部隊司令官ヴァンダーリフト少將は「壓倒的劣勢にも拘らず勇敢力闘せる戦友」に對し賞讃の辭を送つた。我々は斯る勇敢なる同胞を有することに對し神に感謝を捧ぐると共に、我々米國人が戦争の終る迄彼等の名を辱めざる様祈るものである。」

大統領開戦當日を沈黙日に指定

ルーズヴェルト大統領は十一月二十日の記者團會見席

上、十二月七日の開戦記念日を真珠灣敗戦の記念日として「沈黙日」となす様に國民に要請した。

佛領北阿進駐に輿論熱狂

——タイムス紙大統領を賞讃——

米軍の佛領北阿進駐は、米國朝野を熱狂せしめたがこれに伴ひルーズヴェルト政権の戦争指導は一舉に國民の信頼を回復した観がある。例へば十一月二十二日附ニューヨーク・タイムス紙所載ローレンス論説「米國の電撃作戦家」は左の如く、ルーズヴェルト大統領を賞讃してゐる。

「樞軸軍の不意を襲つた北阿侵攻作戦は心理的電撃戦法の驅使でルーズヴェルト大統領がヒットラーに斷じて劣らないことを證明したもので、事實、大統領は全世界に互る凡ゆる軍事行動の最高指揮者になつてゐると斷言することが出来る。彼は北阿作戦遂行に當り極度の忍耐力を發揮したが、その性行を知る人々は、彼

は何事でも一度着手すれば斷乎として決行するとなしてゐる。」

株式市場戦局樂觀

各地の株式市場では、北阿作戦の進展により戦争の終結も遠くあるまいとの氣配を生じ、十一月十日頃より鐵鏟、銅、造船、航空機等の軍需株及鐵道株は賣急がれ、甚しきは三分餘も下落した。一方、戦時統制解除の嚮有利と目せられる自動車、煙草、通信、建築、商業、金鏟等の平和株には買氣が出で、歐洲占領地諸國の公債も多少の値上りを示した。

戦費二百億弗を突破

財務省は十月における戦費は約五十五億弗に上り、七月一日からの戦費を合計すれば二百二億五千萬弗に達する旨十一月三日發表した。財務省はその他にも數百萬弗が間接的に戦争遂行のために捻出され又十月における公債消化高は六十億弗を越えた旨附加發表した。

軍費膨脹で非軍事費支出に大削減

米國における最近の軍事費増大の結果必然的に軍事費以外の支出は一大削減を加へられることとなつた、ルーズヴェルト大統領は十一月月上旬本財政年度における軍事費以外の聯邦政府支出は僅かに四十一億九千萬弗で、一九三八—三九年度に比し三五・六パーセント方の激減、また一九四一—四二年度に比し約十億弗方の減少となつてゐる旨發表した。なほニュー・デイル計畫開始當時、米國の支出中最も重要な部分を占めてゐた公共事業費、社會施設費等の如き項目が益々縮減されてゐることは注目されるが、これ等項目はニュー・デイル開始當時の一九三二—三三年には三億六千五百萬弗であり、兩來累年増加し、一九三八—三九年度には實に三十九億二千萬弗に達してゐたものであつた。本財政年度の十億九千七百萬弗に比すれば米國豫算變貌の一端が明瞭に窺はれる。

九十億弗新起債開始

モーゲンソー財務長官は最近九十億弗に達する新公債發行を發表したが、右公債の賣出しは愈々十一月二十六日をもつて開始された。なほ最初の買上者はルーズヴェルト大統領でモーゲンソー財務長官の手から渡されたといはれる。因みに右公債は十二月分として全額を一回に發行され、このうち半分は商業銀行引受、他の半額は一般投資者の應募に俟たうとするものであるが、その内譯は左の如くである。

- 一、償還期限二十六年、二分半利付非免稅公債（銀行以外の一般投資者向けとして數週間に互り賣出される）
- 一、償還期限一年、一分四厘三毛利付證券（銀行向け）
- 一、貯蓄債券
- 一、免稅債券
- 一、割引財務證券（毎週賣出し）

戦争の諸工業に及した影響

戦争は成金を生むと云ふことは過去の總ての戦争に於ては事實であつたが、今次戦争では、必ずしも事實ではない。過去に於て雨後の筍の様に成金を築出した米國も今回の戦争に關する限り経済的には算盤に合つてゐない。ウォールストリートの機關紙エクステンヂは五百九十一重要會社の本年一月より九月迄の配當統計を發表してゐるが、その主なものを業種別にみれば左の通りである。

- 製 鋼 業 三分減配
- 鑛 産 業 五分減配
- 冶 金 業 七分五厘減配
- 化 學 工 業 一割五分減配
- 自動車製造業 三割五分減配
- 航空機製作業 四割五分減配

右は一九四一年以來の平均を出したもので、此等の内、例へば冶金業及航空機製作業等では昨年から本年にかけて

て數千萬弗の減配を示した會社もあるがしかも目下此等の事業には註文が殺到してゐる状態なのであるから奇異の感がある。尙、成金の發生を不可能にする原因としては、左の三項が考へられてゐる。

- 一、勞銀の不可避的暴騰
- 二、生産機構擴充の爲の資本投下
- 三、幾何級的課税

十月中の米國破産件數

米國における十月中の破産件數は六百七十三件と前月に比し百十七件の増加を示した。なほ破産者負債總額は七百十八萬弗で前月に比し百七十一萬弗の増加である、備考 過去の比較左の通り(破産者負債總額の單位は百萬弗)

破 産 件 數	本年十月	本年九月	昨年十月
	六七三	五五六	八〇九

破産者負債總額 七・一八 五・四七 七・三三
上半期米國軍需生産實績

——ネルソン戦時生産局長官發表——

ネルソン戦時生産局長官は、十一月月中旬、本年上半期米國軍需生産實績に關する特別報告を發表し、右生産額は客年全生産額の二倍に相當する旨を強調した。其概要は左の如くである。

- (イ) 飛行機 流動作業に依る能率増進の結果、本年五月既に月産四千機に達した。
- (ロ) 船 舶 本年上半期船舶引渡高は合計二二八隻、二五四萬四千噸で、客年全引渡高の二倍である。
- (ハ) 戦 車 本年上半期輕戦車及中型戦車生産は客年の實數を超え、其中一千五百臺は流動作業で生産された。
- (ニ) 鐵 砲 本年上半期高射砲生産高は客年の三倍、機關銃月産五萬挺、自動拳銃月産五萬五千挺、重砲及び裝甲沿岸警備砲月産二千門。
- (ホ) 生産費 本年六月迄に計上された豫算は二千三百三十億弗、彈藥製造のみでも實際支出は月額一億五千八百萬弗を要した。
- (ヘ) 勞働力 軍需工業男女勞働者總計五千五百萬人。

飛行機生産を一年以内に倍加

ネルソン戦時生産局長官は、十一月十九日、最近ルーズヴェルト大統領の決定した來年度生産目標に従ひ、一年以内に飛行機生産高を倍加する必要があるが、右倍加計畫は必ず實現し得ると揚言すると共に、右計畫實現は同局長チャールス・ウィルソン(前ジエネラル・エレクトリック社長)が擔當することとなつた旨發表した。

政府戦争遂行方針絶対支持

—CIO年次大会決議—

CIO(産業別労働組合)は、十一月十日より四日間ボストンで年次大会を舉行したが、パターソン陸軍次官は、「本年こそ米國軍にとり『戦ひの年』であつて、我々は出來得る限り早急に第二戦線を開始するであらう。明年度作戦の二大目標は、第一に、敵潜水艦の脅威を排除し、蘇聯及び重慶への補給物資損失を減少すると共に、第二にはビルマを奪回してビルマ・ルートを開き、再開することである。」

と演説したが、會長に再選されたフリッツ・マレーは、AFLとの合流に依る労働戦線統一並に政府戦争遂行方針に對する絶對的支持を強調、同大会は要旨左の如き決議を採擇した。

「米國にして今次大戦に戦勝を得ようとするならば、樞軸軍に對し直に攻勢に出でなければならない。我等

は米軍が北阿でヒットラーとの戦争を開始したことを悦ぶ。組織的労働大衆は其闘争的精神を發揮して、以て聯合國首腦部の戦争完遂決意を支持すべきであり、我等は樞軸撃滅を可能ならしむる一切を提供すべきことを約し、且我等の總帥ルーズヴェルト大統領に對する絶對的支持を茲に改めて誓ふものである。」

食糧問題深刻

食料品製造業會々長ポール・ウィリスは十一月十六日食糧問題に關する當局の無爲無策ぶりを痛烈にこき卸し、

「現状をもつてすれば近く食糧問題は現在のゴム饑飢以上の状態に達すると斷言しても決して誇張ではない。しかも一九四二年度における農作物は前大戦當時に比し四割方の豊作であるだけに、労働力不足による食糧問題の現状は二重の意味で醜態である。」と述べたが、更に米國における食料不足現象の最大の理

由は労働力の不足と輸送力の缺如にありとして左の通り指摘してゐる。

一、米國の戦時産業は一九四〇年度において五十七萬、一九四一年度には百萬の労働力を農村から徵用し明春までに更に百三十萬が軍事工業に徵用されることになつてゐる。その結果、今年度の收穫は著しい減少を示し既にニューヨーク州では一萬四千の農場が生産不能に陥つてゐるが、若し現状が明年夏まで繼續されれば、更にミネソタ州の農場一萬及びカンサス州の農場一萬も結局賣却又は放棄されねばならぬ運命に陥るであらう。最近北部諸州では合計三萬五千頭の牝牛が降雪期前に賣却されたが、これは牛乳六千四百萬クォートの減産を意味する。

一、陸軍が鐵道、トラック輸送力の大半を軍需向けに獨占する結果農村の輸送力は甚しく阻害され、例へば先週中に數百萬ブッシュェルの大豆(價格一ブッシュェルに

つき一弗六十仙)が市場に送られる筈であつたが、農場側も買手側も輸送許可が取れなかつたため數百萬の貨車は大豆を満載したまま南部中西部停車場に立往生し、積荷場には各農場からの出荷が山積して大混亂を呈したが、その貯蔵所もないといふ有様であつた。

九月中の農産物對聯合國貨與額

食糧三千三百萬弗を含む旨發表した農務省當局は、十一月九日、武器貸與法に基く本年九月中の農産物輸送高は五億五千二百萬封度で、客年四月以降の累計は六十三億四千四百萬封度であると發表した。

西北部乾燥食糧生産

米國では食糧確保のため最近乾燥食糧品の増産に努めてゐるが、十一月初旬のクリスチャン・サイエンス・モニター紙はワシントン州ヤキマ・ヴァレーからの情報として次の様に報じてゐる。

「米國西北部太平洋岸地帯における乾燥食糧品生産は

沈滞傾向にあつた同地方の農業界に異常な活氣を與へてゐる。同地方の農民はいかなる種類であれ乾燥器を持つてゐる者はこれを全能力を以て働かせ、其他の者も何とか乾燥器の融通がつき次第、野菜、果實を擧げて乾燥せしめるといふ有様である。

野菜や果實が軍事専用乾燥されるばかりでなく牛乳も同様粉末として製造されてゐる。酪農品産地として知られたカナダ國境のウオットカムでは鶏卵も牛乳もすべて粉にして移出されてをり、同地方はまるで製粉の中心地かの如き觀を呈してゐる。乾燥食糧計畫は今や純然たる戦時體制をとり、愈々擴張され、ワシントン州では平時の果實乾燥工場の他に少くとも十二の工場が操業、オレゴン州はさらに徹底し同州内の各工場で馬鈴薯、葱、人参、甘藷、キヤベツ、南瓜、セロリ、燕青、油茶、莢豆、ライム橙等の野菜果實全部にわたる乾燥作業を續けてゐる。

五蜀黍收穫豫想

農務省十一月中旬の發表によれば、十一月一日調査の本年度玉蜀黍收穫豫想は三百十八萬五千ブツシエルで、十月一日調査の三百十三萬二千ブツシエル、また前年度最終豫想二百六十七萬三千ブツシエルに比しそれぞれ増加した。

備考 過去の玉蜀黍實收高及び收穫豫想左の通り(單位各千ブツシエル)。

一九四一—四二年	實收高	二、六七三
四二—四三年	豫想	
八月一日 調査		二、七五四
九月一日 同		三、一〇〇
十月一日 同		三、一三二
十一月一日 同		三、一八五

第三回米棉收穫公報

農務省は、十一月初旬、去る十一月一日調査の第三回

新棉收穫豫想を一千三百八十一萬八千俵と發表した。これは第二回公報の一千四百二萬八千俵より二十一萬俵少くなつてゐるが、前年度實收高一千七十四萬四千俵に比し三百七萬四千俵の増加にあたる。

なほジャーナル・オブ・コムマース紙も今回豫想を發表したが、これは二千三百五十二萬二千俵となつてゐる。備考 過去の比較左の通り(單位千俵)。

一九四一年	實收高	一〇、七四四
四二年	豫想	
八月一日 調査		一三、〇八五
九月一日 調査		一四、〇二八
十月一日 調査		一三、八一八

コーヒー割當制

政府はいよいよ十一月二十九日から全國にコーヒーの消費割當制を實施するに決し、十一月二十一日この旨發表すると同時に、準備のため二十二日午前零時からコー

ヒーの賣止めを各商店に命令した。割當制實施の理由は輸入船腹不足を緩和するとともに他の聯合國へのコーヒー輸出量を増大するに在ると説明されてゐる。米國政府は更にタバコ、肉類の消費割當制をも考慮してゐる模様で物價統制當局は十一月二十一日「タバコと肉類の供給狀況は相當惡化してゐる」と語つた。

民需肉類割當を更に削減

物價管理局は、十一月上旬、十一月及び十二月分の民需肉類割當量を十月に比し更に一割方削減するに決した。なほこれと同時に同局は屠殺業者に對して凡ゆる種類の民需肉類供給につき三割方の削減を計るやう命令を發した。

右措置は軍隊への肉供給を確保するために採られたものと説明されてゐるが、米國では既に去る十月より民需肉類、羊肉の割當二割削減を發令してをり、今回更に一割の減配を行ふ譯であつて、他方、戦時生産局は十一

月上旬一切の牛肉及び羊肉加工食品の輸入を禁止する旨
發令した。

右は近來の船腹不足に鑑み緊要物資輸入を先決問題と
し、他の一般物資を制限する工作の一つと解されてゐる。

剃刀の刃も統制

世界一の鋼鐵王國を誇る米國も容易ならぬ戦局の推
移に遂に十一月四日から剃刀と安全剃刀の刃の統制を實
施し、戦時生産局より次の通り布告した。

「十一月四日以後 一般人用安全剃刀の製造を制限し且
つ一切の剃刀並に剃刀の刃を嚴格な統制下に置く。但
し一九四三年以降は數百萬の市民が軍務に服すること
となるので一般市民は不自由しない見込である。萬一
最悪の事態に當面しても剃刀統制の結果として浮上る
高度の鋼鐵は米軍奇襲隊の利刀と化するであらうから
全國民は無精悍の間から朗かに口笛を吹いて可なり。」

送油管を大西洋岸に延長

戦時生産局長官ドナルド・ネルソンは米國政府は目下
建設中のテキサス州東部油田地帯からイリノイ州に通ず
る石油輸送管を更に大西洋岸まで延長するに決し、延長
部分八百五十七哩の工費用の資材として鋼材二十二萬五
千トンに配給した旨十一月月上旬發表した。同送油管は明
年六月一日までに完成の豫定で、一日約三十萬バレルの
輸送力を有するといはれる。

ガソリン割當制を全國に擴大

ルーズヴェルト大統領は、十一月二十六日、從來東部
諸州のみに實施されてゐたガソリン消費割當制を十二月
一日から全國に擴大實施する旨布告した。

九月中の對外貿易

商務省十一月初旬の發表によれば、九月中の米國對外
輸出額は七億一千八百萬ドルで八月中の七億二百萬ドル
に比し一千六百萬ドルの増加を示した。これに對し輸入

額は合計一億ドルにすぎず、八月より八千四百萬ドルの
減少であつた。なほ本年一—九月累計について見れば左
の如くである。

輸出累計

三、四五七百萬ドル

輸入累計

二、〇二二百萬ドル

これを昨年同期累計と比較すれば輸出額は約六四%増
加、輸入額は約一七%減少に當る。

船舶狀況好轉

海軍省當局は、十一月二日、十月中の聯合國船舶狀況
に關し、左の通り言明した。

「十月中聯合國の新船建造と喪失との割合は前月に比
して相當の改善を示した。十月に入つても敵潜水艦の
聯合國船舶襲撃は依然として行はれたが、損害は著し
く減少を示し、その上聯合國の造船高は十月に至り更
に新記録に達した。十月中聯合國の新船建造高は喪失
高の倍以上といふ結果を示した。」

尙、四日の海軍委員會の發表に依れば、十月中の商船
建造數は八十一隻で、九月中に比して十二隻減少した。
これは、緊急なる軍需方面に資材を移譲した爲である。

地域別造船内譯は左の通りである。

- 東 部 沿 岸 二四隻
- 西 部 沿 岸 四三隻
- カリブ海沿岸 二三隻
- 五大湖地方 一隻

撃沈船舶五百七十二隻

海軍省は開戦以來西大西洋において聯合國並に中立國
船舶五百七十二隻が撃沈された旨十一月十九日發表し
た。

商船乗組員の損失

海軍省は昨年九月二十七日より今年八月一日迄の間は
各海洋上で樞軸國海空軍のため撃沈破された商船乗組員
の損失を左の通り發表した。

死者 四百十名
 行方不明 一千八百九十一名
 計 二千三百一名

米海運能率上らず

運輸調整官ジョセフ・イーストンは米國內鐵道並びに河川運輸に比し海洋運輸が甚しい立廻れを示してゐるため、沿岸各港灣に滞貨が山積し運輸調整上由々しい問題を惹起してゐる旨十一月二十四日言明した。

中央政府官吏總數四百萬

米國中央行政機關の官僚は眞珠灣開戦以來毎月數萬人も増加し昨今では左の如き數字を示してゐる。

- 中央行政機關 二、四五〇、七五九
- 陸軍省(軍人を除く) 一、〇〇九、〇三〇
- 海軍省(軍人を除く) 五〇〇、五六五

第一次世界大戦では、米國は入隊中の軍人四人半に對して役人一人の割合であつたが、今回の戦争では軍人一

人四分の三に對して、役人一の割合である。

五短波放送會社接收

戰時情報局並に米洲通商文化調整局は共同聲明をもつて米國政府が放送局十を有する五短波放送會社の施設を接收し戰時中これを使用する旨十一月一日發表した。

右放送局接收は米國政府の短波放送擴充計畫の基礎となすので近く更に短波放送局二十二を回復する豫定である。接收の目的は米國放送の受信状態の改良を計ると共に放送番組の質的、量的を改善するにあり、番組の約三分の二は戰時情報局海外部によつて編輯される。右に關し戰時情報局長官エルマー・デーヴィスは次の如く述べてゐる。

「國際放送は今次戦争の重要な武器であり、その效用は既に敵側によつて證明されこの武器を絶えず有効に使用してゐる。短波放送局は現在政府と緊密に協力してゐるが、將來も同様の協力を行ふであらう。今回の放送局接收によつて、米國の聲は愈々明瞭に聞かれるこ

ととならう。」

尚今回接收された放送局は次の通りである。

- △CBS放送會社、WCBX、WODA(ニューヨーク)
- △クロスビー放送會社、WLWO(シンシナチ)
- △ジエナル・イレクトリック放送會社、WGEQ、WGEA(シユネクタデー)KGEI(サンフランシスコ)
- △NBC放送會社、WRCA、WNBI(ニューヨーク)
- △ウエスチングハウス放送會社WBOB(ボストン)他一

布哇在留邦人を米本土へ移送

ハワイ防衛軍司令官デロス・エモンズ中將は十一月五日の記者團會見の席上、ハワイ在留邦人を米本國に移す計畫を發表し、次の如く言明した。

「軍は老人婦女子等戦争遂行に關係のない日本人二世並に移民の一部を近く本土に移送する豫定であるが、移送の場合には主として家族を單位とする。尙一部の者は依然本島に抑留して置く方針である。移送される

日本人の數及び日取は發表出来ないが、兎に角本島の經濟に影響を及ぼすやうな事態が發生せぬやう充分考慮してゐる。」

有力誌編輯者發表の對日講和條件

タイム、ライフ、フォーチュン等の米國有力誌編輯者の組織してゐる戦後問題研究協議會は、十一月上旬、日本の戦力が銷盡した際、日本に提示すべき降服條件として、左の如く發表した模様である。

- (イ) 残存日本軍艦、軍用機、戦車、大砲全部の引渡
- (ロ) 全海軍基地並に日本列島防禦施設の武装解除
- (ハ) 一九三七年七月一日以後召集された陸海兵員の動員解除
- (ニ) 兵器及裝備資材等(食糧を除く)の接收
- (ホ) 全日本占領地域の聯合國への引渡
- (ヘ) 聯合國軍による日本本土、少くとも六大都市の一時的占領

英國

【軍事】

(ト) 陸海軍高級將校の看視附拘禁

英帝、中東軍司令官に戦勝祝電

英帝ジョージ五世並に滯英中の南阿聯邦首相スマッツは、十一月五日、アレキサンダー中東軍司令官に對し、ビア方面戦勝に關する祝電を發したと傳へられる。

チャーチル首相戦況報告演説

議會は、十一月十日を以て閉會、引續き十一月十一日より新會期に入つたが、チャーチル首相は、開會劈頭、下院で戦況報告を行ひ、満場の掲采を浴びた。要旨は左の通りである。

「エジプト・リビア戦は、佛領北阿上陸作戦の前哨戦と

して企圖されたものであるが、壓倒的勝利を收め、獨伊軍に最大の打撃を與へた。獨伊軍の死傷捕虜は合計五萬九千と推定せられるが、英軍の損害は、合計一萬、三千六百に過ぎない。

北阿作戦で最も影響を蒙るのは伊太利で、近く對伊大空襲が開始され、同國は今となつて参戦の愚を思ひ知るであらう。獨軍は休戦條約を蹂躪して全佛を席捲したが、佛國は祖國の名を辱めない様、舉國一致、嚴たる態度を取るべきである。

我々は蘇聯と艱苦を共にし、蘇聯に對する獨伊の重壓を軽減せしめるべきことを痛感するが、英佛海峽若しくは北海を越えての攻撃には準備が必要であつて、未だその時機ではない。一九四二年に第二戦線展開云々の發表は敵を欺く爲にされたもので、余は七月蘇聯政府に對し本年内の第二戦線結成は確約し得ない旨を文書を以て通達した。其後右に代るべき戰略として佛領北

阿作戦が米英兩首腦部同意の下に採擇され、七月下旬、右に關する命令が發せられた。余は訪蘇の際に、この間の困難な事情と北阿作戦開始の決定とをスターリン首相に通告した。」

北阿護送艦隊司令官はカニンガム

海軍省は十一月九日アンドリュウ・カニンガム提督がアフリカ遠征護送艦隊司令官に、又、西方水路司令官パーシー・ノーブルがその後任に夫々任命された旨發表した。

北阿上陸英國第一軍司令官任命

政府は、十一月十一日、英本國東部防衛司令官アンダーソン中將を佛領北阿上陸の英國第一軍司令官に任命した。

主目標はビゼルト軍港

北阿聯合軍司令部十一月十三日の發表に依れば、アンダーソン麾下英國第一軍は、同日、東部アルジェリアに上

陸したが、アンダーソン英國第一軍司令官は、十六日、左の如く言明した。

「聯合軍の主目標は北阿地中海沿岸最良の軍港ビゼルトであり、我々は急速にチュニジア進撃を續行中である。ビゼルトの占領は、對伊爆撃熾烈化を容易にし、且、我軍の新なる上陸を可能にする。」

下院議員大規模對伊空襲を要請

十一月十七日の下院で、シンウエル労働黨議員以下多數議員は、可及的速かに大規模對伊空襲を實行すべしと要求した。

西地中海に機雷敷設

海軍省は北阿における作戦上の必要に基き西地中海に機雷を敷設した旨、十一月二十一日、次の通り發表した。

「聯合國海軍はスペイン、フランス國境沖合よりアルジェリー沿岸に至る南北一帯の水域に機雷を敷設した。聯合軍の許可を得ずして右水域に侵入する船舶は危険

を覚悟しなければならない。但しスペイン領海は機雷敷設水域から除外されてゐる。」

英空軍の首脳更迭

政府は、十一月二十七日、英空軍首脳部の異動を發表した。右に依れば中東空軍司令官アーサー・テッダー大將は空軍參謀次長に任命され、後任には空軍戦闘機部隊司令官W・S・ダグラス大將が任命され、又第十一戦闘機隊司令官メロリー少將は新に戦闘機部隊司令官に任命された。更に空軍沿岸警備隊司令官フイリッポ・ジュベール・ド・ラ・フェルト中將は空軍總監に、ヒュー・ウイリアム・ラムズデン・ソーンダース中將は第十一戦闘機隊司令官に任命された。

チャーチル首相戦局好轉を揚言

チャーチルは十一月二十九日夜BBCから戦局の見透しにつき演説を放送した。その放送で西地中海の戦況が反樞軸軍の佛領北阿侵入で好轉したかの如き口吻を洩ら

し、

「聯合軍は聯合各國民の生命その他貴重なる『遺産』を喪失する危険を克服するに至つた。」

と述べ、また戦争の實際に關しては一切豫言はしないとの從來の建前を強調しながら、

「歐洲の戦争は太平洋の戦争よりも早く終了するかも知れないが、その場合には英國は全力を擧げて米國や濠洲と協力し、『血族』救済のために戦ふだらう。」

と豪語した。以上チャーチルの放言は現在太平洋方面における戦を専ら米國軍に委せてゐる言譯とも見られるが、チュニジア方面の戦局についてはアレキサンダー並にモントゴメリーに全幅的な信頼を置くと言へるに止めた。

【外 交】

西葡兩國の領土權益保障

イーデン外相は、米英軍佛領北阿上陸の當日である十

一月八日、ロンドン駐葡スペイン公使アルバ公使にポルトガル大使モンテイロ博士を外務省に招致し佛領植民地に對する聯合軍の行動につき釋明した。同時にスペイン駐葡英大使サー・サミニエル・ホーア並にポルトガル駐葡英大使ヒュー・キャンベルは、それ／＼本國政府の訓令に基き

(イ) 北阿軍事行動の目的については英米兩國間に完全な合意があること

(ロ) 右軍事行動は西國(葡國)の領土並に權益に對し何等の脅威をも與へるものではないこと

等を夫々任國政府に申入れた。

リットルトン、米大統領と會談

戦時生産相オリヴァー・リットルトンは、軍事經濟兩分野の専門委員を帶同して、十一月六日、ホワイトハウスに米大統領ルーズヴェルトを訪問、長時間に互り會談を遂げた。右會見後ルーズヴェルトは記者團との定例會見で

「リットルトンと一九四三年度に於ける米英兩國の戦時生産問題について隔意ない意見の交換を遂げた。」と聲明した。

重慶駐在軍事代表團長赴任

コリンズダール代將は十一月一日付を以て少將に進級、重慶駐在英國軍事代表團團長ボルス少將の後任として同團長兼英國大使館付武官に補せられ、十一月三日印度より赴任した。

英議會派遣使節團重慶着

英議會派遣の重慶訪問親善使節團ロード・エルウィン、ロート・デヴィオット等の一行五名は、十一月十日午前十時五十分、昆明より空路重慶に到着、翌十一日朝、外交部長宋子文、同次長博秉常を訪問、會談ののち蔣介石を訪問、チャーチル及び英上下兩院議長の親書を手交、更に同日午後、行政院副院長孔祥熙及び王寵惠を訪問、會談を遂げた。

對蘇援助内容發表

ロー外務次官は、十一月十二日、下院に於て過去二年間の英國對蘇援助の内容を左の如く發表した。

飛行機	三、〇五二臺
戦車	五、〇八四臺
自動車	三、〇三一臺
工作機械、金屬其の他	八三一、〇〇〇噸
飛行機用ガソリン	四二、〇〇〇噸
燃料油	六六、〇〇〇噸

尙、右は何れも歐洲北邊を迂迴して輸送されたものである。

(國際時報中「英内閣の改造とクリップスの左遷」参照)

内相 ハーバート・モリソン

戦時内閣員に列す

國爾尙書サー・スタッフ・オード・クリップス

戦時内閣員を解く、航空機製作相に任ず

下院總務を免ず

外相 アンソニー・イーデン

下院總務兼任を命ず

航空機製作相 ジョン・リュウリン

華府駐劄として軍需生産普及の任に當らしむ

拓相 克蘭ボン卿

國爾尙書に任ず、上院總務故の如し

オリヴァー・スタンレー大佐

拓相に任ず

英國戰時經濟政策

第一次世界大戰に於て、英國は戰費中の二割も租税で

【一 般】

内閣改造發表

チャーチル首相は十二月二十二日夜ダウニング街十番の官邸に於いて内閣の改造につき次のとおり發表した。

は賄ひ得なかつたが、今次大戰では戰費が激増したにも拘らず、其の約五割を租税で捻出してゐる。税金は非常利得税と通常所得税に大別することが出来るが、そのうち非常利得税は總ての所得を國家に提出するを要する。しかし、一般に各企業會社の戰時利得は其の儘全部國庫に納入されるのであつて、今日迄企業家は其の利得の一部を税金として國庫に納入して來たが、現在は其の反對に、國家がその利得の一部を企業家に與へ殘部を收得することになつた。

これは戰爭中の一つ的手段に過ぎないが、この制度では頗る公平に、會社が自らの利潤中の一部を與へられる。その率は戰爭前の平均利得と同額又は資本金の六%であつて、一九三八年以後に設立又は増資された會社は其の出資又は増資額の八%を與へられる。又右の供與額に對しては普通税を課せられるが、これは最低額でも戰前の二倍である。株式の配當金に對しては五割の税率であ

り、田園等の不動産の収入は九七・五%迄も徴收されるのである。

又、賃金給料等に對しても蔵相キングスレー・ウッドは苛酷な強制貯蓄を實施しようとしたが餘りに不評判なため、この貯蓄の代りに貯金すべき金額を一時非常措置として本人が政府に貸出す形式にして後日事態の安定した時政府より支拂を行ふこととなつた。

英國戰時財政の弱點

英國戰時財政政策の中心は餘剩購買力吸収を目標とする大増税と國民の自發的貯蓄にあると云はれるが、右に關聯し十月十日附英誌エコノミストは今時の戰時財政を前大戰當時と比較検討し前途なほインフレーションの危険が大であることを指摘し、要旨左の如く論じてゐる。
一、現在租税、就中直接税が英國戰時財政において果してゐる役割は一九一四―一八年當時よりも遙かに大きい。一九一四―一五年より一九一七―一八年に至る四

財政年間における英國政府の國庫收入（主として租税收入）は總額十八億四千萬ポンドで政府の支出總額七十億一千三百萬ポンドの二十六パーセントに過ぎなかつた。しかるに一九三九—四〇年より一九四二—四三年に至る四ヶ年間（本年度は推計）における收入總額は六十九億三千四百萬ポンドで支出總額百五十六億四千八百萬ポンドの四十四パーセントに當る。所得税及び附加税によつて本財政年度中に約十億磅の稅收が期待されてゐるが、右は一九一七—一八年當時の稅收入に比し約四倍以上に上つてゐる。

二、本財政年度の標準所得稅率は一九一三—一四年から一九一七—一八年迄の期間中に比すれば一志二片（一磅に對して）から五志と四倍以上の騰貴を示してゐる。尤も實際にみられた最高所得稅率は前大戰當時の六志に對し本財政年度の十志となつてゐる。更に直接稅の負擔は凡ゆる所得に互つて前大戰當時より遙かに

重くなつてゐる。高所得に對する課稅が如何に苛酷なものであるかに關しては九月三十日に行はれた大蔵大臣の説明によつて明らかにされてゐるが、これによれば左の如く高所得者に對する租稅重壓の進行が窺はれる。

納稅後の純收入	一九四二年	一九三一年
六〇〇磅以上	八〇人	七〇〇人
四〇〇—六〇〇磅	一、七〇人	三、〇〇人
三〇〇—四〇〇磅	三、〇〇人	五、〇〇人
一〇〇—三〇〇磅	一〇五、〇〇人	一五〇、〇〇人

三、前大戰の一九一四—一七年の期間の物價及び賃銀騰貴率は今次大戰の一九三九—四二年のそれに比して二倍にも達してゐた。すなはち前大戰と今次大戰の騰貴率を比較すると次のやうになる。

卸賣物價指數	一九四一七年	一九三一年
(エノノミスト誌調査)	一二〇%	六〇%

生計費指數
(勞働省調査)

賃	八〇	三〇
銀	六〇	三〇

更にエノノミスト誌の四半期毎の會社業績調査によつてみても各會社の利潤も一九三九年以來超過利潤稅により極めて適切に安定させられてゐる。

四、今まではインフレの徴候は極めて少く生活必需品は完全に統制されてゐたからインフレの危険は不急品の分野において感ぜられたに過ぎなかつた。しかし乍らインフレの素地すなはち増大する過剩購買力及びこれと並んで消費財及びサービスの減少といふ事態は依然繼續してゐる、といふことは注意しなければならぬ。民間購買力の増加がなくても消費物資の供給が更に一段と減少すれば重大困難の招來は不可避である。尤も今日迄インフレ抑制のため採られて來た諸對策はそれぞれ相當の効果を擧げてをり、今後も非緊要物資に對する更に大幅の消費稅引上と相俟つて理論上かゝ

る危機の克服は可能な譯である。しかし實際問題として賃金、俸給が將來更に昂騰した場合によつて増大する過剩購買力の吸収には果して從來の増稅、貯蓄配給割當及び物價統制等のインフレ對策だけで充分であるかどうかは甚だ疑問である。過去の經驗から見ても今や英國戰時財政は常に一種の防衛策を講ずべき時期に立ち至つてゐる。この防衛策とは個人所得が全般的に現在以上の水準に上らないやうに絶えずブレイキをかけるといふことである。

食糧難深刻化を豫想

ウィルトン食糧相は十一月十六日夜ラジオを通じて國民に呼び掛け聯合軍の佛領北阿進攻作戦開始の影響で、英本國の食糧難は、一層深刻化するであらうと次の通り警告した。

「聯合軍が北阿進攻作戦を開始した結果、英本國に食糧を輸入するために利用し得る船舶は更に減少するで

あらう。即ち現在迄軍隊並に資材を輸送するため多数の船舶が必要とされて来たが、北阿に作戦中の聯合軍に對する補給を確保するためには更に多くの船腹が必要とされるであらう。従つて英國民は此の間の事情を認識して、近く食糧割當が更に制限を受けることを覺悟してゐなければならぬ。

野菜配給統制擴大

食糧省では十一月下旬野菜類の配給統制品目を更に擴大した旨発表した。従來この種統制は行政上の諸困難のため餘り進展を示してゐなかつたもので、昨今の野菜不足深刻化に鑑み今回の措置となつたものとみられる。

物價管理強化

一、冬期の到来に伴つて英國における毛布類需要は最近激増し、これがため毛布價格は著しい騰貴を示してゐるが、これが對策として、商務省は十一月下旬、十二月一日以降は物價管理局によつて従來正式に價格を定

められ且つ販賣を許可された以外の毛布の販賣を禁止する命令を發した。

二、供給省は十一月下旬鑄鋼價格を従前より六分方引上げ、同時に従來物價管理局の統制下になかつた凡ゆる種類の鋼鐵及び壓延鐵板を同局管理下に置く旨發表した。

英内相戰時生産狀況を誇示

内相ハーバート・モリソンは十一月一日カーヂフで演説し英國の戰時生産狀況を誇示して左の如く述べた。

「英國の戰時生産は一人當りにすれば聯合國たると敵國たるを問はず世界のいかなる國よりも大である。例へば英國造船業の生産高は一人當り他の各國の職工の二倍以上である。英國の生産は未だ絶頂に達してゐない。資源からみて人力はその局限に近づいてゐるが機構の改正と資源割當の調整に依つて依然生産は改善されつゝある。九月中の軍需品生産額は十四パーセント増加し

飛行機生産は十八パーセントの増加を示した。」

炭坑夫の怠業増加

英國の石炭饑饉は愈々激化してゐるが、十一月二日、炭坑協會發行の報告書は過去四ヶ年の石炭生産高が、

一九三八年	二億二千七百萬噸
一九三九年	三億三千百萬噸
一九四〇年	二億二千三百萬噸
一九四一年	二億六百萬噸
一九四二年	二億噸

と逐年遞減しつつある事實を指摘し、斯かる生産減少は炭坑夫の不足によるが、更に炭坑夫中に事故及び病氣以外の怠業缺勤者が増加して来たことにも原因すると述べてゐる。

昨年中の英國工場事故

十一月下旬、工場監督官ウイルフレッド・ガレットの發表した一九四一年度工場事故報告によれば、英國工場

における事故死傷者数は左の如く増加してゐる。

死者	一、六四六	二〇%増
重傷傷	一、二六九、六五二	一七%増
右の性別死傷率を見れば左の通りである。(従業員千人中の死傷率)		
一九四一年	一九四〇年	
婦人従業員	一八	九・五
男子従業員	五〇	四〇・〇

即ち婦人従業員においては九割増、男子においては二割五分の増加である。なほ婦人従業員死傷率の激増は主として就業時間の延長と安全な産業より比較的危険率の多い産業への移動によるものとみられるが、事故防止對策としてガレット監督官は特に今冬における各工場の暖房用燃料の消費節約に反對し、右は單に生産額の低下を來たすに過ぎない旨警告してゐる。

英本土爆撃状況

内務省は、十一月二十九日、一九四〇年七月から一九四一年七月まで一ケ年間に於ける獨逸軍の英本土爆撃被害状況の詳細を発表した。右によれば英本土全體で高性能爆弾十九萬個が投下され、死者四萬三千名、負傷者五萬名を出した。ロンドンのみでも引續き五十七夜空襲を受け、死者約一萬三千名、重傷者二萬名を出し、二十五日間毎夜一ヶ所餘で火災が生じ市内二十平方軒が焼野原と化した。尚、十一月十六日英空軍省発表による十月中のドイツ空軍英本土空襲被害は左の通りである。

死者若くは行方不明 二二九
負傷者 三七〇

空襲による家屋被害状況

保健相アーネスト・ブラウンは、十一月十七日、下院に於て開戦以來英國内の家屋が空襲によつて受けを被害状況を次の如く発表した。

「英國内で開戦以來爆撃によつて破壊乃至破損された家屋の数は二七五萬戸で、これは英國内全家屋の五分の一に當る。この内二五〇萬戸は修理されて現在居住されてゐるが、残りの二五萬戸は未だ住み得る状態になつてゐない。」

海保険料率引上

英國戰時保險局は今回戰時海保料率の改訂を発表、十一月十八日から實施することとなつたが、これは海外諸港間における英國、聯合國及び中立國籍船舶の積荷に對しては適用される。今回の改訂により米國及び西印度諸島方面の海保料率はいづれも前同に比し引上げとなつてゐる。新料率は左の通りである。

新料率 舊料率
一、西印度諸島—南米諸港相互間 一〇% 六%
二、北中米—南米諸港相互間(大西洋航路並に大西洋航路) 一〇% 六%
共)

一、米國大西洋岸及西印度諸島—
濠洲相互間 一〇 九

一、米國及西印度諸島—アデンを
含むアフリカ諸港相互間 一〇 七・五

(但し米國及西印度よりグーバン迄の西及南アフリ
カ)

一、同右 一〇 九・〇

(但しグーバン以北ケープアルグファイ以南)

戦争中止を英國國民に勧告

印度事務相子息放送

エイメリー印度事務相子息ジョン・エイメリーは、十一月十九日、伯林放送局より對英特別放送を行ひ、「米英の勝利は愚者のみが考へ得ることである」と述べ、戦争中止を英國國民に勧告したが、エイメリー印度事務相は、記者團の質問に對し

「伯林放送局の發表は嘘と思ふが、赤十字社を通じて南佛グルノーブル發の手紙を受領して以來、ジョンとは

音信不通なので、彼の所在は知らない。」

と述べ、深入りするを好まない様子を示した。

尚、ジョン・エイメリーは三十二、三歳で英國フアシスト團員であつたといはれる。

イーデン外相の日本撃滅論

イーデン外相は、十一月中旬ヨークシャーポストに特別寄稿を行ひ、要旨左の如く日本撃滅を強調した。

「聯合軍が東京に入城することは伯林入城と同様に重要である。日本の軍事機構にして撃碎されず、大東亞共榮圈建設の野望にして粉碎されなければ、日本は侵略の中心となり、世界平和に對する不斷の脅威となるであらう。日本は、獨逸が屈服した時、聯合國は疲弊し切つて、妥協的平和條約に調印するものと期待してゐるかも知れないが、さうした誘惑は却下されなければならぬ。」

獨逸

ミュンヘン殉難記念日に於ける

ヒットラー總統演説要旨

ヒットラー總統は、一九三三年のミュンヘン示威運動犠牲者記念日前夜にあたる十一月八日夜、ミュンヘンのフェルドヘレンハレの前で一大獅子吼を試み世界大戦の現狀に検討を加へた後、反極端分子を掃蕩するまで斷乎戦ひ抜く決意を表明した。演説要旨は左の通りである。

「十ヶ年前に比べれば獨軍はその戦力において比較にならない程優勢となつた。ドイツの味方はドイツの敵より多く、極端軍は今や強大な戦力をもつて戦争の完遂に邁進してゐる。開戦以來獨軍の戦死は三十五萬に達し、ナチス黨國會議員三十九名も亦尊い犠牲となつた。萬一敵方が勝利をおさめるやうなことがあるなら

ば、ドイツ國民が如何なる運命に陥るかと言はずして明らかであらう。従つて今回の戦争においては最早妥協の餘地は残されてゐない。ドイツ政府は一九四〇年無用な流血の惨事を避けたいとの見地から和協案を提示したが、右提案が最後である。爾後残されてゐるのはただ「戦ひ」の一語のみ。今日笑つてゐるユダヤ人も間もなく笑ふことが出来なくなるであらう。スターリンは獨軍が中部戦線に攻撃に出るだらうと豫想してゐたが獨軍の目標はたゞ一つの都市に向けられた。余が欲したのはこの特別の都市であつた。獨軍は非常な速度で進撃し、戦史にかつてない大作戦に赫々たる戦果を収めたが、スターリングラード市の攻略に際し必ずしも大部隊を用ひなかつたのは、第二のヴェルダンを再び繰返すことを好まなかつたからである。現在スターリングラード市の攻略には極めて少數の精銳部隊を使用してゐるに過ぎず、今では一隻の舟艇もヴォ

ルガを遡つて同市に近付くことができず、その役割も果さなくなつた。反極端軍は獨軍がセバストポリの攻略に可成りの日子を要したことを取り上げて論議してゐるが、これも亦余が大量の犠牲を出すことを好まなかつたことに外ならない。しかもセバストポリは獨軍の掌中に歸し、クリミヤ半島も亦獨軍の裁定するところとなつたではないか。獨軍は飽迄頑強に次々に作戰目標を達成して行くであらう。敵の一時的成功は却つて我方の勝利とならう。余は未だかつて他人の教へに従つて自身の作戰計畫を立てたことはない。何れにせよ英軍は百萬の大軍を大陸に擁してゐると豪語したに拘らず遂にフランス本土から驅逐されたではないか。今日英軍が沙漠地帯において多少前進したとて何の恐れるところあらう。英軍は多少前進しても再び退却するばかりであらう。今日米國政府は毎年何隻かの軍艦を建造してゐると頻りに宣傳してゐるが、ドイツ

政府も亦同數の軍艦を建造し更に違ふところは米國よりも一層有用な船舶を建造してゐる點である。既に獨軍は二千萬噸以上の敵船を撃沈したが、右數字は前大戦の戦果を遙かに凌駕してゐる。問題は要するに敵を征服するやうな態勢を逐次確立し、その態勢を維持することである。しかも日本が参戦して以來、日本軍は世界における最大の錫生産、巨大な石油の生産並に石油資源に加ふるに世界のゴム生産の九八%を反極端國から確保した。

昨年冬の異常な危険を通り越した後、余は今日最大の確信をもつて今次戦局の推移を待望してゐる次第である。本年は一切の準備ができてをり寒氣凜烈たる冬が來ようとも去年のやうな事態は斷じて再び起らないであらう。戦線が何處にあるかは問題ではない。我々は常に敵軍に對し攻撃を加へるであらう。最後に勝利が我々の旗と共にあることは余の瞬時たりとも疑はな

いところである。今日ルーズヴェルトは獨伊兩國の攻撃を阻止するためと稱して、北アフリカを攻撃したが、ルーズヴェルトは正に我等に反對するギヤング國の棟梁であり、この老人の出鱈目を取り上げる必要はない。前大戦と今回の戦争との相違は當時カイゼルの背後には一員の支持もなかつたのに對し、今日余の背後にはかつて世界に見なかつた優秀な組織が控えてゐることである。これ即ちドイツ國民である。更にもう一つの相違は今日ドイツ國民は戦つて戦ひ抜くといふたゞ一つの主義に終始する人間のみである。老大なドイツの國防力が日を追うていよいよ國家社會主義化して行くことは諸君も既に氣がついてゐるだらう。戦争の眞只中において我々は世界がかつて見なかつたやうな人民の軍隊を建設してゐるのである。國內戦線においては全國民は一致して勞務に従事してゐる。ドイツ國民は金をもつてゐないが、仕事をする生活力と聖

なる力と崇高な決意とを持つてゐる。金庫の中に金が喰つてゐようと米國人にとつて果して何の役に立つか、歐洲の新秩序においては金本位制を廢止することゝならう。戦後歐洲が従来よりも經濟的に一層健全となることは言ふまでもない。従つて今回の戦争が終るとともに金の支配が終りを告げ、今回の戦争を惹き起した金融支配階級は終焉を告げるであらう。若し敵國がドイツ國民の團結に楔を打ち込むことができると思つてゐるならば誤れるも甚だしい。ドイツの諸都市に對する卑怯な爆撃を聞く度に余の心臓は張り裂けるばかりである。時機到來して獨軍が再び西歐洲に轉ずる場合敵は誠に禍なるかな、敵はドイツ人の發明的天才が眠つてゐるのではないことを必ずや發見するであらう。今度の戦争が祖國存亡のための戦ひであることを銘記するならば、男女老若を問はず、總てのドイツ人の思ひは祖國のための祈りとなるのであらう。

ペタン元帥宛ヒットラー總統書翰全文

ヒットラー總統は、十一月十一日、獨軍に進駐令を下すのと相前後して、フランス國家主席ペタン元帥に書翰を送り、獨軍進駐の止むを得ざる理由を闡明した。右書翰全文は次の通りである。

「天命によつて余がドイツ國民を指導するに至つた日から余はドイツ國の側における重大な犠牲をも顧みずフランス國との一層良好な關係を確立するために誠實に努力して來た。若し以上の試みが未だ成功をおさめないとしてもそれは余の過失ではない。フランス國のためには破局的に終つたかの迅速な作戦の後においても、將來のために歐洲のよりよき團結を結成することは放任できないとの考へが常に余の念頭を去らなかつた。これは當時ドイツ國がフランス國の弱體を奇貨として威嚇するの舉に出でず、かゝる場合戰勝國が要求せざるを得ないこと、即ち休戦は事實上における戦争

の終焉を意味し、且フランス國の舊盟邦の失當な政策の結果戦争が繼續する場合においても、休戦條件が寛大なためにドイツ國の軍事的地位がいかなる事情の下においても悪化することがないやうにとの保障を要求するに止めた。しかるに英米兩國は依然として戦火を歐洲に擴大し得るとの野望の下に、今や西アフリカ並に北アフリカにおけるフランス領土を攻撃し、占領するの舉に出た。フランス國はいか程の期間もこの攻撃を阻止できる地位に立つてゐない。

勿論休戦協定が必然的に獨伊兩國の不利となるやうな事態を誘致することを、兩國はいかなる場合においても容認することはできない。もはや疑問の餘地のない諸情報に徴し、且英米兩國軍輸送の構成を仔細に觀察した結果、コルシカ島並にフランス南部が英米兩國軍の侵入の次の目標であることを獨伊兩國政府は知るに至つた。元帥よ、右事情の下において以上の急迫した脅

威を防ぎ去る見地から、イタリア政府と協同の下に、余の軍隊に對し第一にフランス國內を通過し最も早い方法によつて地中海岸を占據し、第二に英米兩國軍攻撃の脅威に對しコルシカ島の保護に協力するやう命令するの止むなきに至つたことを貴下に通告するを洵に遺憾とする。一フランス將軍が捕虜となり乍ら病氣と稱して特別の優遇を受けた結果脱走し、名譽を重んずるとの確言に反して英米兩國軍の用を務めひとりドイツ國に對してのみならず、祖國に反抗して戦つてゐるが、特にこの一將軍の態度のために余は今回の措置をとるの止むなきに至つた。元帥よ、こゝにおいて余は地中海の情勢が好轉し、ドイツ國の利益がもはや危険でなくなると同時に、直ちに余の軍隊を現在の境界線の背後に撤収する用意あることを貴下に對して保障する。元帥よ、かゝるが故にドイツ軍の進駐はフランス國の首腦として竝に世界大戦における勇敢なフランス兵の指

導者としての貴下に向けられたのではなく、且フランス政府乃至は平和を愛好し、特に置き祖國が再び、戦火の巻と化するのを避けることを希望するフランス人に向けられてゐるのでないことを通告したい。更にまたドイツ軍今回の進駐はフランス國の行政機關に向けられてをらず、余は各機關が従來通りその任務を遂行することを要望する。元帥よ、敵の宣傳により貴下竝に貴下の政府が自由を奪はれ國務を掌理することが出来ぬ結果となることを怖れたからこゝ、余は休戦協定當時フランス政府がヴェルサイユに移ることに反對したに過ぎぬのであるから、今日以後は貴下竝に貴下の政府が些かも妨げられることなくフランス全國いかなる所にも動くことができることを貴下に保障したい。既に上述の事情に基き、獨伊兩國が、休戦協定に明示されてある通り、英米兩國軍侵入の危険に對抗し、自國の利益を擁護し、フランス國內残存部分の境界線

を占據するの止むなきに至つたのであるからフランス政府が依然としてヴェイシーに残留すべき理由はもはやなくなつた。佛獨兩國間に新な流血の慘事を惹起するやうなことなく、却つて大陸の平和を攪亂する徒輩の行動の結果歐洲各國が更に一層團結を鞏固にすることを希望して止まない。即ちドイツ國は可能な場合には常にフランス將兵と相携へて貴國の境界線を、従つて又歐洲文化と歐洲文明の境界線を擁護せんとする決意を有する。元帥よ、この秋に當りフランス政府が緊張をとり除き、且兩國相互の利益のために一切の措置を講ずるやう特に貴下の配慮を煩はしたい。

佛國軍民に對するヒ總統聲明書全文

ヒットラー總統が、十一月十一日、フランス國民竝に佛軍將兵に對して發した聲明書の全文は次の通りである。
「一九三九年九月二十日英國政府が何等の理由も根據もなく、ドイツに宣戦した當時フランス政府は首腦部間

に存在した陰謀家のため不幸にも英國に加擔して参戦した。ドイツ政府は當時フランスから敵視される譯は少しもなかつたのでフランスの態度は全く豫想に反したものであつた。ダンケルクにおける英軍の大敗を最後として英佛共同戦線が崩壊した後ドイツはフランスに休戦を提議するの好意を示した。

休戦協定でドイツは佛軍の名譽を傷けるやうな要求は一切提出しなかつたが、ただ英國の戦争挑發者から報酬を受けて操られた徒輩が早晚戦争を再開せんと試みる可能性があるのに對して警戒を怠ることはできなかった。しかしドイツの目的はフランス植民帝國を破壊させることではなく、反對に来るべき合理的平和實現に際し歐洲に相互諒解の雰圍氣を招來するにあつた。その後英國はフランス領土に再び根據を得んと企圖し、次いで米國も同様な野望を抱くに至つた。米英兩國は自己の利益のために飽くまで他國の領土での戦

争を欲するのである。

この企圖は到る處で慘澹たる失敗に終つたので、米英兩軍は今や北阿竝に西阿の佛領植民地に對し攻撃を開始した。

ドイツ政府は今から二十四時間前にこの攻撃目標が歐洲大陸にあり、フランス本土南岸に侵入せんと企圖してゐることを知つた。かゝる情勢に鑑み、余はフランス防衛の獨軍に對し直ちにフランス非占領地帯を通過して米英軍が上陸を企圖してゐる地點に進駐するやう命令を發せざるを得なかつた。従つて獨軍はフランス國民竝に佛軍將兵の敵として進駐するものではない。獨軍進駐の目的は唯一つ自己の同盟國と協力して米英兩軍のいかなる上陸企圖をも粉碎するにある。ベタン元帥を國家主席とするフランス政府は完全に自由のまゝ残され従來通り自己の職務を遂行し得る立場にある。

獨軍司令部佛非占領地帯進駐公表

獨軍司令部は十一月十一日午後特別公報をもつて次の通り發表した。

「南フランスに對する米英兩國軍の急迫せる上陸作戰の企圖に對しフランス領土を防衛するために、獨軍は十一月十一日早朝フランス國內における占領地帯と非占領地帯との境界線を通過した。獨軍の進駐は豫定通り遂行されてゐる。」

ゲッベルス宣傳相演説

ゲッベルス宣傳相は十一月十七日ウツペルクルにおいて一場の演説を試みドイツが現在直面する諸重要問題に言及して、要旨左の如く述べた。

「蘇聯邦はドイツ竝に全歐洲を敵として抗戦を續行して來たが、過去數ヶ月における戦闘はいづれも獨軍の決定的勝利に歸した。ドイツの國家的竝に政治的存在に必要な生活箇竝に重要原料資源は既に大半ドイツの

掌中に歸してゐる。

獨軍の夏季、秋季竝に昨年冬季の攻勢の結果として蘇聯邦の補給は極めて困難となり、漸次消耗の極に達せんとしてゐる。獨軍が現在北阿戦線で行ひつつある後退は、四圍の情勢を考慮した上の行動で、一般戦況竝に戦争の歸結に何らの影響を及ぼすものではない。今や戦場は七ツの海に擴がつてゐる。獨潜水艦は今やその行動範圍を太平洋まで擴大したのである。その結果英國側消息筋は早くも通商破壊戦の擴大によつて英國にとつて益々困難な事態が來ることを指摘し出したのである。

英國側宣傳陣は目下戦ひを長期化することによつてのみ勝利を獲得し得ると盛んに宣傳してゐるが、これを誤謬も甚だしいといはねばならない。制壓範圍の廣いものにこそ長期戦は有利であるが、制壓權を失つたものが長期戦によつて勝ち得る筈がない。東方にお

更に將來はフランス政府がヴェルサイユ宮に歸り、

それからフランスを統治するのを妨げる何物もなくならう。ドイツ政府竝に獨軍將兵は凡ゆる可能な場合に佛軍と協力してフランス本土の國境を保護するばかりでなく、更に今後歐洲諸國のアフリカに有する領土の侵略に對する防衛に参加したいと考へてゐる。英國から報酬を受けてゐる煽動家が獨軍の前進を阻止する場合のみ、獨軍は武力に訴へて解決を求めらう。過去三世紀間、歐洲諸國を互に争はせ、屢々フランスの領土を強奪し、現在もまたそれを企圖してゐる勢力が少しでも早く打倒されれば、フランス國民竝にフランスを占領してゐる獨軍將兵の希望もそれだけ早く實現されよう。獨軍進駐に關する凡ゆる具體的問題はフランス當局の同意を得て解決されることとならう。」

ける敵の領土喪失がこの原理を實踐してゐる。即ち東方で敵の失つた軍需資源は今やドイツの戦争遂行のため使用されてゐるのである。」

リビア方面戦線整理

リビア戦線に於て、最近ロメル軍は、急速な戦線整理を行ひ、十一月七日、マルサ・マトルーを、十二日、トリブルクを、十六日、デルナを撤退したものの如く、獨軍當局は、二十日に至り、樞軸軍が豫定の計畫に依りベンガジを撤退した旨發表した。

尙、十一月末現在、ロメル軍は伊軍との合流に成功、トリポリクニア方面に於て反撃を行ふべく、同方面に兵力を集結、既に陣地を構築中と傳へられる。

ツィロン進駐に關するペタン元帥宛總統書翰

ヒットラー總統はドイツ軍に對しツィロン軍港占據を命令すると同時にフランス國家主席ペタン元帥に對し十一月二十六日附を以て書翰を送つた。その内容は左の通り。

り。

「元帥閣下、英佛兩國によつて強要された戦争に對し、ドイツ國の防衛を保證するため、一九四二年十一月十一日、余がフランス南岸を占據する決定を下すの止むなきに至つた際、これによつてひとり獨伊兩國の利益の爲のみならず、又貴國のためにも事態を明瞭ならしむることができるとを期待した。回顧すれば一九三九年九月英佛兩國に對し宣戦を布告したのはドイツ政府ではない。反對に余はヴェルサイユ指令によつて課せられた桎梏から獨佛兩國の關係を解放し、友好的協力を確立する可能性を決して看過しなかつたことを再びここに強調したい。

ドイツ政府はフランス國民に對し差延べた手を無駄に終らせないことを要求したに他ならなかつた。然るに不幸にして貧乏飽くなきアングロサクソン特にユダヤ人の黒幕がドイツ政府の妥協的態度をドイツ國弱體

の表象と見做し、爾後における和平の提言をドイツ國が崩壞の危機に瀕してゐる證據と解した。ドイツ國內においてはひとり政府のみならず、一般國民も亦演説乃至新聞紙上においてフランス國民の名譽を毀損する如き要求乃至提案を差控えたにも拘はらず、パリにおいては責任ある使曠者が、ドイツ國の分割、ドイツ國民の隸屬、ドイツ社會法制の基礎撤廢から更に進んで一たん閉ぢ込められてしまつたユダヤ民族に對し無制限に擄取の權限を與へることを主張して、止まなかつた。元帥閣下、余は貴下がこれらの策動に全然關與してをられなかつたことを諒承してゐる。

ポーランド征戰の時においても余は従前の要求を繰返へし、自らドイツ國のためには何ら求める所なしに専ら歐洲の協力を資する和平を提案したことを貴下も亦諒承してをられるであらう。一九三九年九月の當初におけると同様、歐洲の自己破壊的戰爭を奇貨として

金融的擄取に専念する徒輩はポーランド征戰の終結後においても余の理性に對する訴へに反對し、いかなる代價を拂つても戦争を繼續することを主張して止まなかつた。その結果フランス政府によつてドイツ國並に盟邦イタリヤ國に對し強要された戦争は常識によらず、武器を以て闘はれるの他なきに至つた。世界史上に類例のない赫々たる戦果を収めたにも拘らず、余はフランス國民の名譽を毀損する惧れある措置を差控え、休戦協定においてもいかなる場合にも再び開争が起ることのないやうに保證を要求するに止めた。

爾後においても余は休戦協定の諸條件に違背するやうな要求は一度も提出しなかつた。元帥閣下よ、ドイツ政府がフランス艦隊を叩きやうとし、乃至はフランス艦隊を要求したといふが如き英米兩國の宣傳が單に虚構と偽瞞とに過ぎなかつたことは貴下の熟知される通りである。ドイツ國が強要された戦争のために引續

き異常な犠牲を拂つてゐるのに對し、休戦協定の成立以來フランス國民は海上又は空中から攻撃を受けて損害を蒙ることがなく平和の裡に生活できるに至つた。その間ドイツ政府はフランス人捕虜百九十六萬のうち、七十萬を逐次解放した。かくの如きは史上全く類例をみない所である。然しながら捕虜の解放もフランス國內における不逞分子の策動により獨佛兩國の協力が妨げられた結果、停止するの止むなきに至つた。

然しながら、獨佛兩國の協調策を見出し引續き親善關係を維持するために余と會談したいといふのは實に貴下自身の希望であつた。余は貴下の希望に従ひモンテールにおいて協議を遂げたが、右會見の結果、全般的に情勢を緩和する基礎を確保し得たであらうといふのが余の確信である。

然しながら戦争を利益とするフランス國內の分子は、數週間を出でずして余自身の感情を少なからず害

する如き理由によつて、獨佛兩國の協力を阻害するに至つた。ナポレオンの子孫をパリに招致し貴下をドイツ人の手に渡さうとしてゐるといふことが公然と主張された。元帥閣下よ、貴下自身がフランス政府をヴェルサイユに還へすやう再三余に對して要請されたのであるが、予は全世界が何ら首肯すべき根據がないにも拘らず、かくしてフランス政府はドイツ國の支配下に入つた、と放言すると考へたが故に、以上の要請を拒否したのである。

この種の策動は休戦協定を締結した當時の予の心境とは、全く背馳してゐたのであるが、數百萬の勤勉な勞働者、農民並に市民が健在し、これらの人々は胸中専ら平和を祈念して如上の策動とは何ら關係がないことを十分諒承してゐるが故に、不逞分子の策動にも拘らず予は別段の對策を講じなかつた。この際更に重ねて確言したいのは、予は決して自らフランス政府の代

表を招請したことなく、獨佛兩國政府間における一切の討議はフランス政府が自ら希望した場合においてのみ行はれたといふ事實である。グルラン提督との前後二回に互る會談も同提督の明確な要請に基き、且貴下の名において實現されたのであるが、今や西北アフリカ並に北アフリカ佛領に對する米英兩國軍の上陸が多數叛逆將星の同意の下に遂行されたことを確認するに至つて、休戦協定の前文に明示された同協定の前提諸條件がもはや存在しなくなつたことを認めざるを得ず、ドイツ政府は盟邦と相携へて即時必要な安全保障を講ずるの止むなきに至つた。然しながら、さる十一月十一日においては英米兩國軍今回の行動を誘致した事情を全部は承知してゐなかつた。今日閣下も承知してをられる通り、兩國軍の佛領占據が皆てフランス國民を戦争に迫込み、今日においても依然としてフランスの社會、就中軍人社會の間から消え去らない分

子の特別な希望によつて遂行されたことを知るに至つた。フランス陸海軍の將星がドイツ政府に對する誓約を破つたのは寔に遺憾である。

貴下自身すらこれらの陸海軍將星が貴下に對する忠誠の誓を破つたことを再三認めざるを得なかつた位であるから、予も亦これらの分子との取極めが全く無意味なことを認めるの外なきに至つた。一九四二年十一月十一日以後においてもこれら將星の嚴肅な誓約が即日弊履の如く捨てられてゐたことは最近發見された軍命令で明瞭となつた。某提督は十一月十一日ツォロン軍港におけるフランス艦隊が如何なる外敵の攻撃に對しても交戦するであらうと約束しながら、翌十二日には、英米兩國海軍部隊の上陸ある場合には斷じて發砲してはならない、との軍命令をフランス艦隊に出して、誓約を破つた事實がある。

其他休戦協定違反の實例は續々發見されてゐるが故

に、予は茲に貴下に對し次の通り通告せざるを得ない。
 一、貴下自身はこれらの諸事件に何ら關係なく貴下自身もこれらの事件に悩まされてをられることを予は熟知してゐる。

二、戦争を強要し、今回の戦争を惹起し、全歐洲を破壊してユダヤ的アングロサクソン閥の桎梏下に置かうとする徒輩に對し、自衛のために戦ふ外ない國民の權益を予は保障せねばならない。

三、予はひとりドイツ國民のためのみならず資本主義のあくなき搾取から脱却し且つ國際的搾取の犠牲となることを欲しない數百萬の人々のためにも今回の戦争を繼續する外はない。

四、ドイツ國民はフランス人に對して何ら憎惡の念を抱いてゐないが、予はドイツ國民の總統並に代表として、この怖るべき戦争を惹起しひとりドイツ國の

みならず全歐洲を混沌の渦中に投ぜんとする分子の策動を、いかなる場合にも、斷じて容認しない決意である。従つて將來に於ても獨佛兩國民間の協力を阻害し、戦争勃發の重罪を負ひながら、外敵の侵入に對し歐洲の門戸を開く機會が到來したと考へてゐる一切の團體並に個人に對しては、予は飽迄反對するであらう。

五、フランス陸海軍將星の新たな誓約違反の報告を受け、予はフランス艦隊がツィロン軍港から脱出し乃至自決するのを阻止するため即時ツィロン軍港占據の命令を下した。然しながら名譽を重んずるフランス將兵に對する戦を企圖するものではなく、既に流された血を以て足れりとせず、現下の災厄を更に繼續擴大する新たな機會を絶えず狙つてゐる戦争犯罪人に對する闘争である。従つて貴國政府の命令に背反しドイツ軍に對し積極的に抗戦しようとするフ

ランス軍艦の武装を盡く撤去する命令を出した。

六、以上の措置はフランス陸海軍將星の背信行為に基く止むを得ない措置であり、フランス國民乃至フランス軍を目標としてゐるのでないことは上述の通りである。尠くとも自國元首の命令に服従し、國際條約の締結を保障するやうな國防軍を再びフランス國に整備することは予並びに予の盟邦の誠實な希望である。今回の擧たるや貴下にとつては寔に痛嘆措く能はざるところであらうが、軍に規律と服従なき國家は瞬時と雖も考へることが出來ず、貴下に絶對的に心服する陸海空軍の再建されることは結局フランス國の幸福であることを思へば、貴下の悩みも自ら軽減されるであらう。

最後に今回の措置は全く事情止むを得ざるに出で、獨佛兩國の合作を企圖する予の意圖には些かも變りなく、結局において合作實現の基礎を確立するであらう

ことを貴下に確言したい。アングロサクソンがその巧言令色にも拘らず、フランス領植民地を盗み取つたが、ドイツ國の全力をあげて植民地奪回につきフランス國を支持しようとするのが予の不撓の決心である。獨伊兩國はフランス「植民帝國」を破壊せんとするが如き意圖は毛頭抱いてゐない。必要上止むを得ざるに出たドイツ政府今回の措置に協力し、流血の惨事を起さずして獨佛兩國の眞の協力を確保するか否かは、一にフランス政府當局の態度に懸つてゐる。ドイツ政府に關する限りにおいては、フォン・ルントシュテット元帥に必要な一切の處置を講ずる權限を附與し、同元帥は何時でも貴意に應ずるであらう。」

ツィロン進駐に關する獨軍司令部公報

獨軍司令部は十一月二十七日夜樞軸軍のツィロン軍港進駐に關し次の公報を發表した。
 「ツィロン市並に軍港は二十七日早朝以來獨伊兩國

軍の掌中に在り、フランス政府が自爆を禁止したにも拘らずフランス艦隊の一部は自沈した。ツィロン軍港に於けるフランス陸軍部隊の武装解除は着々進捗し間もなく完了する見込である。」

ツィロン進駐に關する獨軍當局見解

ツィロン進駐に關し獨軍當局は十一月二十七日左の見解を表明した。

一、反樞軸軍の佛領進攻以來、敵國の宣傳はフランス陸海軍幹部にある種の希望を生ぜしめた結果、彼等自身の國家の安全否その存在をも危殆に陥らしめる如き措置乃至決定を採らしめるに至つた。佛國の規律は打續く叛逆と背信により毀損されたのみならず、フランスは更に恐るべき大火災の中心となり、遂には混亂状態に導かれる危険に當面した。

一、かかる情勢下のフランスは、ひとり歐洲新秩序に對する精神的脅威となるのみならず戰略的見地よりする

も樞軸軍に對する軍事的脅威となり得るものである。

勿論この種軍事的脅威は今日においては殆ど危惧するに足りないが、戦争の將來においては重大な背後脅威となり得るであらう。作戦の領域においても實際生活における同様の法則があり、一家の責任を負ふ者は大火災が起る前に凡ゆる必要な防火手段を講ずるであらう。

一、従つてヒトラー總統並にムツソリーニ首相の精神を知る者にとつては、この二大政治家が一、二の單なる佛將軍や提督の叛逆以上に重大な危険あることを自覺した結果、反樞軸軍の歐洲大陸前進を阻止するために思ひ切つた手段をとつたことにつき何等驚かないであらう。

一、樞軸軍がヒトラー總統並にムツソリーニ首相の命によりかかる手段を取るの已むなきに至つたことは遺憾に耐へないが、獨伊兩國政府の措置は最も緊急な軍事

的必要に基くものであつた。

一、樞軸軍のツィロン占領が疾風迅雷的に遂行された結果、佛海軍を奪取せんと企圖した英國の布望が水泡に歸したことは満足に耐へない。歐洲は一切の攻撃に對し今ほど安全を保障されたことはない。

獨逸特殊商業學校開校

十一月一日ブレイメンに於てドイツ最初の外國貿易及び占領地商業のための特殊學校の開校式が舉行された。新商業學校はドイツ農民の移住、開拓と並行して、東方地域との物資交流促進のためその中心になつて活動する中堅商人の養成を最も重要な任務とすることになつてゐる。

生活費指數

(ドイツ聯邦統制局調査)

十月 一三五

(右は七十二行政區における食料、衣服、家賃、燃料照明、其他生活必需品の一九一三年十月—一九一四年

七月を基準一〇〇とする)

國民にクリスマスの贈物

戦時下第四回目のクリスマスを前に控へて、政府當局は、十一月下旬、次のやうに豊富な贈物を各家庭に配給することに決定した。

小麦粉五百グラム、肉類二百グラム、バター二百二十五グラム、チーズ六十二グラム半、砂糖二百五十グラム、野菜二百二十五グラム、キヤンデイ二百二十五グラム、他に純粹コーヒー五十グラムと克蘭デイ酒が配給されるが、小兒たちにはこの代りに砂糖二百五十グラムを贈り、勤勞者には葡萄酒とブランデイ酒が特配される。

蘇聯勞働者を導入

ドイツ勞働戦線會議最終日の十一月十九日、ザウケル民政長官は歐洲被占領地域勞働者と同様、蘇聯被占領地域勞働者をもドイツ工業に導入する件を初めて提案し、次の通り説明した。



二十五年間にわたるボルシェヴィズム教育を受け、た蘇聯労働者をドイツ本土に導入することは確かに危険である。併し蘇聯労働者は多年の間ソヴェート政體の壓制下に苦しみ、且最低の生活水準を堪へ忍んできたのだから、ドイツ労働者の高度な生活水準を目の當り觀察することは、彼等によき感化を及ぼすことにならう。

防共協定締結記念日獨紙論調

十一月二十五日の各紙は、防共協定締結記念日に際し一齊に論説を掲げてゐるが、その主なものゝ要旨は次の通りである。

一、獨逸外交通信

日獨兩國が地理的に相距てるに拘らず、防共協定を提議する所以は、コミンテルンの脅威が全世界に蔓延して、歐洲では西班牙内亂を勃發せしめ、東亞においては、漸次重慶支那に決定的勢力を扶植したのみなら

ず、日本の指導下に在る滿洲でも益々その策謀を激化する等、その目的が眞に世界革命に在るを明らかにしたからである。其後益々増大するこの危険は、更に多數の歐亞諸國をして其國民的思想及本質を擁護するに本協定による以外に途無きを認識せしめ、條約國の數は著しく増加した。この防共協定は、文明の宿敵と斷乎たる抗爭を行つてゐる。嘗つて西班牙内亂で赤軍を援助した米英は、再びボルシェヴィズムと結び、歐洲文化を脅かさんとしてゐることは拭ひ難き汚辱であり、しかも米英は他方では飽く迄金權主義の舊世界體制を維持せんとしてゐるため、必然的に日本との衝突を惹起した。之に對して日獨伊及防共協定の締約諸國は、世界新秩序を建設して各民族に安寧福祉を確保し、ボルシェヴィズムの普及する餘地を與へない様、高遠な理想の下に、その生存に關する鬭争をなしてゐるものである。

二、ペルーゼンツアイトウング

防共協定締結記念日に當り、獨逸及びその同盟國は、ボルシェヴィズムに對する鬭争は歐洲文化全體の存亡に關するものであるから、飽くまで遂行しなければならぬ、何等の妥協を許さないと云ふ認識を再び新にするものである。斯る吾人の責任感と對照して、米英はボルシェヴィズムと提携してゐるが、これは彼等の非良心的態度を示すもので、斯の如きはヒットラー治下の獨逸よりも、寧ろ蘇聯の一部たる獨逸を希望するものである。又、米英は戦後充分ボルシェヴィズムを抑制し、或ひはデモクラシー化し得ると信じてゐるが、これは危険な誤謬で、逆に、米英がボルシェヴィキイ化される可能性が大きい。今日既に英大衆においては、米よりも蘇の方が憧憬的となつてゐるではないか。又、スターリンは今猶世界革命の理想を放棄せず、萬一戦勝の曉には、全力を擧げて歐洲のボルシェ

ヴィキイ化を計るであらうが、これに對しては何國も阻止することができないであらう。ヒットラー總統は能く前途を達觀して斷乎として武器を執りボルシェヴィズムの危険に對處したが、これに先立つて平時にボルシェヴィズムの侵入を許さぬ様な社會組織實現に成功してをり、米英自身すら之に倣はねばならぬ状態になつた。要するに吾人は東方戰場で全歐洲民族擁護のために戦つてゐるのに反して、米英は歐洲をボルシェヴィズムに委ねんとするもので、彼等がいかに一時的同盟國としての蘇聯と危険な世界觀としてのボルシェヴィズムとを區別して辯明しようとしてもこればかりは動かすことの出来ない事實である。

伊 太 利

佛非占領地域進駐政府發表

政府は、十一月十一日、イタリア軍が、同日朝、獨軍と同時にフランス非占領地帯に進駐した旨正式に発表した。

尙、イタリア軍は、同日、コルシカ島にも無事上陸した。

十月中の伊軍損害

十一月十日の伊太利大本營發表によれば十月中に判明した伊軍の損害は左の通りである。

陸軍及義勇軍	埃及戰線	戰死	負傷	行方不明
東部戰線		五六七	四四七	三二七
バルカン方面		二七七	六九二	一〇三
海軍		三八八	四六六	一六八
空軍		五六	一一八	二四七
		七〇	四四	三九

聯合國輸送船八十九隻を撃沈破

伊太利大本營は、十一月十五日、特別發表を以て西地中海方面に活躍中の獨伊海空軍は、十一月七日から十三日の一週間に反樞軸聯合軍輸送船五十七隻合計十八萬三千噸を撃沈、二十三萬四千噸を大破し、更に艦

艇三十二隻を撃沈破した旨發表した。

宣傳相對米決戰聲明

アレッサンドロ・バヴォリーニ宣傳相は、十一月二十八日、米軍部隊の地中海沿岸上陸作戦によつてイタリアの對米決戰態度は益々強化するに至つた旨次の如く語つた。

「地中海はイタリア並に地中海沿岸諸國の生命線である。ルーズヴェルトが歐洲自身の幸福のため必要とする地中海沿岸の戦略的且つ經濟的地歩を侵略し出したのは、即ちこの原則を無視して歐洲に對し干渉の手を伸ばしたことを意味する。

今やイタリア國民は、地中海沿岸にまで侵入して來た聯合國前哨部隊を地中海附近から追ひ拂ふべく、舉國一致で戦つてゐるのである。イタリアの望むところはイタリアの内海たる地中海の自由を確保しようとするものである。ルーズヴェルトが米軍部隊を北阿に派遣したのは、イタリアの友であるアラブ民族の文化を

侵害し、アラビア人の嫌惡するユダヤ文化の影響を地中海周邊にまで波及させようと企圖したからに他ならない。このときにあたり、過去二十餘年にわたつてボルシェヴィズムと戦つて來たイタリアは、蘇聯の盟邦として歐洲文化を脅かさうとする米國の侵略に對し斷乎戦ひ抜かねばならない。」

樞軸三國協同して米英を打破せん

——ガイダ主筆論說——

ジョルナーレ・デイタリア紙主筆ヴィルジニオ・ガイダは、十一月十三日の紙上に社説を掲げ、米軍の佛領侵入に關聯し次の通り述べた。

「萬一地中海における米英兩國軍の企圖が成功すれば所謂第二戰線を結成することが可能とならう。第二戰線はひとりイタリアを目標とするばかりでなく、ドイツをも目指してをり、獨伊兩國は歐洲の東南方面から脅威を受ける結果となり、更に反樞軸國が地中海を

利用出來る結果東亞における米英兩國の立場を救済されることゝならう。従つて反樞軸軍今回の作戦は、三國同盟の一國に向けられてゐるのではなく、樞軸各國を目標してゐるといはなければならぬ。

聯合國の作戦企圖に對抗するものは三國同盟締約國間の内外にわたる團結である。イタリア政府は冷静且つ力強く戦局の推移に對處してゐるが、獨軍は直ちにイタリアに來援し、東條首相の地方長官會議に於ける演説に徴するも、日本政府が情勢の推移を充分に認識し、且重大な關心を拂つてゐることは明瞭である。米英兩國政府は、兩國軍が地中海において活躍する結果、太平洋の戦局は一休みになると期待してゐたらしいが、この期待は全く裏切られ、兩國政府の失望は蔽ひ難い。」

更にまたガイダ主筆は、越えて十一月十八日のジョルナーレ・デイタリア紙上にも「戦局の中心は地中海にあり」

と題する論説を掲げたが、その論旨は次の通りである。

「アングロサクソン民族は地中海を攻勢の據點として、先づ歐洲を、次いでアジア大陸を攻撃する意圖である。米軍が大平洋において既に再三惨敗を喫し、且大平洋における自國の權益と體面とを擁護せねばならないのに、今や地中海作戦に異常な努力を傾注してゐる事實に徴しても、アングロサクソンの意圖は明瞭であらう。米軍が地中海で始めた作戦は、ひとりイタリヤ一國を目標としてゐるだけでなく三國同盟の全體割に向けられてゐる。

アングロサクソンは、第一に地中海を支配するイタリヤ軍を抹殺し、第二にドイツに對し總攻撃を加へ、第三に一切の殘存兵力を傾けて日本に對し最終的攻撃を加へる意圖に違ひない。アングロサクソンは、日獨伊三國の一國宛に對し、逐次全兵力を傾注し、各個撃破する意圖と解されるが、日獨伊三國は地中海の重要

性を充分に承知してゐるから、必ずや互に協力して敵軍の意圖を破損し去るであらう。西地中海に於ける樞軸軍の反撃は既に全世界周知の事實であるが、日本軍もまた太平洋に於て海陸の作戦行動を増強し、アングロサクソンにとり死活的な利害關係あり且地中海戦局と密接に關聯してゐる印度洋上の敵連絡路に、必ずや大打撃を與へるであらう。

日獨伊三國は依然として作戦上主動的地位にあり、各個撃破を期するアングロサクソンの野望を斷じて許さないであらう。樞軸三國は地中海に於てのみならず歐洲外の戦線に於ても緊密に協同し、アングロサクソンの攻撃に對し迅速に反撃を加へてゐる。」

生糸統制令公布

政府は十一月下旬同國における生糸生産に關する新法令を公布した。右法令は一九四四年まで有效であるが、その主要條項は左の通りである。

一、購買付は一定の商社のみ許可される。

一、組合省は關係各省と協議の上生糸生産年度の初めに白繭及び黃繭の價格を決定する。

一、右價格は繭十キログラムにつき生糸一キログラムを生産する中級品を中心とする。

一、對内對外を問はず繭販賣に當つては全國生糸局にその旨申告する。

因に本年度におけるイタリヤの繭生産高推計は二千五百萬キログラムで昨年實收高二千七百萬キログラムに比し稍減少を示してゐる。

蘇聯邦

國家非常委員會設置

蘇聯最高會議幹部會は、十一月五日、國家非常委員會(チエカ)を創設する旨公表した。同委員會の任務は

(一) 被占領地住民の殺害、老人婦女子に對する暴行、獨逸の奴隸とする爲蘇聯人の送致。

(二) 個人の家屋家財に與へた損害乃至課税及び罰金。

(三) コルホーズその他社會團體國家機關及び文化宗教施設の建造物並に財産その他に與へたる損害。

(四) 個人、公共企業及び社會團體の奥地撤退に伴ふ損害。

等を審査し、右損害に對する賠償の程度を決定するものであつて、シユヴェルニツクを議長とし、ジダーノフの如き黨部要人、作家アレクセイ・トルストイ、大司教ニコライその他數名の學士會員等が委員に任命された。

スターリン議長革命記念日演説

スターリン議長は、革命二十五周年記念祭の前夜たる十一月六日夜、モスクワの赤色廣場に於て蘇聯を繞る國際情勢につき演説を行ひ特に次の諸點を強調した。

一、蘇聯の産業は悉く東方に移り今や再組織を了した。
一、歐洲に第二戦線が結成されないため一九四二年の作戦に於て赤軍は不利を免れなかつた。
尙スターリン議長は例に依つて獨伊兩國を非難したが、日本に對しては飽迄慎重な態度を示し一切言及しなかつた。

米英佛領北阿上陸に對する

スターリン議長見解

A P 通信社モスクワ特派員ヘンリー・キヤンディは、去る十一月十一日、スターリン議長に對して質問を發し、米英聯合軍今次の佛領北阿侵入作戦に對する見解を求めたが、右に對するスターリン議長の回答は、十四日、タス通信社を通じて發表された。右回答に於て、スターリン議長は聯合軍作戦にふれたが、なほこれをもつて蘇聯の要求する第二戦線とは見做し得ないことを示唆したのは注目される。回答要旨は左の通りである。

「今次の佛領北阿に對する作戦は聯合軍の武力を示したものであり、更に歐洲における政治、軍事情勢もこの作戦によつて多少影響を受けることゝならう。また一方では、この作戦は聯合軍が歐洲大陸に於て第二戦線を展開するに必要な前提条件となつた。」

北阿戦局蘇紙論調

北阿戦局の進展に對して、蘇聯朝野は多大の關心を示し、蘇聯各紙は連日の如く、これを大々的に報じてゐるが、當初論評は殆ど加へなかつた。然るに、十一月十五日に至り、一齊に論説を掲載して、米英北阿作戦は第二戦線の前提条件であつて第二戦線そのものに非ずとする前記スターリン議長の見解を再度強調した。

右論説執筆者の主要なる顔觸れは、ブラウダ紙はコノネンコ大佐、デルマーシエフ。イズヴェスチヤ紙は、コノネンコ大佐、エルマチヨフ、赤星紙は、トルチエノフ大佐であるが、その代表的なものとして、十五日附ブラ

ウダ紙所載コノネンコ大佐の北阿戦局概観を抄記すれば左の通りである。

「北阿軍事行動で米英軍がチユニスに據點を得た事は、伊太利の戰略的地位を著しく脅威するものであるが、右作戦は、スターリン回答に述べられた様に、歐洲における軍事政治情勢を米英蘇に有利にし、且、獨逸の生命的中心に近く、歐洲第二戦線結成の前提を作り出したものに外ならない。」

赤軍反攻開始

赤軍は十一月十九日頃より、ヴォルホフ、ブリヤンスク、ウオロネジ、スターリングラード、オルジョニキツゼ、各戦區で、對獨反攻を開始したが、十一月末現在、未だ餘り涉々しい戦果を上げてゐない。

蘇墨外交關係回復

メキシコ政府の提議により蘇墨外交關係回復及外交代表交換に關する談合成立し、十一月十二日、右に關する

公文の交換を了した旨、十一月二十日の紙上に發表せられた。

宗教政策の轉向

蘇聯政府は「一切を擧げて戦争へ」の指導方針の下に今では宗教勢力をも動員するに至り、ギリシヤ正教をはじめとしてカトリック教、回教、ユダヤ教等の蘇聯國內宗教各派は蘇聯政府の對獨戦争遂行政策に協力してゐる。蘇聯政府の宗教に對する態度が全く一變したことを物語る好適例としては、最近キエフ竝にガリツクの大司教に任命されたニコライ僧正が、同時に獨蘇戦における獨軍の行動調査委員に任命されたことが目立つてゐるが、蘇聯において宗教界の人物がかかる公式の委員會に顔を出すのは初めてのことである。更に去る十一月七日、第二十五回革命記念日に當り、各派宗教界の有力者が擧つてスターリン議長宛に祝電を發し、これが米國宗教界から送られた祝電と竝んで連日各紙に掲載された。このやう

な例は革命以來稀有の現象で、嘗て「宗教は阿片」と稱した蘇聯政府の宗教政策も、せつば詰つた死活の運命を前に露骨な轉向ぶりを示してゐる。

佛 蘭 西

マダガスカル島降伏

政府は、ベタン 國家主席がマダガスカル島總督レオン・アンネに對し英軍との休戦交渉において政治的部門に觸れず純然たる軍事的協定の範圍に止めるやう命令した旨、十一月六日夜發表した。

尙戦闘停止につき十一月六日夜次の通り發表した。

「前後二ヶ月に互る佛軍の頑強な抵抗の後マダガスカル島における戦闘は停止するに至つた。總督は既に同島の防備が極めて困難な状態に陥つたことを報告したが、五日午後三時十分をもつて同島よりのラジオ放送

も遂に停止の止むなきに至つた。佛軍はアンバラヴァオの森に據つて前後八日間に互り抗戦したが、英軍二千に對し、守備隊司令官は僅かに二十七名の歐洲兵を有してゐるに過ぎず、十一月三日夜から四日にかけて遂に白旗を掲げるの止むなきに至つた。守備隊司令官は本國政府の同意を得、且抵抗を繼續することが全く無意味であるとの見地から十一月五日から敵軍との間に戦闘停止の交渉を開始した次第である。」

米英軍佛領北アフリカ上陸政府發表

政府は十一月八日午前米英軍の佛領北アフリカ上陸に關し左の如く公表した。

「米英聯合軍は八日朝フランス領北アフリカに對して攻撃を開始した。」

ベタン主席對米通牒

米國大統領ルーズヴェルトは今次米國軍の佛領北アフリカ侵入に關しベタン國家主席に對して米國軍の佛領上

陸は輻輳軍驅逐以外には他意なき旨を聲明したメッセーヂを送つたが、ベタン國家主席はこれに對して、十一月八日、直ちに回答を發し米國軍の不法行為を痛烈に難詰すると共に、フランス軍は國土防衛の爲飽くまで米國侵入軍に對し抗戦する強硬決意を披瀝した。要旨は左の通りである。

「余は米國軍が佛領北アフリカに對し攻撃を開始したとの報に接し驚愕の念を禁じ得ない。余は貴下のメッセーヂを通讀したが、そのうちで貴下の述べた口實は米國軍の行動を何等正當化するものでない。貴下は米國の敵の意圖なるものを云々されたが、然しこの意圖は現在まで決して實行に移されてはゐないのである。余は常に若しフランス領土が攻撃された場合にはこれを防衛するであらうとの決意を表明して來た。フランスは侵略者に對しては、それが何人であらうとも、これに抵抗するものである。フランスの名譽が危殆に頻

した場合は斷乎これを防衛せよといふのが余のフランス軍隊に與へた命令である。」

對米國交斷絶

政府は十一月八日午後國家主席ベタン元帥司會の下に緊急閣議を開催し、フランス領アフリカ植民地に對する米國軍今回の暴戾な行動に鑑み、米國政府との國交を斷絶するに決定した。

尙、ラヴァル政府主席は即夜米國代理大使タックに對し國交關係を斷絶する旨公式通牒を手交した。

ベタン元帥三軍を統帥

國家主席ベタン元帥は、十一月十日午後、次の如く聲明した。

「ダラン提督の不在に鑑み余は十日午後零時半、陸海空三軍の統帥に當ることを決意した。刻下の情勢に於ては、フランス國民の各々が冷靜且つ規律正しく整然と各自の任務を果すことあるのみ。」

ペタン元帥國民を激勵

國家主席ベタン元帥はフランスが直面する危機を強調、十一月十日、ラジオを通じて全フランス國民に激勵メッセージを放送した。要旨は次の通りである。

「余はフランスの最も暗黒な時代は既に過ぎたと思つてゐるが、現在の事態は一九四〇年六月の状態を思はしめるものがある。余は國民諸君が現狀に對して最も冷静な態度をとるやう希望する。ダルラン提督の不在に鑑み余はこれに代つてフランス全軍の指揮をとることになつた。祖國防衛に立ち上つた佛軍將兵並に國民に對し敬意を表する。國民諸君、諸君はフランスの安泰を念願する余に全幅的信頼を置いて貰ひたい。」

ラヴァル政府主席總統訪問

情報省十一月十一日の發表によれば、ラヴァル政府主席はミュンヘンに赴き、獨外相フォン・リッペントロツプならびに伊外相チアノ伯と交へ、ヒットラー總統と協

議を遂げたのちヴィシーに歸還した。

ツーロン軍港を「特別區域」に指定

政府は、十一月十二日、獨軍進駐部隊はツーロンに入らないこととなつた旨の通り發表した。

「ツーロン軍港の佛海軍首腦者は獨軍進駐部隊代表に對し、同港に在る佛海軍は外敵の攻撃には斷乎抵抗する旨の保證を與へた。その結果獨軍進駐部隊はツーロンを「特別區域」とし軍隊を同港に進駐せしめず、またフランス艦隊に對しても従前通りの地位を保證する旨を通告し來つた。」

ダルラン提督は叛逆者と決定

情報省十一月十六日發表によれば、國家主席ベタン元帥は十五日ダルラン提督を叛逆者として取扱ふに決定し、フランス人社會から排除し、一切の軍職公務を剝奪した。

ジロー將軍の賣國的行爲に加擔するな

——ベタン元帥全軍布告——

情報省十一月十五日發表によれば、國家主席ベタン元帥は、陸海空軍總司令官の資格を以て、十一月十五日、次の通り布告した。

「ジロー將軍はフランス政府に對する忠誠の誓を破り自己の名譽を抛つた。現在同將軍は、アフリカ軍の指揮權を余から與へられたと稱してゐるが、右は全く事實に反し、同將軍は軍司令官の稱號を勝手に外國軍から受けたのである。余はジロー將軍が余の命令に基き行動してゐるが如く裝ふことを絶対に禁止してゐる。フランス全軍の將兵は同將軍の賣國的行爲に加擔して同將軍の命令に従つてはならない。諸君の總司令官は依然として余一人である。」

在郷軍人會長忠誠を誓ふ

全佛在郷軍人會長ラシナル將軍は、十一月十五日、

ラジオを通じて、全國在郷軍人に對してベタン元帥に對する忠誠を要請した。放送要旨は左の通りである。

「祖國現下の危機に際して最も恐るべきは國內的不一致である。在郷軍人各位は輕舉妄動することなく、ベタン元帥の命令に絶対に服従すべし。」

ラヴァル政府主席に國政の全權を委任

情報省十一月十七日發表によれば、ベタン國家主席はラヴァル政府主席に對し國政處理の全權を委任し、且フランス國家主席の後繼者たる資格を賦與した。

但し、ベタン元帥は、依然、佛國主權を一身に具現する元首で、一九四〇年七月十日の憲法に基き、陸海空軍の統帥權並に條約締結及宣戰の大權を保持してをり、ラヴァル政府主席は憲法を改廢しない限度で、自己のみの署名で、法令を公布し得る權限を與へられたのに過ぎず、且、ラヴァル政府主席は、右權限の行使に當つて、依然としてベタン國家主席に對して、責任を負ふものと解さ

れる。

内閣改造

情報省は、十一月十八日、内閣改造に関する公表を行つたが、要旨は次の通りである。

海軍大臣(行政大臣) アプリアル提督(新任)
産業交通大臣(國務大臣) ビシエロン(前産業大臣、行政大臣)

經濟財政大臣(國務大臣) カトラ(前財政大臣、國務大臣)

尙交通省は産業省と合併して技術部門の統一を行ひ、又産業省所管事項中の國家經濟に關する事項は經濟財政大臣の管轄となつた。

對樞軸提携を強調

——ラツアル政府主席演説——

ラツアル政府主席は、十一月二十日午後八時三十分、ラジオ放送を以てフランス國民に呼びかけ、フランスの

直面する未曾有の危機を強調し、要旨左の如く述べた。

「余は長い政治生活の間にフランスの生存が脅威を受けた場合を経験してゐる。余は常にかかる苦難の際に當り政權を掌握したのである。諸君は余が政府に復歸した四月二十日當時を想起して戴きたい。爾來事態は發展して今日に至り我々は現在の悲劇的な立場に立つたのである。この秋に當り、ベタン元帥は余の權限を擴大し、余の双肩に極めて重大な任務を課した。余は過去數日間ベタン元帥と共にあり、元帥が如何に毅然たる態度を以てフランスに襲ひかかつた今次の大打擊に對處したかを親しく見てゐる。元帥こそは實に我が民族永遠の象徴であり、他日フランスの偉大を恢復すべき力の權化である。

我々は事態を興味にして置いてはならない。敗戦の結果傷つき休戦條約の重荷に喘いで來たフランスは今や昨日まで友と呼んだ諸國と抗争するに至つた。フラ

ンスは能くその植民帝國を保全し得てこそ初めてフランスたり得るのである。しかるに米英兩國は一步一步フランス植民帝國に對し侵略を行つて來た。領土無くしてフランスは有り得ない。我々の聯合國であつた諸國乃至聯合國と僞稱し來つた諸國は、フランスの海外屬領を恢復してやると呼び掛け、諸君の一部にはそれを信じてゐるものもある。しかし歴史は、我々からカナダをはじめ會つては我國の領土であつた各地を奪ひ取つたこれ等諸國の利己主義と殘虐性とを記録してゐる。

余はアングロサクソン諸國の寛大さを信ずることはできない。今日余は民族の本能を捧げ盡してフランスの利益擁護に邁進してゐるのである。米英兩國は東亞において永久に失はれた原料資源の寶庫たる領土の代償を求めて、我がフランス植民帝國を侵略してゐるのである。フランス國民は外國の宣傳に欺かれてはならない。米英の放送は諸君を混亂させるためのものであ

り、諸君の利益に奉仕するものでは決してない。米英の放送局からは祖國を捨ててこれに弓を引く理由を説明せんとする政治的亡命者共の聲が聞えるであらう。然し全歴史を通じて亡命者は結局正しくない者であることを忘れてはならない。

余は決して今次の戦争を希望してはゐなかつた。今次大戰の宣戰布告を行つた我國の指導者達は狂人である。この戦争は無用であり、既に開始前から負けるにきまつてゐた。幸福な平和の時代には歐洲に秩序があり、大戰勃發以前から余は獨伊兩國との協調主義を支持して來た。一九三五年余がイタリアと協定を結んだ如きも其の好個の例である。余は常に平和を望んだ。余は米國との平和を希望した。しかるに去る四月、余が政權を握る數日前、既に我領土侵略の準備を進めてゐた米大統領ルーズヴェルトは、余がフランス政府の首班となることは米佛兩國の國交に害があるとさへ言

明したのである。余は内閣の首班としてまた外相として、フランス駐米大使リーイと懇談した。余は去る四月二十七日リーイ大使に語つたことを今日公表しなければならぬ。余は米國の言論機關やラジオ放送に現はれた批評が極めてフランスに對して不公平であることを強調した。余は米國務省から公布された通牒に關して言及し、これに反對した。余は、リーイ大使に對し米國に移住したユダヤ人共は米國に於ける對佛輿論を悪化せしめんとするが、余は彼等を相手にする意圖はない、また米國に對し不公平又はこれを刺戟するが如き言辭を弄する意志もないと言明したのであつた。

我々がドイツとの諒解を求めこれを協調せんとしてゐるのはフランスの利益と平和を思へばこそである。余は我が領土を保全して祖國を守るためにかかる態度をとつて來た。ドイツとの諒解達成こそ歐洲の平

和を維持する唯一の保障である。我々は全く独自の立場からかゝる方途を選んだのである。」

宣傳機構改組

政府は、十一月二十二日、現在の宣傳情報局を分離して、夫々獨立の宣傳局、情報局を新設した旨發表した。而して新宣傳局長官には現宣傳情報局長官ポール・マリオンを、又、情報局長官には現宣傳情報局秘書長ポナフィを夫々任命した。

海相佛國艦隊司令長官を兼任

政府は、十一月二十六日、海相アブリアル提督が佛國艦隊司令長官に、またル・ラック中將が海軍軍令部長にそれぞれ任命された旨發表した。

尙アブリアル海相は、二十四日、ツーロン軍港に赴き、同鎮守府首脳部と數次に互り協議をとげた。

在ツーロン佛國艦隊自沈

十一月二十七日早朝、ツーロン軍港在泊の佛國艦隊は

相次いで自沈した。損害程度については十一月末現在、未詳であるが、同艦隊司令長官はド・ラポルト提督であつた。

武装解除順調に進む

情報省は十一月二十七日佛軍の武装解除に關し、次の如く發表した。

「ヒットラー總統がベタン主席に宛てた書簡において宣言したツーロン地區に於けるフランス軍隊の武装解除は十一月二十七日夜開始され、爾來順調に進歩してゐる。」

亞港佛艦隊對英協力を拒否

北阿の英軍港アレキサンドリアに離詰めにされてゐるフランス艦隊について情報省は十一月十四日同艦隊は依然反糧軸軍との協力を拒否してゐる事實を明かにし、次の通り發表した。

「在アレキサンドリアフランス艦隊司令長官ゴードフ

ロア提督はベタン元帥からの命令を絶対に遵奉し、同元帥以外の者からの命令には服従せぬ旨を宣言した。同提督は更に麾下の將兵に對し斷じて自艦を離れぬやう嚴命を發した。」

佛領西印度諸島靜穩

グレゾイ佛植民地長官は西印度諸島の佛領マルチニク島、グワドループ島及び佛領ギアナの事態に關し十一月二十七日次の聲明を發表した。

「米軍の佛領侵入以來、西印度諸島内の佛領に關し外國船の悪質且つ虚偽な噂が流布されてゐるが、フランス政府はマルチニク、グワドループの兩島並に佛領ギアナには何等事態の變化なく、完全な平穩が確保されてゐたし、又現在も確保されてゐることを茲に正式に聲明する。」

西印度諸島佛當局發表

マルチニク島駐在の佛當局は獨軍のツーロン進駐に

「在アレキサンドリアフランス艦隊司令長官ゴードフ

西印度諸島佛當局發表

マルチニク島駐在の佛當局は獨軍のツーロン進駐に

伴ふ佛領西印度艦隊の立場に關し十一月二十七日次の如く發表した。

「西印度諸島に殘留するフランス艦隊は過般佛領西印度諸島高等辨務官ロベール提督と米國代表との間に締結された協定により同港内に釘づけにされることになつてゐるので、今次獨軍のツーロン進駐によりその地位に何等變化を受けるものではない。」

英軍レユニオン島に不法上陸

植民地長官ジュール・プレヴィイは十一月二十八日夜英軍部隊がマダガスカル島東方、西南印度洋の佛領レユニオン島に不法上陸した旨次の通り發表した。

「英軍部隊は十一月二十八日午前四時三十分レユニオン島に上陸した。南阿軍を含むこれら侵略部隊は既に防備施設のない首都サンデニ市を占領したが、その他の地區では夜間警備隊の活動竝に同島總督の敏速な決断によつて順調に防衛計畫が進められ、隨所に抵抗が

行はれてゐる。」

レユニオン島總督降伏勧告拒否

印度洋上の佛領レユニオン島に不法上陸したド・ゴール軍指揮官前佛海軍大佐リシャールは、同島のオーベール總督に對し、十一月二十九日正午全島の降伏を要求する最後通牒を發したが、オーベール總督は斷乎右要求を峻拒して次の如く回答した。

「レユニオン島は不正な攻撃の目標となつたのである。本島の住民は英軍乃至ド・ゴール軍の支配下に入ることを承服出来ぬ。殊に彼等が再三に互つてヴィシー政府への忠誠を顯示して居るにおいてをやである。

この理由の下に余は本島の降伏勧告を拒否するものである。ド・ゴール軍部隊は海岸諸都市殊に首都サン・デニ市を占領したが、これは余が島民を市街戦の危険から避けしめようとしたことによるものである。もしこれまでに島民の血が流され、又今後も流されなければ

ならないとしたなら、その責任は全くド・ゴール軍のみが負ふべきものである。レユニオン島佛軍は本島を防衛することによつてのみその義務を遂行してゐる。」

食糧基地たる真面目を發揮

張國務總理談

張國務總理は十一月十六日省長會議終了後記者と會見、「今後滿洲國は農業國たる眞價を發揮、大東亞戰爭遂行に全面的協力をなすつもりである」旨の確固たる決意を表明した。要旨は次の通りである。

「この度の會議の主旨は滿洲國が日本の大東亞戰爭完遂に協力するため擔つてゐる大使命を國民全般に徹底せしめその達成に遺憾なきを期することにある。そのためには先づ官吏特に平常國民と直接折衝のある省、市、縣、旗長に現下の非常時局をはつきり認識せしめ、これを通して國民の自覺と決意を促したいのである。滿洲國が日本に對していかなる方法で協力し得るかといふことは、四千三百萬國民が一丸となつて最後まで大東亞戰を勝ち抜くといふ精神力を昂揚集結すること、竝に凡ゆる物資の生産を増強して日本の必要物

滿洲國

國民勤勞奉公法公布

滿洲國建國史上、劃期的意義を有する國民勤勞奉公法は國民勤勞奉公隊編成令とともに十一月十四日皇帝陛下御臨の參議府會議を通過、優渥なる上諭と共に十一月十八日公布され、明年一月一日より實施されることとなつた。本制度は康德七年(昭和十五年)四月施行の兵役の義務を規定した國兵法に照應、青年をして高度國防國家建設事業に挺身せしめ、勤勞奉公を通じ建國の理想達成に向つて鍊成せんとするものである。

資を不自由なく供給するといふ點にある。就中滿洲國は農業國であり、今日大東亞戰の食糧基地たる地位にあるから農産物の増産力を致さねばならぬ。従來他方面の建設を急務としたので、農業方面における政府の力も不足であつたかと思ふが、この際滿洲國は在來の姿に還つて農業國たる眞面目を發揮せねばならない。

事業統制組合法公布

政府は經濟統制の強化に伴ひ、簇生しつゝある各種統制團體組合の重要性に鑑み、新に事業統制組合法を創設、これが指導監督の改正を期するとともに、事業の確立發展を圖ることとなり、事業統制組合法の制定を急いでゐたが、十一月十七日國務院會議において可決、十九日の參議府を通過手續の完了を見たので、同法施行規則とともに二十五日公布即日施行することとなつた。同法は四章百三十四條より成り鑛工、配給、貿易、

運輸等の經濟各部門にわたる事業統制組合に關し規定したものである。

邢治安部大臣華北へ答禮

政府はさきの華北政務委員會委員長王揖唐氏の來滿に答へ、その答禮使節として邢治安部大臣を政府代表として派遣することとなつたが、邢代表は隨員九名を隨へ十一月二十四日新京發、二十五日北京に到着した。

初代駐泰公使バンコック着

政府は南方の盟邦泰國と外交官を交換するに決定、隱岐參事官をバンコックに先行せしめて公使館開設準備に當らせてゐたが鄭禹初代駐泰公使が十一月三十日バンコックに到着したので、信任狀捧呈と共に正式開館することになつた。

中華民國

「中國救済の日近し」

——汪主席武漢放送——

汪主席は武漢地區の政情視察のため軍事顧問松井中將ほか隨員を帶同、十一月十四日南京發漢口に向つたが、十五日には武昌を訪問、國府軍司令部に於て國府軍並に保安總隊の閱兵を行ひ、更に湖北省政府に赴き、省政府成立三周年記念式典に臨んだ。かくて汪主席は十七日夕「河南、湖南、湖北、安徽の官民に向つて」と題し、左の如く放送した。

「武漢地方には幾回も來たことがあるが、第一回は辛亥十月末南北の和議に奔走し、和議が終るまで滞在した。清帝が退位され民國が統一された元年三月國父孫先生に従つて再び來漢し、第三回目は十六年四月初旬

余が歐洲から歸つた際で、その時は丁度國民革命軍が北伐に勝利し、武漢、南京をとつた時であつた。然るにこの時から國民黨と共產軍は衝突し、兩者間の調停は不可能な事態にまで立ち至つてゐた。當時蔣介石は南京を去り武漢を顧る暇もなかつた。余は武漢にあつて苦しい幾ヶ月かを過した。五、六月頃北方の張學良を破り、西方の楊森を撃退、七月頃清黨して共產黨を驅逐し、南京において國民黨の統一を完成した。この幾ヶ月の艱難辛苦は余自身と武漢の同胞が相共に味はつたのであつた。第四回目は二十六年十月末日頃で、その時は既に上海を失陥、南京が急を告げたので國民政府を武漢に移した。十二月初め獨逸の斡旋で中日事變を收拾せんと圖つたが、如何せん蔣介石は共產黨の包圍を受け抗戦を繼續するに至つた。余は幾度か忠告したのであつたが、蔣はこれを聞き容れず、遂に中日調停の機會を失ひ、南京が陥落、次いで徐州が陥ち、二

十七年八月中旬頃に至つて武漢を離れて重慶に赴いた。この間の辛苦は余自身と武漢の同胞が共に嘗めた辛苦の極限であつた。

この時から余は蒋介石との關係を斷絶すべく重慶を離れる念は深くなつた。武漢の失陥、長沙の火災、衡州の抛棄等種々の惨劇が余を決意させた。重慶からハノイに赴き和平主張を公開發表してから、余の和平運動が開始されたのである。二十九年三月末國民政府が南京に遷都してより、余は四月頃第五回の武漢訪問をした。この間余は武漢の同胞と既に二ヶ年餘りも會はなかつた譯である。想へば中國は今なほ危機にある。全面和平は未だ到來せず、萬感交々、恐らく武漢の同胞も亦余の考へと同様であると思ふ。しかし余は武漢並に河南、安徽、湖北、湖南の同胞各位に向つて告げた、「和平と反共の實はすべて着々と進み、中國が救はれる日も到來せんとしてゐる」と。即ちその後國民

政府は世界防共協定に参加、次いで中日基本條約を締結し、中日滿が共同宣言を發表、昭和十六年十二月八日大東亞戰爭勃發と同時に國民政府は友邦日本と共苦同甘の聲明を發表、中國の進むべき方向を決定したのである。反共について述べるならば、我々の反共は最初は國內のみであつたが、中日滿共同宣言が行はれてからは一步前進して東亞の核心を以て共同の反共を結成したものであり、更に日獨伊三國の防共協定に加入してからは世界の軸心を以て共同の反共を完成したものである。現在共產黨の國際勢力は既に一落千丈の頽勢を示し、國內にあつては潰滅の一路を辿りつゝある。しかし我々の反共陣營はかくの如く強大であり數年にわたる反共工作は完成に向つたのである。和平についていへば我々の最初の和平は中日兩國が大亞細亞主義によつて結びついたのであつた。

しかるに大東亞戰爭勃發以來は善隣友邦に進み共苦

同甘することとなつた。友邦日本と同心同往、相協力して大東亞戰爭の完遂を致さねばならぬ。それでこそはじめて中國は同甘の資格を保たれるのである。東亞の保衛は中國多年の念願である。余が今説いた和平反共の成功も既に遠くはない。我々が新國民運動に示された中華復興と共榮の使命を深く認識して勇往邁進、刻苦耐勞の精神を以て一直線に進むならば、三十年來の艱難辛苦も危急存亡も必ず酬ひられるのである。先日余は北京にあつて大衆に向ひ次のやうに説いた、「我々は友邦日本と同甘する前にまづ我々自身日本と共苦しなればならない」と。我々は全面和平が實現されず大東亞戰爭は未だ完遂前であることを知つてゐる。吾々友邦は現在苦しい立場にあるが、吾々現在の共苦を將來の同甘に求め、團結して苦痛を頌つならば、共同目的は達成され、はじめて苦痛も消滅する。各位同胞よ、吾々の行手は悪くはない。中國をして光の大道を走らせ

るために、各位同胞よ、努力し前進しようではないか。」

「日華基本關係條約と大東亞戰爭」

——汪主席全國民に對し聲明——

日華基本條約締結並に日滿華共同宣言成立二周年の十一月三十日を迎ふるに際し汪主席は十一月二十九日「日華基本關係條約と大東亞戰爭」と題する全國民に對する聲明を發表したが、其の要旨は左の如くである。

「一昨年十一月三十日、日華基本條約が締結され、日滿華共同宣言が發せられ、昨年十二月八日大東亞戰爭は勃發した。この條約および宣言は世界情勢の極まりなき變轉に對應するため東亞樞軸を結成したもので、大東亞戰爭は即ちこの世界の極まりなき變轉が差迫つてきたところに必然的に胚胎した事態である。一昨年の條約及び宣言があつたればこそ大東亞戰爭が勃發した時、日滿華三國が一致協力各々その負ふべき責任を擔ひ得たのであつた。これまでの所謂和平とは單な

る善隣友好に過ぎなかつたが、今では更に進んで同甘共苦をなすに至つた。

我々は民國二十八年十二月二十九日和平の主張を發表して以來至難の苦闘を経て來たが、その間ますます我々の主張の確實なことが立證された。百年以來米英帝國主義は世界を席卷した。もし日本が存在しなかつたならば東亞は早くから失はれてをり、従つて中國はいかにして獨り存在し得たであらう。國父は日本なければ中國なく、中國なければ又日本なしと述べたが、これは百年來の事實をもつて示され、殊に大東亞戰爭の如き相互に同生同死の協力を必要とするが如き現狀に至つて更に顯著となつた。

大東亞戰爭以前にあつて、かゝる條約および宣言が成立したことは、恰かも大洋を航海する船人が颶風のまさに到らんとするを知り、一齊に起つてこれを突破すべき工作に従事したと同じである。百年以來日華兩

國はその境遇を相同じくしてゐたが、外交、軍事の方針が異つてゐたことに兩國紛争の禍根があつた。今やこの禍根は一掃され、兩國の目的は同じく、意志は一となり、内は東亞民族の團結を圖り、外は東亞の共敵に對抗し、一旦大東亞戰爭が勃發するや日本はその國力を擧げて前線を擔任し、中國と滿洲國は後方を擔任、前線將士をして後顧の憂なからしめた。かくの如き團結精神は百年以來未だ見ざるところで、大東亞戰爭の勝利も亦これによつて決定し得るのである。

條約は一種の外交辭令ではなく一つの精神である。かゝる精神は一つの力を發生するものである。この力は時局を推進し、我等をして最後の目的に到達せしめ得るのである。いはゆる中華復興東亞保衛はこれである。條約成立以來既に二ヶ年を経過した。我々は全面和平が何故にいまだ實現しないかといふことを反省しなくてはならぬ。附屬議定書には明かに兩國間において全面和

平が回復して戰爭狀態が終了した時に撤兵を開始し、治安の確立に伴つて二ヶ年以内に撤兵を完了すると規定されてゐる。これは民國二十七年十二月に約束され二十九年十一月三十日條約と一緒に調印された。當時若しこの十二月二十九日附の和平通電が重慶側によつて受容れられてゐたならば、既に四周年を経た今日では、撤兵が完了されて既に二ヶ年を経過してゐたはずである。

今日何故に我が國內において兩軍が對峙の狀態をなし、戰爭の終結、全面和平の回復を不可能にしてゐるのか、われ／＼はここに思を致す時、重慶側が甘んじて和平の障礙となり、東亞の叛逆者となつてゐることを痛恨するとともに、更に何故に重慶をして驕然悔悟せしめ、和平に向はしめ東亞の同志になし得ないのかと自己を問責すべきである。

今日我々が最も緊要とするところのものは現在の共苦をもつて將來の同甘を求めることである。詳言すれ

ば將來の同甘は現在の共苦中にこれを求める。共苦は耕作であり同甘はその收穫である。精神的には耕作のみを考慮して收穫についてはこれを問はず、因果關係においてはこの耕作あつてこそはじめて收穫が生れるといふことであり、中國は大東亞戰爭後において強力となるべきものではなく、大東亞戰爭中において一歩一歩強力となり、その不斷の努力をもつて大東亞戰爭に貢獻することが出来るのである。

我々は一年以來いさゝか軍備の整備を行つたが、かかる軍備をもつてして果して單獨に共匪の掃滅、治安の保障をなし得るや否や、また我々は些かの物資を供給したが、農業の回復、工業の振興等未だ實現せざる今日、その貢獻するところ極めて僅かであつたことを深く反省する必要がある。

全面和平促進のために國民政府は強力とならざるべからず、大東亞戰爭に協力するために國民政府は更に

強力とならなくてはならぬ。これは一般國民の當然有すべき常識である。今年の元旦に我々は何故に新國民運動を起したか、それは時代の使命の餘りにも重大なことに、重大時局の到来を自覺し、精神總動員をもつて一切を擔當しなくてはならなくなつたからである。

中國は大東亞戰爭以前甚だ苦境にあつた。我々は國父孫先生の指示されたところに従ひ大亞細亞主義の原理を探求すれば過去の境遇は米英の帝國主義の然らしめたところであることが明かとなり、これによつて更に現下の時局こそまさに我々に與へられた米英帝國主義の打倒、中華解放の千載一遇の機會であること一目瞭然となる。

新國民道場は中華復興、東亞保衛をその目標となし、しかして勇猛精進、刻苦耐勞の精神をもつて實行する。また全國國民は勇猛精進刻苦耐勞の精神をもつて團結し自己を鞭撻するほか、友邦人士に對しては次の

如き心がけをもつて臨む必要がある。第一に相互に理解信頼の誠意、第二に謙敬自重の態度である。我々の自重は責任を持つことであり、驕慢であつてはならない。驕慢の反面は卑屈である。我々はもとより驕慢であつてはならぬが又卑屈であつてはならぬ。

友邦は我々が東亞保衛の同志たることを望んでゐるのであつて、同志たるには忠實であり、しかして強力であることが必要である。卑屈は決して忠實たり得ず、また強力とはなり得ない。

われ／＼はかくて初めて合作を語る資格が出来、個人のコ作より進んで國家と國家との合作に至つて自由平等の獲得があり得るのである。總言すれば日華基本條約および日滿華共同宣言は東亞をして一新時代を覺醒せしめたもので、大東亞戰爭勃發に至つてはさらに一步を進め、また一つの新時代に入つたものである。われ／＼は新しい精神をもつて新しい生命を創造し新

しい時代に邁進しなくてはならぬ。」

「世界戦争と東亞軸心」

—— 緒外交部長放送 ——

日華基本條約及び日滿華共同宣言二周年記念日を前に國民政府外交部長蔣民誼氏は、十一月二十三日夜、「世界戦争と東亞軸心」と題し、左の要旨の放送を行つた。

「この二年間における國際情勢は波瀾萬丈であつたが、東亞の軸心は却つて愈々鞏固となつた。國父孫文先生は民國十三年十一月二十八日、神戸において「日華兩國は速かに密接なる合作をなし、寸毫も紛糾があつてはならない」と喝破されたが、その大亞細亞主義が何故早急に實現出來ないか、それは我が國民全體が未だに大亞細亞主義の眞諦を諒解しないことにもよるが、最も重大な原因は米英の日華離間策と挑發によるものである。蘆溝橋事件勃發するや米英帝國主義は日華の不幸を幸とし、事變を擴大延長せしめんと策動し

たのである。

然し我等の慾求は和平であり、日華兩國の國交が正常なる軌道に乗り和平反共建國をなすことである。斯くして始めて米英の桎梏を離脱し東亞軸心の強化復興が可能となるのである。今次の大東亞戰爭は暴力に反抗する正義の戰爭であり、理論的にも必勝の根據を有してゐる。我が友邦の軍隊が一年足らずにして米英の侵略勢力を完全に東亞から驅逐し、東亞の解放が實現されたことは東亞民族の齊しく欣幸とする所である。大東亞戰爭勃發するや、汪主席は聲明を發し、友邦日本との同甘共苦の決意を闡明し、全力を盡して、大東亞戰爭に協力したのである。一方亦全國は一致して東亞聯盟運動と新國民運動の積極的推進をはかり、以て大東亞戰爭完遂と東亞新秩序建設に協力せんことを期してゐる。この協力は中國が日華基本條約を履行する誠意と決意とを表示するものに外ならないが、日本亦條約を

履行して同様の誠意と決意とを有してゐるのである。

東亞民族の共存共栄を實現するのは實に東亞民族一致の任務であり、又東亞民族唯一の光明の大道である。最後に私が重慶に向つて告げたいことは目下の世界大勢は米英の侵略的勢力が既に崩壊し、挽回不能となつてゐることであり、重慶が依然英米に依存することとは自らの墓穴を掘るに等しいといふことである。重慶が驕然反省して、全面和平を實現することが、和平救國、中國復興の唯一の途であるといふことである。」

防共協定一周年に際する褚外交部長談

褚民誼國民政府外交部長は、十一月二十四日の國際防共協定参加一周年記念日に當り、要旨左の如き談話を發表した。

「コミンテルンが世界を攪亂し始めてより既に久しいが、その慘禍を最も激烈に蒙つたものは我が中國である。過去二十年間の共產黨の我が國に於ける暴行は全

と繁榮に寄與するところも亦甚大となつた。我が國は民國十六年から十年に亘つて剿共に努力し、中國共產黨はまさに絶滅に瀕せんとしたが、西安事件に際して再び蒋介石と握手を遂げ、着々と其の勢力を擴大し、

事變以後益々暴威を逞しうしてゐる。眞に共產黨こそは平和を擾亂し阻害する國家の敵であり、斷じてこれを撃滅しなければ國府の目指す和平建國はあり得ないのである。しかもコミンテルンの國際性に鑑み反共を實行するためには志を同じうする友邦との緊密なる協力なくしては成功を期し難い。日華條約及び共同宣言によつて東亞樞軸は緊密に結合し、大東亞戦争の偉大なる戦果によつて東亞復興の大業はその基礎を確立した。しかしわが國の反共和平建國の國策もその速かな實現は期して待つべきものがある。重慶は今なほ共產黨に操られて盲目的抗戦を續けてゐるが、彼れにして若し悔悟しなければ、赤魔の勢力は更に増大し、國

く言語に絶するものがある。蘆溝橋事件發生以來、共產黨はこの機會を利用して蒋介石を支持し、恣に抗戦を鼓吹し、支那事變の擴大と長期化とをはかり、以て全中國を水火の中に陥れ、赤化の野望を實現すべく努め來つた。共產黨のこの種陰謀奸計に對しては全國民等しく憤激おく能はざるところである。日獨兩國はコミンテルンの陰謀を共同防止せんがため、六年前の一九三六年十一月二十五日防共協定を締結、翌年十一月六日イタリーも加入し、共產黨の活動に對し共同防衛の措置を講じたが、其後滿洲國、ハンガリー、スペインが相ついでこれに加入した。昨年十一月二十五日五年の期限満了するや、日獨伊等六ヶ國はベルリンに於て效力延長の議定書に調印し、同日我が國及びフィンランド、デンマーク、ブルガリア、ルーマニア、スロバキア、クロアチア等七ヶ國が同時に之に参加した。茲に於て防共協定の精神と能力は益々發揚され、世界の平和

家民族に及ぼす害毒は計り知れないものがあらう。本日記念日に當り、特に一言を呈してその猛省を促すものである。」

中央物價對策委員會

政府實業部では、國府治下における民生安定の重大性に鑑み、十一月二十一日、國際俱樂部に中央物價對策委員會を開催、國民政府側より梅思平實業部長、日本側より堀内公使が夫々日華を代表する委員長の資格で出席したほか日華關係各機關代表者出席、去る九月上海で開催された中央物價對策委員會幹事會で決定した物價對策要綱並に地方物價委員會組織要綱の二案を議題として審議を進めた結果、いづれも原案通り可決した。

重慶政權

十中全會概況

國民黨中央執行委員會第十次全體會議は、十一月十二日(孫文誕辰記念日)午前九時開會式を舉行、蔣介石以下百五十五名の執監委員の他、各院部長官、各省政府主席、各地黨部委員等出席、恆例の諸儀禮後、豫備會議に入り、左の十一名を主席團に選舉した。

居正、于右任、孫科、馮玉祥、戴傳賢、鄒魯、孔祥熙、陳果夫、葉楚傖、顧孟餘、李文範

次いで、十五日より正式會議に入り、右記主席團の人選にかかはる審査委員會通過の主要議案につき、十六日間といふ會てない長期にわたる討議を行ひ、十一月二十七日午後閉會式を舉行、左の要旨の宣言文を發表した。

「不平等條約の撤廢は長期抗戰の結果贏ち得たものであり、この機會に我々は國家的基礎を鞏固にしなければならぬ。即ち對外的要請としては國際聯盟に代るべき強力な國際的組織の設立を圖るとともに、國內的には戰爭努力を促進し、困苦甘受を恆久的方針とし、

民衆の責任において抗戰を果すべきである。總動員法の發布、經濟統制、徵兵、生産力の増加、工業化促進等はいづれもこの戰爭目的達成の線に沿ふものであるが、更に現在の戰爭努力を推進すべく實業計畫及び地方行政機構の確立が今後我等の努力の二大目的である。今や中國は興亡の十字路に立つてゐる。現在の機會を見逃がせば永久に中國更生の好機は見失はれるであらう。この意味において我等中國國民はあくまで三民主義を遵奉し協力一致古今未嘗有の重大任務に立ち向はなければならぬ。」

邵力子駐蘇大使歸着

駐蘇大使邵力子は二年半ぶりで十一月十日午後空路重慶に歸着、十一日、蔣介石に對し、蘇聯内情を報告した。

宋子文訪米英の意圖言明

外交部長宋子文は、十一月二十四日午後三時外人記者

團と會見、重慶の政情並に國際關係に關し左の如き一問一答を試みた。

問 重慶は近く駐外使臣の更迭を行ふか

答 大變動はない

問 治外法權撤廢に關する交渉は進捗してゐるか

答 未だ發表する時期ではない

問 貴官が英國を訪問するといふ話は事實か

答 余は英國の招請を受けてロンドンに赴くが、出發

はいつになるか未定である

問 貴官は再び米國に渡る積りか

答 余はワシントンに行く積りである

問 貴官はワシントンにおいて外交部長の職を擔任する積りか

答 余は既に外交部長である以上、無論何れの國にあつても同様である

問 最近の印度情勢は如何

答 未だ何等の報告にも接してゐない

問 世界各戦線の發展についての感想は

答 樞軸國はその進攻の武力準備について充足してゐることがいへる

宋美齡渡米入院

重慶當局は、宋美齡が十一月二十七日ワシントン着、直ちに某病院に入院したが、右は五年前の負傷後とかく健康すぐれず徹底的治療の必要があるためで、治療後は當分ホワイト・ハウスに滞在する豫定であると發表した。

董宣傳副部長渡米

重慶當局は、ウイスキー重慶訪問の答禮使節として宣傳部副部長董顯光が十一月二十八日ニューヨークに到着した旨發表した。

外人の行動取締強化

重慶檢察當局は、十一月中旬、來る十二月一日より飛

行場及び各公路バス停留場、船舶發着場等主要交通機關の要所に檢察官を配置、旅行證明書を検査しその取締を嚴重にする旨布告を發した。この措置は特に在留外人の取締を目的として採られたもので、從來放任されてゐた外人の行動に對する重慶最初の制肘的措置として注目される。因に檢察當局の調査による十月末現在重慶在住外人數は千二百餘名、うち八十八名が大公使館、領事館關係者、九十一名が軍事職員で、軍事職員の内譯は英士官五十二名、米大使館附武官等九名、印度、ビルマ、支那各地に米國軍部より派遣されてゐる者三十名となつてゐる。

佛 印

ドクレー總督メッセーヂ

ドクレー佛印總督は、十一月九日、米軍の北阿侵略に關

し佛印官民を代表して左の如きメッセーヂを佛本國植民大臣に發信した。

「全印度支那は米國の北阿攻撃に際しベタン元帥が表明した感情をそのままに北阿の住民に對し深甚なる同情を表明するものである。印度支那は本國に對し忠誠の誓を送るものである。いかなる事態にも本國政府は全印度支那の忠實に依據し得ることを茲に確言する」。

ドクレー佛印總督布告

佛印政廳當局は佛本國の重大事態に對し慎重なる態度を持してきたが、ドクレー總督は十一月十三日付を以て當地佛人及び原住民に對する布告を發し、これによつてあくまでベタン政府に忠誠を誓ふとともに日佛共同防衛の立場において現下の重大時局に對處する旨の態度を公式に決定闡明した。ドクレー布告全文は左の如くである。

「フランス人及印度支那民衆に告ぐ。さきに北阿に對するアングロサクソンの不法攻撃開始されるや、余はベ

タン元帥に對し佛印總督府にいかなる事態が発生するとも、印度支那の忠誠は期して俟つべきものがある旨嚴肅に證言を與へた。新しく發生せる事態を前にし、吾人はベタン元帥の命令に服従し、規律と靜肅を示すことに全力を盡すべきを各自が理解すべきである。全世界を震撼せる戲曲的事變の眞只中にフランス國の名において佛印總督の職を拜命した余は、秩序、勞働、相互信頼のもとに事態の推移を靜觀する絶對最高の義務と精神とをフランス人及び印度支那民衆に要望して來た。而して余のこの要求は殊に陸海空軍になされるものであつて、軍はいかなる事態に對しても犠牲的精神と嚴肅なる軍律との範を垂れることを命ずる。また同時にこれは一般市民のよき顧問たる在郷軍人及び各階級の官公吏に要請されるものである。萬一若干の者が現時要求さるべき冷靜、服従、沈着を誤つて輕舉妄動に出で、或は斷片的な或は誤つた報道に基き政廳の措置を

判斷し、これを非難するものがあれば、彼等は余がこれに對し怠慢でも無力でもないことを知るであらう。即ち總ては峻嚴なる法によつて罰せられるであらう。

當地における政治、軍事の最高方針は既に二年有餘我がフランス政府と「日出づる國日本」との間に規定された通りである。この印度支那に於けるフランス國主權尊重を含む規約は大西洋戰爭の開始に際し、日佛共同防衛協定により完成された。

余は現職に就任してから常に本國政府の訓令に基き統治してきたが、現在まで名譽、平和及び勞働のうち通過することを得た。この余の政策は今後も續けらるべきである。本國の首府においてはフランス國民はベタン元帥の命令に従ひ靜肅と信頼との下にある。そして印度支那は戦火を知らず、深刻な物資不足をもみず、この機に際し本國への忠誠を倍加し、未だ嘗つてなき信頼、沈着及び規律を以て各人は上長の下に團結して

ゐるのである。
尚、右處置に關し、ドクレー總督は十一月十七日、ベタン主席及びヴィンシー政府植民相より時宜に適した處置であることを稱揚する通電二本を受理した。

佛印の方針不動

——ドクレー再聲明——

佛印當局は、ドクレー總督の十一月十三日の聲明に基き、本國と佛印との一元的政策を強化せんと佛印各層の動向を注視し、去る十一月九日日本國へ送つたベタン主席への忠誠を誓ふドクレー總督のメツセーヂを掲載しなかつたサイゴンの日刊紙デベシーヌの發行停止を命じ、又一昨年發令された外國ラヂオ放送聴取禁止法を強化して、最近外國放送聴取可能受信機所有の佛人を摘發する等、早くも反政府的言動に對しては峻嚴に實力を行使すべき一切の準備を進めつゝあるが、ドクレー總督は十一月十七日再び印度支那住民に聲明を發し、佛本國情報部發表のグルラ

ン提督の公職糾奪に關するベタン主席の宣言を引用して、「十三日付の余の聲明は當國に對し余の方針を通告したものである。印度支那全體は擧げてベタン主席を支持し従來と變る所なくその命令を忠實に執行する。」と宣言、重ねて佛印當局不動の態度を明らかにした。

ド・ゴール派にタルラン派を檢舉

佛印當局内に英國依存の傾向を有するド・ゴール派及び米國の傀儡たるグルランと氣脈を通ずる一派が發生した事實を探知した檢察當局は突如として彈壓を開始し、先づ佛人官吏中の所謂グルラニストを佛印の治安を紊すものとして檢舉に乘出し、十一月中旬、既にサイゴン、シロン兩地區のみで三十六名の官吏が檢舉された。

總督、佛印艦隊の信頼を深謝

過般フランス印度支那艦隊司令長官ペランジュエ少將は同艦隊を代表して、ベタン元帥及びドクレー總督の下に一致團結して現下の難局に處せんとの決意を披瀝したメ

ツセーヂをドクレー總督に傳達したが、同總督はこれに對し十一月二十一日附をもつて左の如く答へた。

「余は貴下のメツセーヂに對して感激の意を表するとともに、ベタン元帥が余に依託せる大任遂行に當り、印度支那艦隊が余を輔佐せんことに全幅の信頼を懸けるものである、余の貴下艦隊に對する感謝と信頼の念を艦隊の各員に傳達せんことを乞ふ。」

泰 國

水害救恤に泰國朝野感謝

盟邦泰國では去る十一月月上旬以來全國各地にわたり相當廣範圍の水害があつたが、今回の水害は、二十五年來或は五十年來のもので、今年雨期の開始が例年より早く、而も七、八兩月の雨期に際しメナム河上流地域の降雨量が甚大で、ために流域一帯は稀有の大洪水に見舞は

れ、同國ビサヌローク以南の各地は水浸しとなり、浸水地域は二十餘縣の廣きに及んだ。メナム河々口に近いパソック市の如きも十月四日以來市内の極少部分を除いて全市水浸しとなり、市内の交通は舟便以外は一切杜絶の状態となり、帝國大使館員も全部小舟によつて通動を餘儀なくされた。上流地域一帯は早くから減水しはじめたが、パソック市は十月十四日に至つて漸く減水しはじめたに過ぎない状態である。坪上大使は今次の水害に關し去る十月十三日午前十一時ビヂット外相を官邸に訪問し、谷外相よりの訓電に基づき、畏くも

天皇陛下におかせられては深く御同情遊ばさるる

旨傳達、併せて日本政府に於ても今回の災害に對し、事情の許す限り救援することとなり、尨大な醫療品、食糧品等を至急輸送することになつた旨を傳へたが、右に關しビヂット外相は、御聖慮に對し、感激措く能はざる旨を述べると共に日本政府の厚意に對して深甚の謝意を表

した上、更に午後の閣議に此の旨報告したが、ビブ
ン首相以下何れも閣議の好意に感謝の意を表し、殊にビ
ブン首相は國民を代表して坪上大使あて書翰を以て、畏
くも

天皇陛下の御同情を辱ふしたるに對し恐懼感激に堪えざ
る旨と邦貨五百萬圓に相當する日本政府の救恤に對し政
府、國民竝に首相自身の感謝の意を傳達ありたき旨申し
出た。

かくして泰國は舉國感謝の意を表し、駐日デイレック
泰國大使は谷外相宛感謝書中にも「泰國國民は國を擧げ
て日泰兩國が永遠に渝ることなき兄弟の國であり同志の
國であることを銘記するものと確信する」と述べてゐる。

明年度豫算提出

政府は、十一月十二日、明年度豫算を議會に提出した
が、歳出は經常費一億四千八百八十萬バーツ、特別支出
一億二千九百七十萬バーツ、合計二億七千八百五十萬

バーツ、歳入一億四千八百萬バーツで本年度豫算歳出二
億六千萬バーツ、歳入一億二千五百萬バーツに比しそれ
ぞれ多少の増加を示してゐる。明年度豫算の特徴とも云
ふべきものは左の諸項で國防の充實及び産業開發の促進
が注目される。

一、國防費の充實

明年度は通常國防豫算四千萬、特別會計五千六百七
十萬、合計九千六百七十萬バーツを計上してゐる。こ
れは戦前一九四一年度の五千九百萬バーツに比すれば
倍増してをり大東亞戰爭完遂に邁進する泰國の決意を
示してゐる。

一、經濟建設資金の増加

歳出豫算において著しいものは中央銀行設立資金二
千萬バーツ、ゴム及び錫會社政府投資資金千二百五十
萬バーツ、道路修繕及び開設資金八千八百萬バーツ等
で何れも産業開發に邁進せんとする政府の意志を如實

に反映してゐる。

一、厚生教育費の増加と水害対策

新設の厚生省に對しては、四百三十七萬バーツの豫
算が振り當てられ、文部省に對しても一千六百六十萬
バーツが割り當てられて、外務省の百七十九萬バーツ
に比し、國民の厚生教育を充實しつつあることを示し
てゐる。尚水害対策費としては、明年度に一千萬バー
ツがあてられてゐる。

なほ明年度豫算においては相當の赤字が見られてゐる
が、通常歳出の一億四千八百萬バーツは同額の歳入によ
つて補填され、結局特別支出合計一億二千九百萬バーツ
が問題となる譯で、タイ國のこの特別支出の會計は國防
特別費を除いては産業開發、政府の事業投資等で殆ど占
められるが、ポリヴァン藏相も豫算提出に際し赤字は大
藏省豫備金及び國債で充分賄ひ得ると説明してゐる。

ビルマ

ドバマ・シンエサ聯盟結成

ビルマ行政長官バ・モ博士は新ビルマ建設と日本の戰
争遂行に協力するためビルマの政治力を結集すべく政黨
の樹立を解消する決意を固め、去る八月新しい民衆組織
としてドバマ・シンエサ聯盟を結成したが、今回従來の三
大政黨の内二つが正式に解消してドバマ・シンエサ聯盟に
合流した旨十一月十二日發表された。右の二大政黨とは
バ・モ博士の率ゐるシンエサ・ウンタヌ黨及びタキン・コ
ドー・マイン竝にタキン・トン・オクの率ゐるドバマ・タキ
ン聯盟の二つでその黨員は全部新しいドバマ・シンエサ
聯盟に吸収されることになつたものである。この他三大
政黨の一つであるミョー・チャット黨は黨主のウ・ソー前首
相が英國に逮捕されて以來黨員が四散して自然に解黨し

たので、ここに舊政黨は盡く解消した譯で、舊い政黨組織が今回新聯盟に全く合併されたことによつてビルマの政界は一應統一される事となつた。

復興事業計畫發表

バンゾーラ・ウ・セイン復興局長官は十一月十三日のラジオ放送で英國が百年にわたる支配の報酬として残して行つた焦土戦術の残虐極る仕打ちをビルマ人は決して忘れてはならぬと強調したのち當面の復興事業計畫を次のやうに發表した。

(イ) ラングーン、マンガレー間、サガイン、シュエボ間、マニワ、サガイン間、及びメイチラ、ミンヂヤン間の四大道路を急速に修復する。特に南北に繋ぐマンガレー、ラングーン幹線道路は食糧その他諸物資の交流をはかるため最も迅速に復興すべくその準備を進めてゐる。

(ロ) 英國の支配時代には工業、土木事業は總て請負業者に入札させ、これに莫大な利益を興へるといふ行き

方であつたが、中央行政機關は道路及び橋梁の修復を直接管理し、この事業には各地方の貧窮労働者を使用してその救済をかねて實行する。

(ハ) 従来ビルマでは、バゴダや僧院が民衆の會合場所となつてゐたが、新時代のビルマに應はしい民衆施設として近くラングーン、トンゲー、マンガレー、ビンマナ等にそれぞれ二十萬エーカーの敷地を選定し、五千人收容のスタヂアムを建設して民衆の會合場所とするほか圖書館も設備して體育及び智育の道場とすることになつた。

(ニ) 英支軍の焦土戦術で家を失ひ、建直す餘裕のない貧民に對しては五ヶ年分割償還の方法で資金の貸出を行ひ、これを助成する。

又同じく農務長官タキン・ツン・トン氏は十一月十四日の放送で農業者ビルマ當面の目標は、第一に大東亞戦争に勝つため農産物を豊富に供出することによつて日本に

協力し、第二にはビルマ自身の自給に必要な食糧を確保することにありと強調したのち、次のやうに説明した。

「本年度の米作は半年の約七割見當で、概四百萬噸と豫想されてゐるが、この他に繰越米として三百萬噸の概が残つてゐるので米は有り餘つてゐる。従来ビルマは馬鈴薯、葱頭、唐辛子等を英國から輸入してゐたが、食糧の自給體制を確立するため、現在ではこれ等野菜類もビルマ内で廣く栽培されてゐる。東亞諸國は従来エジプト及印度より棉を輸入してゐるが、その杜絶に伴ふ棉花の自給政策に應ずるため、ビルマ棉の増産計畫が成り、特にミンジヤン地方の栽培に力を入れることとなつた。一方ビルマにおける耕作の勞働力は殆ど牛馬に依存してゐるので、その保健衛生に資するため獸醫關係の活動が既に復活してをり、日本軍政當局より特に藥品の提供を受けてゐる。又耕作問題と土地問題とは相互に依存した問題なので、行政機關は最近小作人を

救済するため、昨年度の地租は徴收を免除することに決定した。本年度の地租は徴收するが、當局では新なる條件に順應して地租に關する政策及び算定制度の改正を考慮してゐる。即ち(イ)小作料を整理し(ロ)地主を保護して土地の讓渡を防止し(ハ)負債に悩む小作人を救済し、(ニ)小作地のない小作人に土地を提供し、(ホ)小作人は金融上の助成を興へるなどを考究中である。また土地及び耕作問題は相關聯してゐるので、當局では小作人救済の目的をもつて従來の信用組合を復活しつゝあり、これを直接行政機關運営下に置く方針である。信用組合はまた土地の共同作業制度樹立にも乗り出し、この制度は既にシツタン及びビン地區で採用されてゐる。當局はこの制度が相當程度まで小作人を救済し得る自信を有してをり、そしてこれをできるだけ擴大する豫定である。信用組合は小作人の利益に資するところ大なるものがあるので、今後この組合を毎

年二百五十づつ増設して行くとともに、その改善を行ふ意向である。尙、農務局の管轄となつてゐる漁業は英國時代には國庫収入の對象にすぎなかつたが、現在當局では漁油の抽出、鱈の罐詰製造、海洋漁業の三事業を大規模に行ふ意向である。(註、ビルマ近海では、蟹と蝦の漁獲が極めて豊富である。)

パ・モ長官候補生を激勵

ラングーン郊外ミンガラドンのビルマ幹部候補生隊の候補生〇名は日本軍將校指揮の下に連日猛訓練を行つてゐるが、パ・モ行政長官は十月十六日ウ・パ・ウイン教育長官等に伴ひ初めて同隊を視察した。先づ隊長から編成訓練概況を聞いたのち野外教練場で隊員の分列行進、各個教練、戦闘訓練等を檢閲、全候補生に左の訓話を行つて激勵した。

「今日始めて候補生隊を見學し非常に力強い感銘を受けた。英國の支配時代にはビルマ陸軍は解體され、軍

事訓練をやるやうな機會はなかつたが、日本の絶大な支援によつて今こそ我々はこの訓練を受けつゝある。ビルマは新しい歴史を創造せんとしてをり、諸君こそ銃と剣とを持つて、この歴史を描く人々である。諸君はこゝに列席する日本軍教官の如く立派な將校となつて、ビルマ防衛軍の中堅となり、以てビルマを防衛し東亞を防衛せよ。」

鐵道六支線復活

我が鐵道部隊はさきにラングーン、マンダレー間及びラングーン、ブロム間の幹線鐵道を復舊、これを軍用のほか一般旅客の輸送にも充てゝゐるが、十一月一日より左の六本の支線

- サガインーミトキイナ
- サガインーマニワ
- ナバーカーサ
- タジーーミンギアン

ビンマナーケンウドインギ
レトバダンカーモロ

の列車運轉を開始し何れも客車、貨物車を連結して地方民衆の交通と物資の交通に貢獻、大いに歡迎されてゐる。

印度

印度人側唯一の政局打開工作頓挫

英國側對印妥協に冷淡

ガンヂー逮捕以來、印度各地、殊にボンベイでは一日としての平靜の日なく、テロとサボタージユは漸次増加し、毎夜の如く米英兵に對する襲撃が行はれ、英國側も一時の様に事態の改善を宣傳してゐないが、他方、北阿戦局の急轉以來政治力保持に自信を回復した英國側は對印妥協に益々冷淡となつたやうに認められる。例へば、ヒンヅー・マハサバ派の運動挫折後、ラジヤゴ

バラチャリは政局打開の第一歩として回印兩教徒の提携を企圖し、去る十一月九日以來二回にわたつて回教徒聯盟のジンナーと會見、その印回兩教徒提携による國民政府樹立案は印度側唯一の政局打開工作として注目を惹いてゐるが、十一月十二日、彼がリンリスゴ印度總督との會見席上ガンヂー翁との會見許可を要請するや、リンリスゴは言下に之を拒否して彼の運動を挫折させた。印度自由聯盟總裁バハヅール、サブールは十五日、右リンリスゴ總督の態度について遺憾の意を表明した。

又、ラジヤゴバラチャリは十一月十五日サブールと會見した後、十七日一旦マドラスに向け歸還したが、出發に先だち、
「ガンヂー翁との會見は政府の峻拒により成就し得なかつたが、あくまで初志を貫徹する決心である。サブールも局面打開の爲めあらゆる努力を吝まない旨約束した。」

と述べたと傳へられる。

ジンナー、對同提議を英國に示唆

十一月十六日パンジャブ發ロイター電に依れば、回教徒聯盟總裁ジンナーは、印度臨時政府設立に關する同聯盟の提案を繰返すと共に、左の如く言明した。

「英國にして若し全印度の支持を得られないのならば、先づ回教徒一億の支持を得る事より始むべきである。」

騷擾彈壓激烈

印度の被壓迫民衆による不穩の空氣は各方面に漲つてゐるが、本年八月印度中央州チャング地區の大騷擾に際する英軍士官四名の暗殺事件に對する判決が十一月十二日ナグプール裁判所に於て發表されたところ、死刑二十名、終身刑二十六名といふ多數に上り、更にニュー・デリー來電によれば、ベンゴール州三十市町村の代表團は、苛酷な集團罰金刑に抗議するため州政廳當局に會見

を申込んだが拒否された。そのため激昂した民衆は十一月十二日遂に大示威運動を展開、参加者無慮一萬餘と軍隊との間に大衝突を惹起し、英兵の發砲によつて民衆の間から多數の負傷者を出したと傳へられる。

騷擾事件數五千二百五十三件

印度政廳は總督、各州知事を中心とする十一月二十三日、四兩日の重大會議の結果、近く治安維持に關して新法令を發布、反英暴動に對處することになった。去る八月八日ガンジー翁の不服従運動開始の宣言以來、今日までに起つた騷擾事件總數は實に五千二百五十三件、一日平均四十八件の多數に上つてゐるといはれる。

食糧不足深刻

マツクミラン英植民次官は、十一月十八日、英國議會に於て、セイロン島の食糧難に關し、同島に於ける米の供給割當量が普通消費量の三分の二に引下げられた事實を認めたとが印度國內は一般に、ビルマ喪失に依る米の供

給減に加ふるに、英國官憲がイラン其他西亞方面に食糧を大糧移出してゐる結果、食糧不足に悩んでゐる模様である。英印當局は、大部分の輸送機關が軍事に使用されてゐる爲新たな食糧配給方法を講じると共に食糧の統制を開始、最低價格を設置するなど苦慮してゐるが、しかも印度政廳の戰時輸送關係官エドワード・ペントホールは十一月二十一日生活必需品輸送のためにも考慮は拂ふが依然軍事運輸第一主義に變化はないと次の通り言明してゐる。

「現在印度國內の鐵道は専ら軍隊輸送に當てるべきであるとの強い要求があるがこの要求は恐らく今後益々切實になるであらう。従つて旅客制限は依然續行せねばならないが、生活必需品の輸送に關しては何等かの調整手段がとられると思ふ。」

濠洲

十月分戰費激増

政府當局十一月十日の發表によれば、九、十兩月の濠洲戰費は、左の通りである。

九月 四千三百萬磅
十月 一億一千六百萬磅
合計 一億五千九百萬磅

尙、右戰費中、三千萬磅のみが稅收入に依り補填され、残る一億二千九百萬磅は公債により支出されたことである。

マツクアーサー前線に到着

西南太平洋反樞軸聯合軍司令部は、十一月十七日、聯合軍總司令官マツクアーサー米陸軍大將が聯合軍地上部隊司令官ブレイミー濠洲軍大將と共に、ニューギニア島

前線司令部に到着した旨並に空軍司令官ケリー米陸軍少將が同方面聯合空軍を指揮してゐる旨發表した。

生活簡素化公債完全消化運動

總額一億磅に上る「國民生活簡素化公債」完全消化運動は、十一月一日より全国的に開始され、カーチン首相、フォード副首相、チーフリー蔵相、以下政府首脳部並にファッデン、ヒューズ、メンジス等野黨領袖總出で各地に講演會を開催、勸説に努める一方、カーチン首相の如きは、各地の雇傭主五千名及家庭百五十萬戸に勸誘狀を送る等大量の努力を續けたが、十三日に至り、チーフリー蔵相は右公債豫約額は既に一億磅を突破したと言明した。尙、右運動に關しカーチン首相は、十一月九日夜、要旨左の如きラヂオ放送を行つた。

「濠洲は完全なる準備の下に今次戦争に出發したものではない。我々は戦前迄要塞を構築する代りに家屋を建築してゐたし、又船舶及飛行機がいかに戦争に必

要であるかを全く考へてゐなかつた。濠洲國民は、敵を撃退する爲には一層多くの犠牲を負擔し、起債される限りの公債を消化し、只管勝利達成に進まなければならぬ。今や濠洲國民の打破るべく要請されてゐる記録は運動競技の記録ではなく公債消化の記録なのである。」

又、フォード副首相は、十一月十一日、メルボルンに於て、公債豫約勸誘演説を行つたが、その要旨は左の通り。
「我々は濠洲の爲に他國が戦つて呉れるなど期待してはならない。我々は自己の手で戦闘部隊を組織せねばならぬ。我々の任務はニューギニア、チモール等より敵を撃退することである。中東及ニューギニア戦線で一命を賭して戦つてゐる兵士達に比較すれば、國民諸子の犠牲の如き大したことはないのである。」

フォード陸相婦人訓練を激勵

フォード陸相は十一月四日メルボルン附近の防衛視察途次、軍事訓練場において訓練中の婦女子三百名を前に

次の如き激勵演説を行つた。

「現在戦ひつゝある濠洲強化のためには婦女子の訓練を絶対に必要とする。濠洲は戦争遂行のためには、二萬人の婦女子を必要とし、既に八百人が戦争に参加してゐる。」

カーチン首相海運難を警告

カーチン首相は、十一月十日アデレードで行つた演説の中で、聯合國の船舶喪失は莫大な數に上り濠洲の海運界は愈々窮屈になるであらうと次の如く警告した。

「濠洲は聯合國の戦争遂行のためあらゆるものを犠牲に供してゐる。刻下聯合國の最重要問題は船舶問題で、聯合國側の船舶喪失數が尨大な數字に上ることだけは斷言出来る。聯合國船舶は今後も長期間にわたり各方面の戦線へ兵員、資材等を供給しなければならぬ、従つて濠洲の海運界は愈々窮屈になるであらう。」

憲法修正會議開催

濠洲政府は、十一月二十四日よりキャンベラで、聯邦及州政府代表參集の下に、濠洲聯邦議會に廣汎なる經濟政策決定の權限を附與する憲法修正會議を開催した。

小麦收穫豫想

小麦局の十月十二日附發表によれば、今季小麦收穫豫想高は約一四、五〇〇萬ブッシュェルで收穫反別は一、一〇〇萬エーカーである。

各州別内譯は左の通り。	
ニューサウスウェールズ	四、三〇〇萬ブッシュェル
ヴィクトリア	四、〇〇〇
南オーストラリア	三、三〇〇
西オーストラリア	二、三〇〇
クィンズランド	六〇〇

尙、昨年度小麦實收高は一七、〇〇〇萬ブッシュェルで、濠洲の小麦實收高の最高記録は一九三九—四〇年度の二

一、五〇〇萬ブツシエルである。

戦時下濠洲近状概観

一、十一月月上旬の瑞典紙によれば濠洲の石炭及び鐵の生産高は左の通りである。(單位千トン)

石炭	一九三九年	一九四二年(推計)
	一四、〇〇〇	一〇、〇〇〇
鐵	一、七三〇	三、〇〇〇

このほか亞鉛、錫、タンクステン、アンチモニー、モリブデン及びアルミニウム等非鐵金屬の生産は國內軍需産業の需要を充すに十分といはれる。

二、飛行機用發動機の生産高は本年度二千個と豫想され、飛行機の生産能力は本年約一千臺と見積られてゐる。なほ戦車、戦車砲、高射砲並に砲彈等の國內生産も開始され、また建艦能力も驅逐艦級の建造一ヶ月當り約四隻の割合である。

三、軍需工業の雇傭労働者数は戦争勃發當時の一萬三千

五百人より最近では一躍五十萬五千人に増加してゐる。今日濠洲では三百四十萬人が直接或は間接に戦争

遂行と關係ある職務に服してゐると稱され、この内約六十萬人が軍務に服してゐる。本年一月より八月迄の間に新に軍需産業に轉職した労働者数は男子三十萬、同じく女子五十萬に上つてゐる。更に最近發表された勞力補給計畫によれば新たに三百二十萬の労働者を軍隊及び軍需工業に動員する筈で、この内百八十萬は民需工業より轉職せしめるものである。

四、軍需費の猛烈な膨脹により赤字は愈々増大しこのため政府は本年十二月までに一億磅、一九四三年六月までに更に二億磅の新規公債發行をなす可く餘儀なくされてゐる。

五、現在の濠洲では日常品の供給が極めて不圓滑となつてゐる。例へば化粧品、剃刀、その他家庭用具は全濠洲に互り入手が極めて困難となつて來てをり、タバコも

不足でビール酒類の生産は従來より三分一丈け減つてゐる。

しかも一般にこれ等日常品は將來更に減少を餘儀なくされるものとみられてゐる。

六、濠洲の戦時食糧制限に關しては、今の所茶が一人當り一週一オンスの割當制を布かれてゐる以外特別の制限は行はれてゐない。しかし乍ら飲食店の獻立及び價格は政府統制下に置かれ、中食は最高四志、夕食は五志に制限されてゐる。濠洲は世界有数の農業國であるが、小麥植付反別が肥料の關係で近來減少傾向にあり、又、米國兵の駐屯に伴ふ食糧需要の増加等は一つの問題とされてゐる。政府は食糧品工業を戦時下最重要工業の一つに數へ、現在の生産高を減少せしめない様努力を傾けてゐる。これは濠洲が英本國への食糧供給を引受けてゐる結果で、英本國も最近は二十萬ポンドの費用で乾燥羊肉工場を濠洲に建設、船腹節約に努める

など濠洲食糧の確保には特に力を入れてゐる。

ニュージーランド

國內情勢概観

一、十六才以上四十五才迄のニュージーランド男子中四分の一以上は兵役に動員されてをり、海外派遣兵は主として中東太平洋方面に在るが、その死傷比率は聯合國中最大といはれる。又海軍はローヤルネヴィーに参加したものを合めて約五千人、海外戦線参加飛行士は約六千人と見られ、日本の参戦以來本土防衛空軍は七倍に擴大された。

二、労働不足が甚しいにも拘らず、産業部門より十四萬人が兵役に動員されてゐる。しかし、英本國向輸出のため羊毛食料品等の増産には努力してをり、チーズの如きは二年間に八萬一千噸より十三萬一千噸に増加し

た。更に軍需工業は藥英信管は年百萬個以上の製造能力があり、その他手榴彈、カールトン自動銃、トミールガン、小型白砲、水雷敷設艦、練習機等は目下國內で製造中である。

三、本年度軍事豫算は一億三千三百萬ニュージラランド磅で、内四千四百萬磅は租稅收入により、爾餘は戰時公債の發行等により賄はれ、十月十日に一千萬磅の第一回リバティーボンドが發行された。その負擔は甚大とみられるが、國民は概して協力してゐる。

四、政界は、戰時内閣の分裂により一時波瀾を生じたが、問題は主として戰争遂行上の手段に關するものであつて、戰争完遂の目的に關しては未だ破綻を來してゐないといふとみられてゐる。

南阿聯邦

スマツツ首相歸國

スマツツ首相は、月餘に亙る英米訪問を終へ、十一月二十二日、空路カイロに到着、同二十四日ブレットリアに歸任した。

物資難深刻

南阿聯邦における必需物資の不足はいよいよ急迫を告げつゝあるが、十一月下旬、英國で物資輸送問題を協議したのち歸國した南阿聯邦鐵道大臣は船腹不足問題の重要性に關し左の如く述べた。

「南阿聯邦における物資供給の杜絶状態は異常な船腹不足の結果であり、事態はきはめて重大なものである。せめて平和時の船腹の三分一でも必需物資の輸入に充てられれば情勢は餘程緩和すると思はれるが、現

狀におしては如何ともし難し。」

カナダ

在外使臣任命

政府は十一月五日附で次の如く在外使臣の任命を發表した。

重慶駐節初代公使 陸軍少將ヱイクター・オドラム(前瀋陽駐在高等辨務官)
蘇聯駐節初代公使 貿易通商大臣代理ダナ・ウイ
チリ駐節初代公使 ウオーウィツク・チツプ
尙デーヴィス戰争事務相は、オドラムの後任として瀋陽駐在高等辨務官に任命された。

聯合國生産資源委員會に加入

十一月下旬、聯合國生産資源共同委員會にカナダが加入した旨の正式發表があつたが、その代表にはハウ軍需相が任命された。

軍用機年産能力五千臺

ハウ軍需相は、十一月十六日、華府に於ける新聞記者團會見席上、カナダは年五千臺の軍用機生産能力を有する旨發表したと傳へられる。

民間航空會社を接收

政府は民間航空會社の軍用機増産を促進するため、重要航空會社の一部を政府の手に接收することになり、十一月五日、政府より正式に次の如く發表した。

「カナダ政府は、ランカスター型爆撃機を生産能率を増進すると共に、英國に引渡すべき爆撃機の數量を増大する目的を以て、ナショナル・スチール・カー・コーポレーションの製作工場を接收することになつた。政府はランカスター型爆撃機を生産に於て今後一層英國政府と協力を續ける方針である。」

尙、ナショナル・スチール・カー・コーポレーションはオンタリオ州ハミルトン及びトロントのマルトン空港に製

作工場を有し大戦後毎年ライサンダー型軍用機二二〇をカナダ政府に、二五〇機を英國に納入してゐた。

造船能力は年四十五萬噸程度

昨年上半期に於けるカナダの近代的造船所数は、

- 太平洋岸 八、セントローレンス流域 六、大西洋岸
- 三、合計十七ヶ所

であつたが、最近の情報によれば、十八ヶ所に増加し、本年中更に五ヶ所竣工の豫定であり、他に主として修理用の小造船所が四五あるといはれる。又、カナダ本年度造船能力については、米國新聞は七十二萬噸と見込んでゐるが、労働力並に資材の不足を考慮すれば、右は過大評價で中立國筋評價四十五萬噸の程度と推定される。

鋼鐵不足

カナダにおける鋼鐵不足は、軍需生産の擴充に伴ひ最近深刻な問題となつてゐるが、右に關聯し十一月中旬英

紙ファイナンシャル・ニュースは左の如く論じてゐる。

「本年度におけるカナダの鋼鐵需要は約五百萬トンとみられるが、これに對し生産高は三百萬トンに過ぎない。この不足を補ふためにはカナダは米國に依存するほかないが、米國自體の鋼鐵供給が既に急迫してゐる現在カナダは重大危局に直面してゐるといはねばならぬ。」

労働力問題の現状

加誌マックリーン九月一日號所載ケネス・ウイルソン論說によれば同國労働力問題の現状は左の如くである。

一、開戦四周年を迎へたカナダの當面する最大の難關は労働力の不足である。NSS(ナショナル・セレクテイブ・サービス)長官リットルが、去る七月に、本年末迄に毎月五萬、總計二十五萬の労働力即ち陸空軍十五萬、軍需工場十萬の増加を必要とする旨を發表したが、それは、同國人口に比較して、相當大きな數字である上に

現在の労働力調達方法乃至機關の不備のため問題は更に困難化してゐる情勢である。そして現在の労働力分布状況は次の通りである。(單位一千人)

職別	男	女	合計
兵役	四八五	七	四九二
軍需工業	六六五	一三五	八〇〇
重要公共事業及鑛山業	三〇〇	〇	三〇〇
農業	一、一〇〇(女を除く)	一、一〇〇	
民間産業	一、三〇〇	八五〇	二、一五〇
其他	三、八五〇	九九二	四、八四二
總計			

そして死亡及隱退を控除し、また青少年子女の成年による労働力の自然増加を一ヶ月約一萬二千乃至四千と推定し、更に農業鑛山等より労働力の少數移動移入があることを見込んで、結局毎月約三萬の労働力不足は、

(イ) 浪費労働の排除

(ロ) 民需品の生産流通の削減

(ハ) 全國的基礎に於ける婦人労働力徵募

等により補填する外はなく、この中特に婦人労働力徵募に期待がかけられてゐる。NSSも現在約十三萬五千の軍需工場婦人労働力を倍加するのは大して困難ではないと觀測してゐる。

二、労働力に關する中央的統制機關の缺如は人的資源の未調査に原因してゐるが、その對策として、政府は、本年三月、前記リットルをNSS長官に任じて左記計畫の實現を圖つてゐる。

- イ、労働力の需給に關する全政府機關の立案活動成長の爲、新たに人力動員機關を設ける。
- ロ、労働省内に人的資源調査機關を設ける。
- ハ、國民失業保險組織による労働者の登録制を實施する。

ニ、國民登録機關を國防省から労働省へ移管する。

ホ、農業労働者を三月二十三日現在に凍結して、農夫、

農場被傭労働者に對して強制軍事教練を免除する。但し國防省はNSSと獨立し自發的に徴兵を行ふ。然るにこの最後の項の除外例により七、八及九月の如きは毎日約一千の労働者が兵役に徴用され、リットルNSS長官はそれを傍觀せざるを得ざる有様であつた。

農産物増産

統計局は、十一月中旬、一九四二―四三年度における同國の小麥收穫豫想高を六億七百六十八萬八千ブツシエルに達するものと發表した。右はカナダ始まつて以來の最高記録で、昨年度の實收高三億一千八百八十二萬五千ブツシエルに比し實に二倍近い激増ぶりである。なほ同局は燕麥、大麥、ライ麥及び亞麻實等の收穫見積高も發表したが左の通りである。

燕麥 六億五千九百九十七萬六千ブツシエル(昨年實收高に比し二倍以上の激増)

大麥 二億五千九百二十三萬四千ブツシエル
ライ麥 二千四百七十萬三千ブツシエル
亞麻仁 四百萬ブツシエル

備考 過去におけるカナダの小麥生産高は左の通り
(單位千ブツシエル)

一九三九―四〇年 五二〇、六二三
一九四〇―四一年 五五二、三九〇
一九四一―四二年 三二一、八二五
一九四二―四三年 六〇七、六八八(見積)

カナダ軍北阿戦へ参加

政府は、十一月二十四日、今次米英聯合軍北阿作戦にカナダ軍も参加してゐる旨次の如く發表した。

「カナダは今次聯合軍の北阿作戦にコルヴェット艦十七隻、カナダ軍部隊千二百名を派遣してゐる。」

軍事費は國民一人當り六十磅

政府は今回軍事費は國民一人當り英貨六十磅に達した

旨發表した。なほ本年中の同國軍事費だけで前大戰當時の軍事費總額をはるかに超過するものとみられてゐる。

營業凍結令

物價局は十一月一日營業凍結令を公布し即日實施した。新法令は各種營業の現状凍結を目的とするもので、その要旨は左の通りである。

一、新規營業は特別の許可を得たもの以外一切禁止する。

一、新規販路の開拓を禁止する。

一、既約品を除き仕入れ商品の貯蔵を禁止する。

銀行減配

カナダ・ロイヤル銀行は十一月上旬配當率の引下げを發表したが、カナダにおける他の大銀行も今回配當率を従來の八分より六分に引下げることに決定したといはれる。

アルゼンチン

フスト立候補聲明

親米派の巨頭である元大統領アウグスト・フストは十一月三日、明年度の大統領改選選挙に立候補する旨聲明し、併せて現大統領ラモン・カステイリヨの中立政策を攻撃した。

陸相更迭

陸相ファン・トナツシー將軍は、十一月十七日、カステイリヨ大統領の許に辭表を提出した。トナツシーは現政府反對派たるフスト元大統領の片腕と目された人物である。カステイリヨ大統領は、十一月十八日、その後任にベドロ・ラミレス將軍を起用した。新陸相は駐在武官として永く海外に在勤、昨年中將に進級して最近まで騎兵師團長の職にあつたが、嘗つて獨伊に在勤した経歴あり、

樞軸間に好意を有するものとみられてゐる。

對米回答

アルゼンチン駐米大使ノーマン・アーチャーは、アルゼンチン政府に對し米國軍の佛領北阿侵入に關し、聯合軍の新作戦は樞軸軍が北阿に進駐するのを未然に防ぐ目的のために行はれたものである旨の米國政府の通牒を傳達したが、右に對しギニアス外相は、十一月二十二日、米國務長官ヘル宛左の回答を發した。

「アルゼンチン政府は米國大使より北阿に於ける米國の軍事行動に右軍事行動が決して利己的な目的のために行はれたのではない旨の通牒に接した。アルゼンチンは米洲の安全確保のため、米國との協力を維持するものであり、よつてこゝに再び米洲の利益増進の高い理想を繰返し強調する。」

交通通信取締強化

政府は、十一月十二日、閣議の結果、國內電信電話會

社並に全國有線無線電信を統制監督下に置く大統領令施行細則を發表したが、その内容は左の通りである。

- 一、港灣關係業者、海運業者は爾後總て登録を要する。
- 一、米洲諸國の治安を害するおそれある海外宛電信、電話は禁止する。
- 一、電報使用語はスペイン語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、英語に限定する。
- 一、商社の商取引電信連絡は斡旋のみを限り許可する、一般民は發信の都度許可を要する。
- 一、秘密通信取締の爲の常設機關を設置する。

米紙輸入を禁止

政府は十一月十三日米國新聞の輸入を當分禁止する旨發表した。最近米國からアルゼンチンへ向けられた諸刊行物は著しく延着して居り、ラ・プレッサ紙も十一月十三日の紙上で米國よりのライフ、タイム、フォーチュン

各誌の到着が非常に遅れてゐると述べてゐる。

本年一月以降一般貿易狀況

政府は本年一月より十月に到る十ヶ月間の金銀塊を除く一般貿易狀況を次の如く發表した。

一九四二年	前年同期	備考
一月一〇月	備	
輸出入總額	二六、二六三	三三、〇三三
貿易入	三三、〇三三	三三、〇三三
貿易出	六、七七〇	七、〇六六
輸入数量	三三、〇三三	三三、〇三三
輸入金額	六、九三五	七、〇六六
輸出金額	三九、〇〇〇	三九、〇〇〇

尙、十月分の對外貿易は左の通りである。

米	本	日	出	入
額	額	額	額	額
一四、三、四六六	二九、七二一	六、八六九	二五、四一〇	一〇、一五三
一、〇一五	一、〇一五	一、〇一五	一、〇一五	一、〇一五

米亞船舶協定

米亞兩國間の船舶問題に關し過般ワシントンに於て原則

的協定が成立した旨傳へられてゐたが、十一月八日、アルゼンチン國有船舶局長官スチュワート中将より右協定に關し左の如き正式發表が行はれた模様である。

- 一、本協定は米亞兩國政府間の協定とせず、アルゼンチン國有船舶局と米國海事委員會との協定とする。
- 一、アルゼンチン國有船舶の七五%を米亞兩國間の貿易に専用する。
- 一、殘餘の二五%を以てアルゼンチンはチリ、ペルー、コロムビア、メキシコ其他中南米諸國との貿易に従事する。
- 一、アルゼンチン船舶は對米貿易においては主として大西洋航路を採り、一部分のみを太平洋航路に依らしめる。後者の場合はリオ・デ・ラ・プラタ並にサン・マルチン兩港よりマゼラン海峽經由ロス・アンゼルスに直航する。
- 一、開戦以來米國は中立國船舶の寄港地としてニュー・

オルリアンス並にバルチモア兩港を指定してゐたが、アルゼンチンに對しては更に右の外二港を寄港地として認める。

一、協定は即時實施されるが、アルゼンチン政府の意向によりこれを改訂することを得。

因に本協定はアルゼンチン國有船舶の大部分を對米軍需輸送にふり向け、アルゼンチンはその復航において石炭、紙類、化學製品等の物資を米國より輸入せんとする趣旨を持つものと傳へられる。

入港船舶激減

アルゼンチン諸港入港船舶数は歐洲戰爭勃發以來一時急増加を示してゐたが、アルゼンチン中央銀行發表によれば、本年は船舶不足と海上輸送困難を反映して本年一月より九月に至る九ヶ月間にアルゼンチン諸港寄港の船舶總噸数は二百五十萬グロス・トンで、前年同期の三百五十萬グロス・トンに比し激減を告げた。なほ一九三七年當

時は一ヶ年間百五十萬グロス・トンであつた。

五蜀黍の輸出制限緩和

政府は十一月月上旬玉蜀黍輸出制限を緩和し食用玉蜀黍は百キロに付二ペソ、燃料用玉蜀黍は〇・八ペソの輸出税を納入すれば自由に輸出を許可する旨公布した。

チリ

對外政策に關する大統領聲明

リオス大統領は、十一月二十三日、對外政策に關する聲明を發表したが、その全文は左の通りである。(國際時報中「アルゼンチン及びチリの中立維持と米國の策動」参照)

「國際問題に關するチリの立場、大統領の米國訪問旅行、及び樞軸國との外交及通商關係斷絶を意味する決定を避ける爲に、他國との約束の存在、斷交の際執

べき國內的措置等について多種多様の論議が國の内外に於て行はれてゐるが、此等の問題を論議する者が前記諸問題を主に想像、謀略又は悪意の宣傳等に基づいて論議する権利がある様に考へてゐるので、余は此等の議論を終結せしめ且又この問題に對する全チリ人の輿論を完全に一致せしめる爲に、一般に國際問題については稀有のことであるが、余の習慣とする率直を以て、前記諸問題に關するチリ政府特に大統領の意嚮を表明しようと思ふ。余は國家全體の利害に關する事項は舊式外交様式、陰謀等に依り秘密裡に取扱はるべきではなく白日の下に眞摯且率直に取扱はるべきものと思ふ。先づ余はチリの國際的地位は余が共和國元首に就任以來表明してきた如く、デモクラシー擁護、大陸協同及米洲防衛の大主義に誠心協力することであることを宣言する。

敘上の立場に基き智利は、凡ての米洲國に對し「非

交戰國」の地位を許與したのであるが、これはチリは是等諸國を交戰國と認めず且は是等諸國に對し中立に非ざることを意味するものである。即ち是等諸國の船舶はチリの港に寄港し必要な補給をなし又必要なる期間中碇泊することを得るのみならず、其の外交官領事官はチリ國內で活動する爲最大の自由を有してゐる。チリは、樞軸國に對しては、これと異り、中立であつて、中立に關する國際法の規定を嚴重に適用するものである。チリの硝石、銅、滿俺、其の他戰爭の遂行に不可欠なる爲戰時禁制品と認められてゐる重要礦物は、凡て米國又はチリ船に依り米國に送られてゐるが、今日迄パナマ運河の南方太平洋沿岸海面における航行には些かの故障も蒙つてゐない。チリの技師、使用人及労働者の熱誠且秩序ある協力によりチリは前記礦物其の他の必要物資の生産を促進しつつあるから米國の一層有效なる援助でチリは近く米

國のみならず他の米洲諸國に對しても、此等の物資を送ることができると思ふ。チリは最大の努力で能ふ限りデモクラシー諸國特に米洲諸國の活動に何等かの形式で有害な一切の反動的及隱微行為の抑壓に當つてゐる。この爲余は今回國會に對し現在のチリの法律では處罰し得ない此等の行為を、嚴重に處罰する爲の緊急法案を提出した。チリは紋上の法案の採擇に至る迄、權限の許す範圍内で全ての外國通信に對し廣範且嚴重な取締をなし、チリの取る立場に反するいかなる通信も、國外に出ることを許さない。若しこの主義の擁護上更に余がこれ以上の措置を採ることを必要とすればチリは右措置を採るの用意がある。又若しチリ一國家及米洲大陸の利益上必要とあらば「樞軸國」との外交關係斷絶をも行はんとするものである。然しこの様な措置を採ることは「樞軸國」が既に宣言し、且實行してきた如く、事實上我國を參戰させる意味とな

るから、政府の義務として、豫め國內經濟及國內體制の防衛は素よりマゼラン海峡に至る長大な沿岸防備上の各種の措置を採る必要がある。若し斯くの如き不可缺の措置を採らずに參戰することは愚の骨頂であり、この措置は即ち我國を「戰爭體勢」下に置くもので幾十億の國帑が必要であり、このため國家に大なる犠牲を要求するばかりでなく、チリの諸活動を「戰時狀態」の取締下に置き、チリのデモクラシー體制の自由なる發達に大なる危險を招來するものである。更にチリ一國民及爲政者は、極端に國家の主權と尊嚴を尊重するが故に、外部よりの攻撃に對しては、チリ人自ら防禦に當るものであり、いかなる友好國でも外敵に對するチリ一防衛に藉口し、チリ一國土のいかなる部分をも占領することは斷じて許容しないであらう。

余の米國訪問旅行は周知の理由で、延期を決定したが、右訪問は兩國元首が適當と信する期日迄實現され

ないであらう。他面余は右旅行が米國及其他の米洲諸國と卒直且眞摯なる了解を得る爲に不可缺なものとは思考しないが、ルーズヴェルト大統領が「殆んど總ての問題は個人的會見により、又米國の所謂個人的友人として卓を圍むことにより解決され得るであらう」と述べた如く、訪問の適當なことは認めてゐる。チリ一政府を困難に陥れ、之を一定の方向に強制的に向はせようとする一部の者が、惡意を以て、チリはその外交政策の方向轉換を阻止するが如き「秘密協定」で他の米洲諸國と結ばれてゐる、と繰返し唱へて居るが、余は大統領としての威嚴を以て、斯かる憶測は全く虚偽であることを全米洲諸國の面前で宣言するものである。チリ一國民及びその政府が公に其の友情を表示する時には卒直且眞摯なる方法で行ふものであつて、何人もチリの行為の或るものが不誠實若しは反逆を包含してゐると思考する權利はない。余は本聲明によつて、チリ一全國

及米洲の友人に對し、チリの眞の國際的地位がいかなるものであるかを知らしめ、且又チリが米洲大陸共通の主義を防衛する爲に、最大の犠牲を覺悟してゐることを知らしめる爲に、本聲明を公表せんとするものである。余はチリの神聖な利益より發した熱望のみに従ふ總てのチリ一人が、現状で余に追隨すると共に、將來チリ一及米洲の利益防衛の爲に方向轉換を必要とするときでも、亦同じく余に従ふことを信するものである。蓋しチリ一國民は、余が國家の權威を擁護する爲、いかなる種類の壓迫又は威嚇をも容認することなく、誠心誠意行動することを知つてゐるからである。」

緊急法施行細則公布

政府は十一月十七日附の大統領令で緊急法第二十三條の施行細則を制定して二十七日に公布した。

要點は左の通りである。

一、緊急地帯とは外敵侵略又は怠業行為の危險ある場合

大統領が當該地帯として宣言するものを指す。

二、緊急地帯は各場合に應じ軍管轄區又は要港司令官の配下に屬し、右軍司令官は軍事行政上の指揮權を掌握する。

三、緊急地帯に於ける行政官憲は軍司令官に從屬して其の職務を續行する。

四、軍司令官は大統領の命に依り出版個人及集會の自由を其の一部又は全部に付制限し得。

五、軍司令官は個人の移轉又は逮捕の爲必要な法令發出方を大統領に要請し得。

中立堅持法案を提出

政府は十一月二十二日議會に對し次の中立堅持法案を提出した。

一、チリー國民にして交戰國の一方を利益し又は妨害する行爲を敢てし、チリーの中立を阻害する場合には強制勞役を課す。

一、特に無檢閲新聞報道、軍事地域への接近、軍需工業施設の撮影等は嚴重に取締る。

在ヴィシー外交使臣引揚

外務省は十一月二十九日ヴィシーから外交使臣を引揚げる旨左の通り發表した。

「獨軍のフランス非占領地帯進駐の結果最早ヴィシーに外交代表を駐在せしめる必要が存在しなくなつたため、チリー政府は、ヴィシー駐劄チリー代理公使並に公使館員に對しヴィシーからスペインに引揚げるやう訓令した。」

智外相聲明

外務省は、十一月二十九日、ヴィシーから外交使臣を引揚げる旨發表したが、右に關しフェルナンデス外相は特に次の様な聲明を發表した。

「チリー外交使臣のヴィシー引揚げは、チリーとフランスの外交關係斷絶を意味するものではなく、フランス

スに對するチリーの外交問題は現在ベルリンにあるチリー大使館で圓滑に處理されてゐる。」

ブラジル

對佛斷交

政府は、十一月十四日、佛國ヴィシー政府との外交關係を斷絶した。

伯國ド・ゴール派聲明

在ブラジルド・ゴール派代表アルベル・ルドンは、十一月十九日、ダルラン派の佛領北阿新政權との提携を拒否する旨左の通り聲明した。

「我々はフランス國民から裏切者の烙印を押された軍事的又は政治的指導者とは斷じて協定を締結しない。北阿の事態は軍事的及び政治的の兩角度から觀察されなければならず、ド・ゴール派は軍事的には北阿にお

いて聯合軍に對しあらゆる支持を惜しまない。しかしこのことは政治的分野における妥協を意味するものではない。」

新通貨採用を實施

政府は過般從來の同國通貨ミルレイス貨を廢貨とし、新たにクルセイロ貨を發行することに決したが、右兩通貨の切替へは愈々十一月一日より實施されることになつた。新クルセイロ貨流通に關する條件は左の如くである。

- 一、一クルセイロは一ミルレイスと等價なること。
 - 二、一クルセイロは十進法を採用し、五十仙、二十仙、十仙、及び一仙等の新補助貨に再分されること。
 - 三、クルセイロ單位の硬貨及び紙幣は漸進的にミルレイス貨に代つて流通せしめられること。
- なほ政府當局は大眾が新通貨に馴れるやうに既にミルレイス紙幣の一部をクルセイロに換算、紙幣面に當該價

値を印刷発行してゐる。

ガソリン特別増配

政府は曩に一般消費者に對するガソリン配給を極度に切詰めたが、これがため輸送機關に多大の支障を來し、同國各都市向け食糧品供給は最近殆ど杜絶状態となつてゐる。かゝる危局に對處するため同國經濟調整官ルイス・デ・パロスは、十一月中旬、食料品配給業者並に鐵道會社に對しては燃料の特別増配をなす旨發表した。

ボリヴァイア

内閣總辭職

ボリヴァイア内閣は十一月十九日夜總辭職を決行した。

聯立内閣成立

新内閣は十一月二十二日成立したが、首相には自由黨首領トマス・エリオが就任し外相を兼攝することになつ

た。

尙新内閣は自由黨、社會黨、共和黨並に獨立黨を含む

聯立内閣である。

新内閣の顔觸れは左の通りである。

- 大統領 エンリケ・ベニヤランダ
- 首相 トマス・マヌエル・エリオ
- 外相 ベドロ・シルベルチアルセ
- 内相 ホアキン・エスバダ
- 國防相 ミグエル・カンディタ將軍
- 經濟相 アルベルト・クレスポ・グチエレス
- 土木相 フリオ・サンヒネス將軍
- 勞働相 フアン・マヌエル・バルカサル
- 文相 ルベン・テラス
- 農相 アルトゥーロ・ガリンド

米ボ經濟協定上院通過

米ボ經濟協力協定は、十一月二十六日、上院を通過し

た。この協定の骨子は、米國は輸出入銀行を通じて年利四分で三千万弗をボリヴァイアに貸與するが、この融資の使用は道路の建設、農業、石油業、工業助長等に限定したもので、この資金及事業の運営はボ米兩國より各三名の顧問を出した勸業局が當るものである。

上半期對米ゴム輸出千餘噸

ボリヴァイアは本年上半期において米國に千二百二十噸、アルゼンチンに七百二十噸、チリに百二十噸のゴムを輸出したと傳へられる。

エクアドル

大統領訪米

大統領アロヨ・デルリオは、十一月二十二日、空路華府着、二十三日夜、ホワイト・ハウスに於てルーズヴェルト米大統領と會見した。

對佛斷交

コロンビヤ

コロンビヤ政府は、十一月二十六日、ボコダ駐劄ヴェイシー外交代表チオルジュ・エリオ氏を否認する旨聲明した。

ヴェネズエラ

對佛斷交

ヴェネズエラ政府はヴェイシーに駐劄するヴェネズエラ外交官に對し本國歸還の訓電を發した。かくてヴェネズエラ國は事實上佛政府と國交關係を斷絶した。

メキシコ

男子登録令

國防省は、十一月六日、十八歳以上の全メキシコ人男子に對し十一月十五日までに陸軍へ登録するやう命令を發した。

對佛斷交

大統領アヴィラ・カマチョは佛國ヴィシー政府との國交を斷絶した旨十一月九日夜發表した。

駐米大使歸國

駐米メキシコ大使ラモン・テヘラは懸案の米墨新通商條約締結交渉につきカマチョ大統領と打合せのため、十一月八日、メキシコ市に歸着した。

パナマ

對佛斷交

政府は、十一月十三日、佛國ヴィシー政府との國交を斷絶した。

ホンジュラス

對佛斷交

政府は、十一月十四日、佛國ヴィシー政府との國交を斷絶した旨發表した。

サルヴァドル

對佛斷交

政府は、十一月十四日、佛國ヴィシー政府との國交を斷絶した旨發表した。

キューバ

對佛斷交

政府は、十一月十日、佛國ヴィシー政府との國交を斷絶した。

絶した。

徵兵法案成立

議會は、十一月十八日、徵兵法案を可決、大統領は直ちに同法案に署名をした。

船腹不足で砂糖輸出杜絶

カリブ海方面の海上輸送難は船腹不足と相俟つて愈々甚だしいものがあるが、十一月第二週中の如きキューバより米國への砂糖輸出は完全に杜絶した。キューバは對米砂糖供給の中心地であり、かかる情勢が米國の砂糖不足に拍車をかけてゐることは勿論である。

スペイン

北阿形勢靜觀に決定

米英兩國は、佛領北阿進駐と同時に、スペインの領土、權益尊重を夫々通告したが、政府は同日直ちに緊急

閣議を開き、取敢へず形勢靜觀に決した。

局部的動員令發布

政府は、十一月十九日附官報を以て、本月十六日制定した局部的動員令を發布した。其の發布要旨は、今次大戦争は最近急激に西班牙本土植民地及保護領近くに波及して來たので、將來の緊急事態に備へ其の主權を保護し、且國內維持の爲に、農工及經濟並に國家復興制度に影響を與へない範圍内で動員を實施しようといふにある。

第一條 陸海軍大臣に對して其の管轄下の部隊の補充且補強に必要と認められる軍の局部的動員を命ずる權限、並に補充後備將校及軍人を召集する權限を與へる。

第二條 本動員に關聯して必要な經費は特別支出を行ふ。

動員兵數四十五、六萬

政府は西地中海の情勢緊迫に鑑み、十一月二十六日附

を以て、九三八一四一各年度兵を動員した。この人数は
大體四十五、六萬とみられてゐる。

又、政府は、同日、一九一七年—二〇年までの間に生
れたスペイン壯丁で目下軍務に服してゐない者に對し、
速かに軍當局に届出でる様布告した。

軍需工業動員令公布

政府は、十一月二十九日附官報で、軍需工業動員令を
公表したが、同法令により、フランコ總統は、戦時若し
くは平時において緊急の必要がある場合、軍需工業諸施設
竝にその従業員を動員できることとなつた。

フランコへ黨改組

フランコ總統は、十一月二十三日、フアランへ黨全國
會議の全面的改組を斷行し、九十五名の新議員を任命し
た。フアランへ黨はスペインにおける事實上の獨裁機關
で、政府が中立政策の強化に努めてゐる折柄今次の改組
は注目されてゐる。新全國會議は來る十二月八日初會議

を開催する豫定であるが、その主要構成員は次の通りで
ある。

フランコ總統、黨書記長竝に副書記長、全閣員、國
會議長、黨軍司令官、中央代議員竝に八大地方支部長、
前線議員、(青衣部隊司令官ミノス・グランデ將軍、
前外相セナノ・スニエル氏、前駐獨大使ミヤルデ伯)

共產黨員逮捕

警察當局は最近蠢動を開始した共產黨分子の本據を襲
ひ、十一月二十五日、黨員十七名を逮捕した。

尙スペイン内亂後フランス國內に亡命してゐた元スベ
イン赤色政權大統領フランシスコ・ラルゴ・カバリエー
ロ及び元スペイン首相サンチャゴ・カサレス・キロカは樞
軸軍のフランス非占領地帯進駐直後樞軸軍の手により逮
捕されてゐたが、十一月十六日、フランスとスペインと
の國境に近い小都ワイフェラスでスペイン官憲の手に引
渡され、軍法會議に付されることになつた。

西領モロッコ緊張

西領モロッコ總督オルガス・ヨルデイ將軍は、十一月十
三日、西領モロッコの住民に對し事態緊迫の折柄輕率妄
動を慎しむべき旨の布告を發した。要旨左の通り。
「大戰の戦火は今や西領モロッコの周邊にまで及んだ。

この危機に際會していやくも西領モロッコの治安を
亂す如き行爲ある者に對しては斷乎たる措置をもつて
臨むであらう。また今後領内の治安が危殆に瀕する惧
れある場合は余は直ちに必要の措置に出るであらう。」

又、モロッコ、メリヤ駐屯のスペイン第十軍團司令官ヤ
グエ將軍は十七日フランコ總統と會見即日歸任したが、
一方陸相アセンシオ將軍は、スペイン領モロッコ各要衝
の軍事施設を巡視した後、十一月十九日同地方の防衛措
置は著しく強化されたと聲明した。

不時着英米飛行士を抑留

米英空軍のポルトガル竝にスペインの中立侵犯は最近

特に著しく、中立政策を堅持する兩國朝野の憤激を買つ

てゐるが、スペイン政府はスペイン領モロッコに不時着
した聯合國飛行士六十名を同地において目下抑留處分に
附してゐる旨十一月二十日發表した。

ポルトガル

米英空軍の中立侵犯に抗議

米英兩國が佛領北阿上陸作戦に際し、十一月八日、ポ
ルトガルの領土保全を保障した結果、ポルトガル朝野は
安堵の色を示したが、その後米英軍用機が同國領土を頻
繁に通過南下するため、政府は、二十四日、領空侵犯へ
の抗議を提出したと傳へられる。

公使館を増設

政府は左記諸都市に公使館を設置する旨十一月二十六
日附官報で發表した。

ダブリン(アイルランド)カイロ(エジプト)カラカス(ヴェネズエラ)リマ(ペルー)メキシコ市(メキシコ)

海軍整備令

西地中海の情勢緊迫に鑑みポルトガル政府は、十一月二十八日、海軍力整備に関する法令を公布した。法令の要旨次の通りである。

- 一、新たに海軍準備隊を編成し海相が緊急と認める場合、随時召集する権限を賦與する。
- 一、海相は又緊急の場合、商船、漁船、救助艇その他ポルトガル國に登録された船舶、無線放送局及び無線方向探知所等を徴用することを得。

スエーデン

外相中立堅持強調

外相クリスチャン・ギューンタは、十一月七日、議

會でスエーデン政府の外交方針を闡明し、飽くまで中立政策を堅持する旨強調、次の通り述べた。

「刻下の情勢は前途益々憂慮すべきものがあるが、スエーデンは有効な措置と不變の團結とをもつて来るべき困難に備へなければならない。スエーデン政府は現在の中立政策を飽くまで堅持する方針で、戦局にいかなる變化が生じようともこの政策は不動であらう。とはいへスエーデン政府は北方の隣國に對し深甚な同情を寄せてをり、ソヴェート政府屢次の見解表明に鑑み、スカンディナヴィア諸國の一員たるフィンランドの自由に對しスエーデンが有する關心を茲に再び強調するのも無益ではなからう。現在スエーデン國內には世界最大の言論の自由が存在するため、若干の新聞が反獨的な言辭を吐いたこともあるが、スエーデン國民の一般的傾向を反映するものではなく、更にこの種の新聞に對しては沒收、其他適切な措置を講じてゐる。スエーデン政府はノル

ウェーに對しても多大の同情を感じてゐるが、中立政策を棄て、援助しようとは絶対に考へてゐない。」

公定價格制度實施

政府は國內物價並に貨銀の安定化を圖るため、國産品及び輸入品に對し公定價格制度を實施することに決定、十一月一日より實施した。

フィンランド

藏相財政演說要旨

フィンランドの財政經濟に關して、大藏大臣が十一月六日中央商工會議所で演說を行つたが、その要旨は次の通りである。

- 一、現下の勞働力及原料不足のため、今冬事業を停止する工場が出來、又一般取引は困難な状態である。
- 二、國防費は一九四一年一三八億フィンランド・マルク

(邦貨約十三億八千萬圓)で全歳出の六六%に當る。歳出入の關係は、一九四〇年歳入は、歳出の約三分の一を満すに過ぎなかつたが、一九四一年には五二%に達し、又、本年七月より九月には六九%に達して來た。

- 三、國債は去る九月末現在三五二億フィンランド・マルクに及び、この中三八%は國立フィンランド銀行の負擔となつてゐる。又、短期國債に屬するものが二七%あるが、これも漸次長期債に肩替りしてをり、對芬銀行債務も比較的縮減してゐる傾向である。
- 四、要するに財務状態は、先づ良好であつて、來年度國家經濟は多額の歳出によつて困難は免れないが、幸ひ財政の基礎が強固であるため、前大戦中に經驗した様な極度のインフレーションには至らない。

食糧問題好轉

フィンランド軍民の食糧不足については、伯林で獨芬兩政府間に協定ができて、フィンランドは、必要な穀物

馬鈴薯及び砂糖の不足量を獨逸又は獨逸側を通じてデンマークより輸入できることになった。このためフィンランドのパン割當率は、十一月四日以降、獨逸と同様になるが、それは本年の收穫が良好であつたことにもよる。更に東カレリア地方が、今次戦争により回復し、この地方の開発に伴つて、食糧問題は漸次改善されたものとみられる。

尙、煙草の供給は、ブルガリアとのバーター制協定で統制して、十一月以降は現在の割當量細巻一日三本の倍量が供給されることになった。

又、豚肉及牛肉類は一切缺乏してゐて、鶏肉が少々年に入る程度であり、バター類は獨逸の三分の一程度で、食糧難の域を未だ脱してゐない。

日本研空熱益々旺盛

フィンランド朝野の本邦研究熱は、最近益々旺盛となつた。開戦以來閉鎖状態にあるヘルシンキの大學が十一

月始め再開されたが、その日本文化講座は男女學生が聴講して居り、一方駐日初代芬蘭公使であつたオラムステッド教授は現在日芬協會長であるが、本邦に關する地方講演會に招待を受けて、東奔西走してゐる。

又、フィンランド有数の詩人たるマンネネンの令息は、新渡戸博士の武士道を芬語譯して初版を忽ち賣盡し、再版にかゝつてゐる有様である。

デンマーク

新内閣成立

ブル内閣は十一月九日總辭職を執行、十一月十日、新首相としてスカヴェニウス氏が任命された、新内閣の顔觸次の通り。

首相兼外相 スカヴェニウス
陸相 プロルセン・ヴェンストレ

法相

ツィネ・ヤコブセン

商工海運相

ハルフダン・ヘンドリックセン

農相

ボルディング

公共事業相

グンナル・ラールセン

労働相

キヤルビヨール

内相

ヨルゲンセン

教會相

クラীগ・ホルビヨル

藏相

コフベオ

文相

ヒヨイベルグ・クリステンセン

交通相

エルガラード

社會相

ラウリッツ・ハンセン

尙、新閣員は社民黨三、新黨二、保守黨一、自由黨二、非政黨員五の割合となり、その政策はより一層獨逸の方針に即應して行くものとみられてゐたが、十一月十日夜、次の如き施政方針を發表した。

「新内閣はドイツとの善隣關係を強化することを最も

重要な政治的責務と思惟する。」

スイス

佛經由郵便物を停止

逓信當局は、樞軸軍の南佛進駐に鑑み、列國との郵便物取扱制限に關し、十一月十四日、次の如き布告を發した。

一、スイス國內よりフランス經由海外遠隔地並びにスペイン、ポルトガル、英國及びアイルランド向け各種郵便物は別段の指示ある迄一切取扱ひを停止する。

一、但しフランス向け郵便の取扱ひは當分従前通り繼續する。

關稅收入減少

十月中のスイス關稅收入は千四十萬スイス・フランとなり、九月の千二百萬、昨年十月の千八百八十萬に比し夫々減少を示した。尙本年一十月の關稅收入累計は一億二

千三百三十萬スイスフランであるが、昨年同期累計は一億三千三百三十萬フランであつた。

トルコ

大統領中立危機を警告

イノニュー大統領は、十一月一日、國民議會開院式に於て恆例の施政演説を行ひ、對外關係に關し次の如き言説をなした。

「世界戦争今日迄の情勢に徴し今後更に慘劇が繼續されるであらうが、結局に於て我等の理想たる大小民族の權威ある獨立が承認されるに至るものと觀察される。尙今日何れの方面にも平和の曙光の認むべきものなく一九四三年は更に戦争の擴大を豫想しないわけにはいかない。吾人は今後と雖も誠實に嚴正中立の態度を維持せんとするのは勿論であるが、今日程土耳其が

戦争の危険に曝されるに至つたことがないのは注意を要する。」

首相經濟對策を提示

サラジヨグル首相は、十一月十一日、議會において國內經濟情勢を展覧、戦争勃發以來同國の經驗し來つた諸困難について述べ、これが對策に言及してゐる。その要旨は左の通りである。

「戦争がトルコ經濟に與へる影響は益々重大化しつつあるが、海外よりの物資補給は杜絶状態にあり、これがため戦前に貯蔵されてゐた物資は殆ど消費し盡されんとしてゐる。この結果他面においては國內生産の増加が必要となり自給自足經濟の確立が目下の中心目標となつてゐる。

國內物價は從來までのところ昂騰の一途を辿つてをり、その安定及び物資供給確保のため採用し來つた諸方策も必ずしも効果をあげてゐない。政府は今回かか

る情勢に鑑み勤勞階級等百五十萬人に對して日常必要物資の優先配給を實施すると共に買入れ價格をも引下げんと計畫してゐる。

前收穫期における穀類生産高は七百萬トンと推計され、その内政府によつて收用された分は百五十萬トンであつた。しかるに實際に引渡された額は六十萬トンに過ぎない。一方海外よりの穀物輸入は船腹不足のため激減を示し、同期間内に米英兩國よりの着荷高は三萬トンであつた。今の所將來の輸入見透しは全然ついてゐない。穀物以外の重要食糧品例へばマリープ油の如きも殆んど同様の逼迫状態にある。

政府は國庫收入の増加を計るため、年收益五百トルコ磅以上をあげてゐる商人に對する課税を増加すると共に、大地主、大農家に對しては大巾の増税を行ふ豫定である。また一九三九年以降に取得した資産に對し總括的に新税を賦課する計畫である。」

新稅查定の爲全國金庫封印

政府は財政難に對處するため、今回一九三九年以降に國民の取得した資産に對し總括的に新税を賦課するに決定したが、右査定のため政府は全國における金庫封印令を發した。

アフガニスタン

皇太子殿下薨去

皇太子モハメッド・アクバル・ハン殿下には、十一月二十六日、薨去あらせられ、御葬儀は古來の慣習により即日執り行はれた。

昭和十七年十二月十八日印刷
昭和十七年十二月二十日發行

(非賣品)

情報局

印刷者 内閣印刷局

